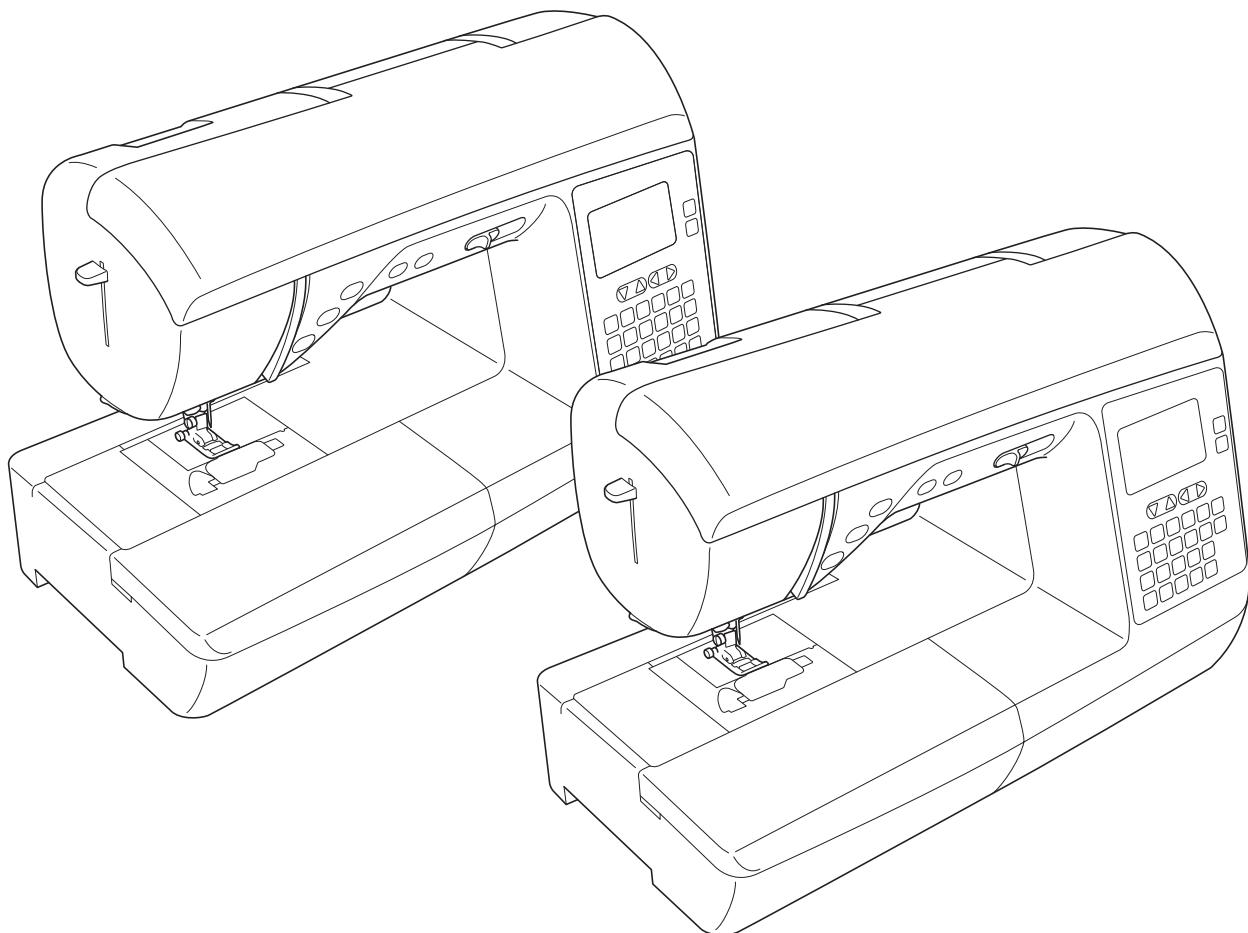


brother

取扱説明書

コンピューターミシン

CPF20 / CPF30 シリーズ



- ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
- 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

はじめに

この度は、本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、本取扱説明書で機能や使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。
また、お読みになった後はいつでもご覧になれるところに保証書とともに保管してください。

安全にお使いいただくために

本取扱説明書およびミシンで使用されている表示や絵文字は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。

	警 告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
	注 意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用されている絵文字の意味は次のとおりです。

	特定しない 禁止事項		特定しない 義務行為		感電の危険が あります
	分解しては いけません		電源プラグを 抜いてください		火災の危険が あります
	水に濡らしては いけません		特定しない 危険通告		針の下に指を入れない でください

本製品を安全にお使いいただくために、以下の事柄を守ってください。

警 告	
	一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。 火災・感電・故障の原因となります。
	以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 火災・感電・故障の原因となります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・使用中に停電したとき ・接触不良、断線などで正常に動作しないとき ・雷が鳴りはじめたとき

！注 意	
	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

! 注意

	電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。 電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	電源コードは、赤い印以上に引き出さないでください。
	長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
	直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は 0 ~ 40 °C です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。
	火の気のあるもののそばでは使用しないでください。（火の消えていないたばこ、ろうそくなど）火災の原因となります。
	野外でのご使用は避けてください。雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。また濡れたときはお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	温度や湿度の高い所でのご使用や保管は避けてください。
	スプレー製品などを使用する部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。
	ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。 ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。
	ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から 30cm 以上離して使用してください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。
 	ミシン本体の上に花びんや水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
 	ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	ミシン本体の重さは約 9.5kg あります。ミシン本体を持ち運びする際は急激または、不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。
	以下の場所に設置、保管をしないでください。故障の原因になります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 温度が著しく高くなる場所 ・ 温度が著しく低くなる場所 ・ 急激に温度が変化する場所 ・ 湿気、湯気の多い場所 ・ 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所 ・ 屋外や直射日光の当たる場所 ・ ほこり、油煙の多い場所
	ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべて落したりして、けがの原因となります。

! 注意

	ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するだけが・故障の原因となります。
	お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電およびけがの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」にご依頼ください。
	取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。けが・感電の原因となります。
	<u>ミシン操作中は、針の動きに十分ご注意ください。また、針、ブーリー、てんびんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。</u> けがの原因となります。
	リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべてのときに行がをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。
	針や押えなどの交換およびそのほかの機能に関する使用については、取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。
	縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。けが・針折れの原因となります。
	<u>針の下などに指を入れないでください。</u> けがをするおそれがあります。
	上糸、下糸などに関する操作については、取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみなどが発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
	曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
	万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
	本製品が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。
	お子様の玩具として使用しないでください。お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは、お子様がけがをしないよう十分注意してください。
	フットコントローラーの上に物をのせないでください。けが・故障の原因となります。

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
- 職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障がいを持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- お子様が使用するときは、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

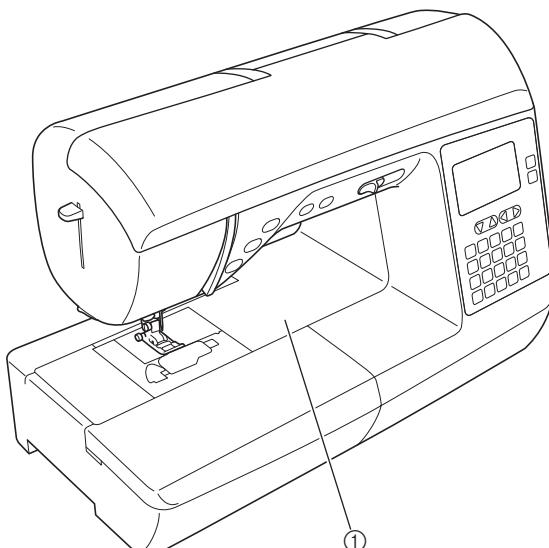
警告ラベルについて

ミシン本体には下記の警告ラベルが表示されています。

警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。

また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。

万ーラベルがはがれていたり、読みとれなくなった場合は速やかに「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。



① ラベルの場所

この説明書について

この取扱説明書は、CPF20 シリーズおよび CPF30 シリーズについて記載されています。
シリーズによって製品の仕様が異なりますので、本書を読むときにご注意ください。

このミシンでできること

B 基本機能編

本機をご使用になる前に、「基本機能編」をお読みください。ここでは、基本的な準備の手順や、基本的なぬい方、本機の便利な機能を説明しています。

第1章 紗う前の準備

ミシンの基本的な操作方法を説明します。

[B-2 ページ](#)

第2章 基本のぬい方

ぬう前に必要な準備と基本的なぬい方を説明します。

[B-28 ページ](#)

S 実用ぬい編

ここでは実用ぬいのさまざまな機能をご紹介しています。基本的な縫製だけでなく、筒ものぬいやボタン穴かがりなど、本機をもっと活用したいときの詳しい操作方法を知ることができます。

第1章 きれいに仕上げるために

上手にぬうコツやさまざまな布地をぬうコツなどを説明します。

[S-2 ページ](#)

第2章 いろいろなぬい方

内蔵模様の使い方を紹介します。

[S-6 ページ](#)

A 付録

ここでは、本機の操作をする上で重要な情報をご紹介しています。

第1章 お手入れ／困ったときには

ミシンのお手入れ、困ったときの対処方法などを紹介します。

[A-2 ページ](#)

目次

安全にお使いいただくために	i
警告ラベルについて	iv
この説明書について	v
このミシンでできること	v

B 基本機能編

第1章 ぬう前の準備	2
各部の名称とはたらき	2
主要部	2
針と押え部分	3
操作スイッチ	3
操作パネルと操作キー	4
補助テーブル	4
付属品	5
別売品	5
電源の入れ方	6
電源を入れる	7
電源を切る	7
ミシンを初めて使うとき	7
液晶画面	8
液晶画面の見方	8
設定画面	9
表示言語を設定する	11
操作キーの感度を調節する	11
下糸の準備	12
下糸を巻く	12
下糸をセットする	15
上糸通し	18
上糸を通す	18
針に糸を通す	20
手で針に糸を通すとき	21
下糸を引き出す	22
針の交換	23
布地と糸の種類による針の使い分け	23
正しい針の見分け方	24
針の交換	24
押えの交換	26
押えを交換する	26
押えホルダーを取り外す／取り付ける	27
第2章 基本のぬい方	28
ぬってみましょう	28
模様を選択する	28
模様をぬう	29
返しない／止めぬいをする	31
自動で返しない／止めぬいをする	31
自動で糸を切る	32
模様の設定	34
振り幅を調節する	34
ぬい目の長さを調節する	34
糸調子を調節する	35
模様の設定を記憶させる (CPF30 シリーズのみ)	36
ぬい方早見表	37
S 実用ぬい編	
第1章 きれいに仕上げるために	2
上手にぬうコツ	2
試しないをする	2
ぬう方向を変える	2

カーブをぬう	2
筒ものをぬう	2
ぬいしろの幅をそろえる	3
押え圧を調節する	3
いろいろな素材をぬう	4
厚い布地をぬう	4
薄い布地をぬう	4
伸びる布地をぬう	5
ビニールや皮革をぬう	5
面ファスナー (マジックテープ®) をぬう	5

第2章 いろいろなぬい方	6
布をぬい合わせる	6
すそ上げをする	7
布端を始末する	10
たち目かがり押え <G> を使うたち目かがり	10
ジグザグ押え <J> を使うたち目かがり	11
ボタン穴かがり	12
ファスナーつけ	16
つき合わせ	16
片返し	17
伸びる布地やゴムテープをぬう	20
伸縮ぬい	20
ゴムテープつけ	20
アップリケ／パッチワーク／キルトぬい	22
アップリケ	22
パッチワーク (クレイジーキルト)	23
ピーシング	23
キルティング	24
フリーーションキルト	25
振り幅コントロールを使用したサテンぬい	26
丈夫にしたいところをぬう	27
3重ぬい	27
かんどめ (CPF30 シリーズのみ)	27
つくりいぬい (ダーニング) (CPF30 シリーズのみ)	28
飾りぬいをする	30
ファゴティング	30
スカラップ (CPF30 シリーズのみ)	31
スマッキング	31
ヘアルーム (CPF30 シリーズのみ)	32

A 付録

第1章 お手入れ／困ったときには	2
お手入れのしかた	2
注油に関して	2
ミシンを保管するときのご注意	2
画面の汚れの掃除	2
ミシンの汚れの掃除	2
かまの掃除	2
困ったとき	4
よくあるご相談	4
上糸がつる	4
布裏で糸がからまる	5
糸調子が合わない	6
布がミシンに入り込んでとれなくなった	7
ボビン受け座の下に糸がからまってしまった	10
こんなときは	12
エラーメッセージ	16
電子音	18
液晶画面に何も表示されないとき	18
仕様	18
索引	19



基本機能編

ここでは、基本的な準備の手順や、基本的なぬい方、本機の便利な機能を説明します。
ページ数は、「B」の記号で始まります。

第1章 ぬう前の準備..... B-2

第2章 基本のぬい方..... B-28

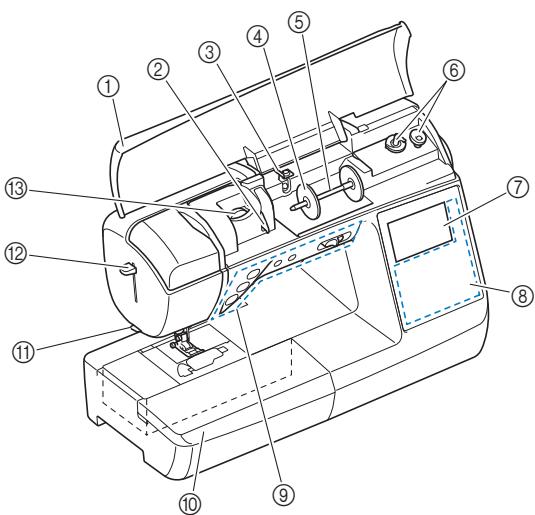
第1章 ぬう前の準備

各部の名称とはたらき

ここでは、ミシンの各部の名称とはたらきを説明します。ミシンをお使いになる前に、よく読んで覚えておきましょう。

主要部

■ 正面



① 上ふた
上糸を通すときや下糸を巻くときに開けます。

② 糸案内板
上糸を通すときに糸をかけます。

③ 下糸巻き案内
下糸を巻くときに糸をかけます。

④ 糸こま押え
糸こまが抜けないように押さえます。

⑤ 糸たて棒
糸こまを差し込みます。

⑥ 下糸巻き装置
下糸をボビンに巻くときに使用します。

⑦ 液晶画面
選択した模様の設定やエラーメッセージが表示されます。
(B-8 参照)

⑧ 操作パネル
模様の選択をするとき、ミシンの設定をするときなどに使用します。
(B-4 参照)

⑨ 操作スイッチとスピードコントロールレバー
ミシンのさまざまな操作に使用します。
(B-3 参照)

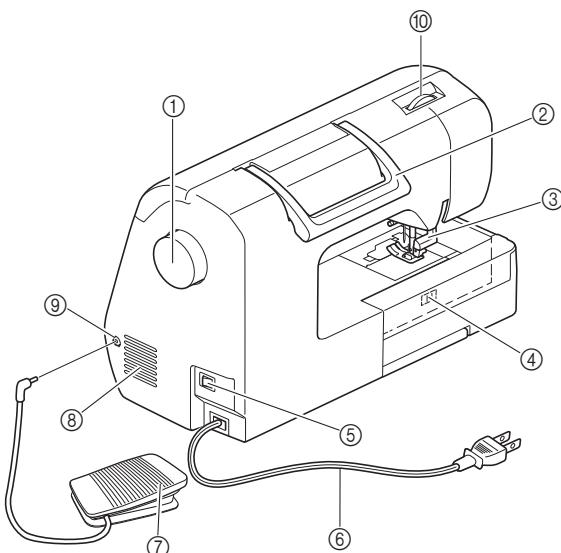
⑩ 補助テーブル
中に押えやボビンなどを収納します。袖口などの筒ものをぬうときには外します。

⑪ 糸切り
糸を引っかけて切れます。

⑫ 糸通しレバー
針穴に糸を通すときに使用します。

⑬ 糸調子ダイヤル
上糸調子を調節します。
(B-35 参照)

■ 右側面・背面



① プーリー
ぬい目を1針ずつ送ったり、針を上げ下げするときに手前に回します。

② ハンドル
ミシンの持ち運びに使用します。

③ 押えレバー
押えを上げ下げします。

④ ドロップレバー
送り歯を下げるときと元に戻すときに使用します。
(S-25 参照)

⑤ 電源スイッチ
ミシンの電源を「入」や「切」にするスイッチです。

⑥ 電源コード
家庭用電源コンセント(AC100V)に接続します。

⑦ フットコントローラー(別売)
ミシンを足で操作したいときに使用します。

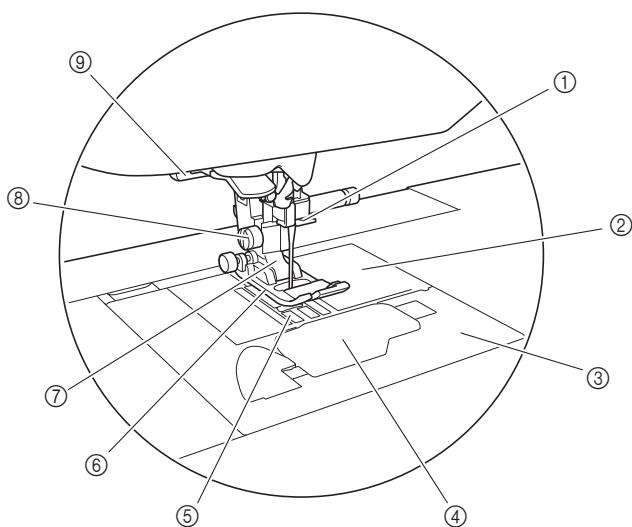
⑧ 換気口

モーターの換気用の穴です。ミシンを使用しているときはふさがないでください。

⑨ フットコントローラージャック
別売のフットコントローラーのプラグを差し込みます。

⑩ 押え圧ダイヤル
押え圧を調節します。

針と抑え部分



① 鈎棒糸かけ

上糸をかけます。

② 鈎板

まっすぐにぬうための目盛りがついています。

③ 鈎板カバー

かまの掃除をするときに取り外します。

④ 鈎板ふた／内かま

針板ふたを開けて、中の内かまにボビンをセットします。

⑤ 送り歯

ぬう方向に布地を送ります。

⑥ 押え

布地を押さえます。ぬい方に合った押えを取り付けてください。

⑦ 押えホルダー

ここに押えを取り付けます。

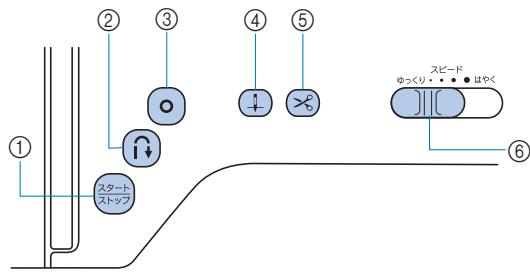
⑧ 押えホルダーのネジ

押えホルダーを固定します。（B-27 参照）

⑨ ボタン穴かがりレバー

ボタン穴かがりやかんどめをするときに使用します。

操作スイッチ



① スタート／ストップスイッチ

ミシンをスタートまたは停止します。ぬい始めとスイッチを押している間はゆっくりとぬいます。停止すると、針は下がった（布地に刺さった）状態で止まります。詳細は、B-28 の「基本のぬい方」で説明します。

スイッチはミシンの状態によって色が変わります。

緑： スタートできる状態のとき／縫製中

赤： スタートできない状態のとき

橙： 下糸を巻いているとき／下糸巻き軸が右側に入っているとき

② 反しぬいスイッチ

反しぬいを行う直線またはジグザグ模様の場合、このスイッチを押している間だけ低速で反しぬいをします（逆方向にぬいます）。

そのほかの模様では、ぬい始めやぬい終わりの止めぬいをするときに使います。このスイッチを押し続けると、同じ場所で3針重ねてぬって止まります。（B-31 参照）

③ 止めぬいスイッチ

このスイッチを押すと1針ぬいを繰り返した後で、止めぬいします。（B-31 参照）

④ 針上下スイッチ

このスイッチを押すと、針の位置が上下に切り換わります。繰り返し押すと、1針ぬいができます。

⑤ 糸切りスイッチ

ぬい終わった後にこのスイッチを押すと、上糸と下糸を切れます。詳細は、B-29 の「模様をぬう」の手順 10 を参照してください。

⑥ スピードコントロールレバー

このレバーを左右に動かして、ぬう速さを調節します。

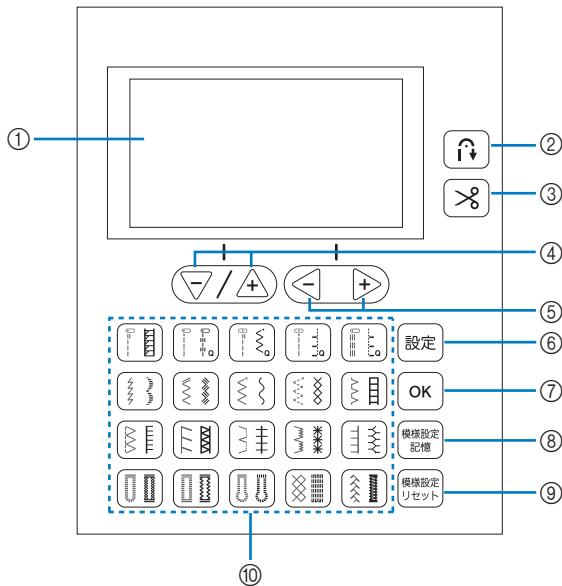


注意

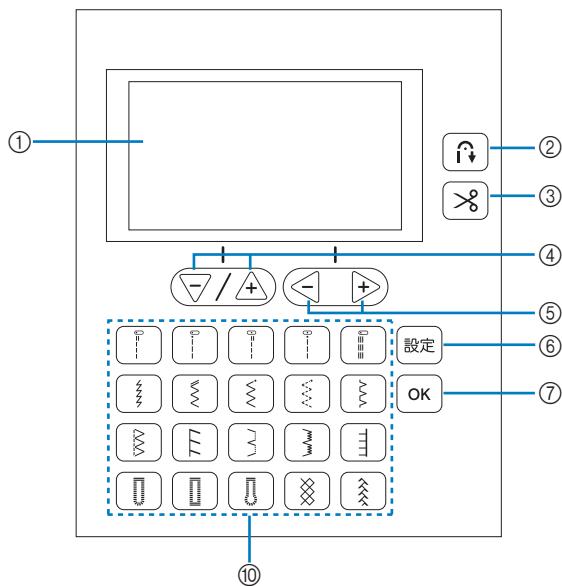
- 糸を切った後に~~○~~（糸切りスイッチ）を押さないでください。針が折れたり糸がからんだりするおそれがあります。また、故障の原因になります。

操作パネルと操作キー

CPF30 シリーズ



CPF20 シリーズ



*印のキーは、押すと点灯します。

① 液晶画面

選択した模様の設定値や、操作を誤ったときのエラーメッセージが表示されます。

詳細は、B-8 の「液晶画面」を参照してください。

② 自動返しぬい／止めぬいキー

自動返しぬい／止めぬいを設定するときに押します。

③ 自動糸切りキー

自動糸切りを設定するときに押します。

④ 振り幅調節キー／設定項目選択キー

模様の振り幅を調節するときや、設定画面で次／前の項目に移動するときに押します。

⑤ ぬい目の長さ調節キー／設定値選択キー

ぬい目の長さを調節するときや、設定画面で設定値を選択するときに押します。

⑥ 設定キー

設定画面を表示するときや設定画面で次のページへ移動するときに押します。

⑦ OK キー

選択した内容を確定したり、操作を実行するときに押します。

⑧ 模様設定記憶キー

(CPF30 シリーズのみ)
振り幅やぬい目の長さの設定を記憶させておくときに押します。

⑨ 模様設定リセットキー

(CPF30 シリーズのみ)
選択した模様の設定を初期値に戻すときに押します。

⑩ 模様選択キー

模様を選択するときに押します。

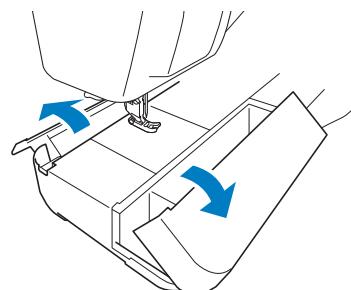


お願い

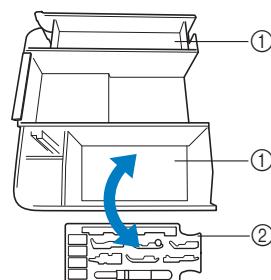
- 操作キーは静電容量式タッチセンサーです。指で直接触れて操作してください。操作する人によって反応が異なりますが、キーを押す強さによって反応が変わるものではありません。
- 操作キーは操作する人によって反応が異なりますので、感度設定を調節して使用してください。(B-11 参照)
- 市販の静電容量式に対応したタッチペンを使用する場合は、タッチペンの先が8mm以上のものを使用してください。先の細いタッチペン、特殊な形状のタッチペンは使用しないでください。

補助テーブル

補助テーブルの中に付属品を収納することができます。図のようにふたを開いてください。



補助テーブルの付属品収納スペースの中には、押え収納トレイが入っています。



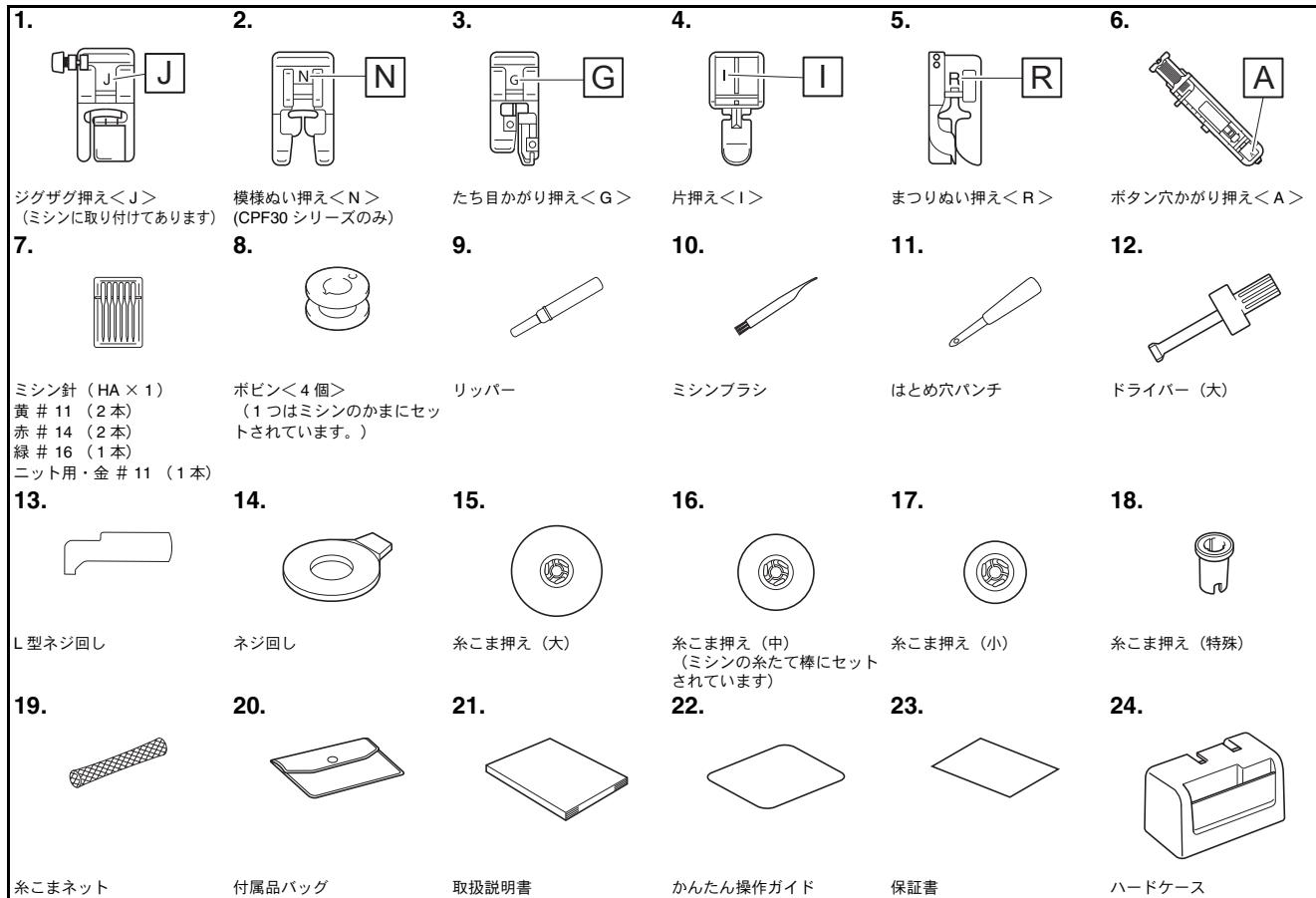
① 補助テーブルの中の付属品収納スペース

② 押え収納トレイ

押え収納トレイは複数のシリーズで共通の部品のため、本製品に付属しない押えのスペースがあります。

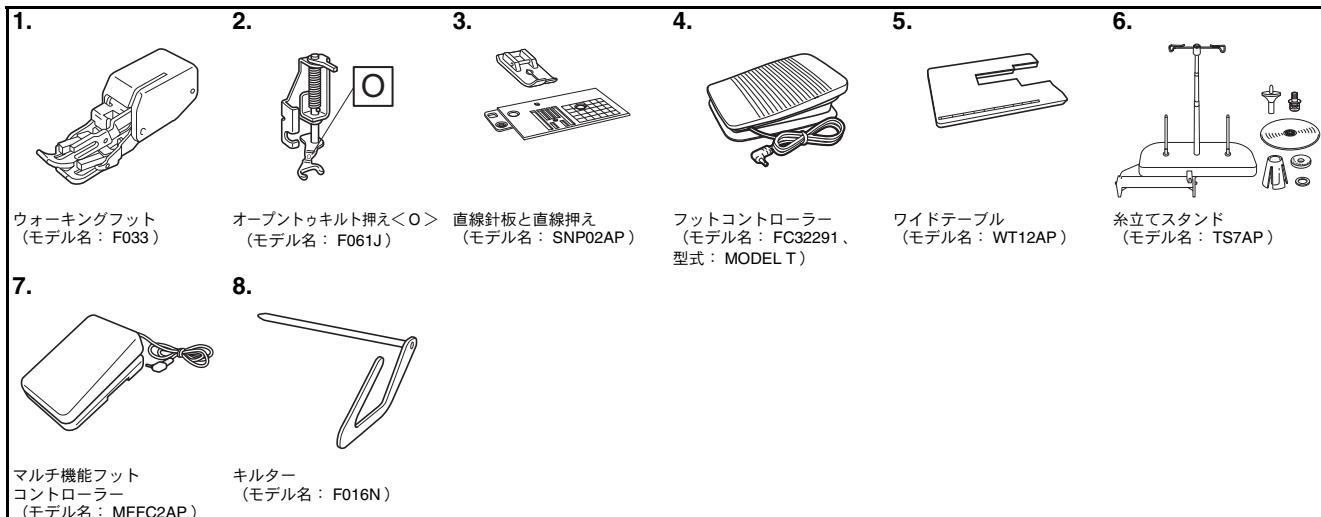
付属品

箱を開けたら、付属品が揃っていることを確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。



別売品

別売品・部品についてはお買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。



電源の入れ方

⚠ 警告

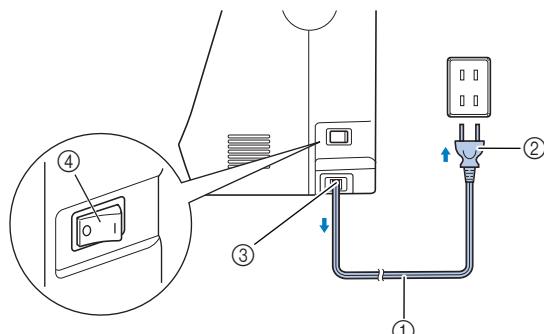
- 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
 - ミシンのそばを離れるとき
 - ミシンを使用したあと
 - 使用中に停電したとき
 - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
 - 雷が鳴りはじめたとき
- 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠ 注意

- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

電源を入れる

- 1 電源スイッチが「切」になっている（「○」側を押してある）ことを確認します。
- 2 電源コードを引き出し、電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。



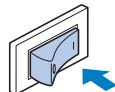
① 電源コード
② 電源プラグ
③ 赤い印
④ 電源スイッチ



お願い

- 電源コードは、赤い印以上引き出さないでください。

- 3 ミシン本体右側面の電源スイッチの右側（「1」側）を押して「入」にします。



→ 電源が入り、ライトと液晶画面、スタート／ストップスイッチが点灯します。



お知らせ

- 電源が入ると針や送り歯が動く音がしますが、故障ではありません。
- 縫製中に電源が切れると、再度電源を入れなおしても、ミシンは縫製の中断点を記憶していません。もう一度初めから縫製の手順を行ってください。

電源を切る

ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動するときは、必ず電源を切ってから移動してください。

- 1 ミシンが動いていないことを確認します。
- 2 ミシン本体右側面の電源スイッチの左側（「○」側）を押して「切」にします。



- 3 電源プラグをコンセントから抜きます。電源プラグを持って抜いてください。
- 4 電源コードを少し引っ張って手を離し、収納します。

ミシンを初めて使うとき

初めて本機の電源を入れたときは、液晶画面に表示する言語を設定します。設定画面が自動で表示されますので、以下の手順に従って設定してください。

- 1 を押して、言語を選択します。

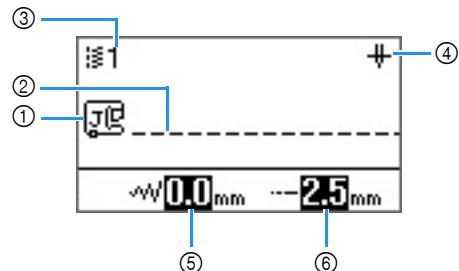


- 2 を押します。

液晶画面

液晶画面の見方

電源を入れると、液晶画面が点灯し、以下のような画面が表示されます。
表示されている内容を変更するには、画面の下にある操作キーを使います。



No.	表示	名称	はたらき	参照ページ
①		押え表示	選択中の模様に対し、使用する押えを表示します。 * 片押え< >やキルト押えなど、液晶画面に表示されない押えもあります。	B-26
②	-	模様イメージ	選択中の模様イメージを表示します。	B-28
③	-	模様番号表示	選択中の模様番号を表示します。	B-37
④		針位置設定表示	針位置が上下どちらに設定されているかを表示します。 + : 針位置下 - : 針位置上	B-10
⑤	0.0 mm	振り幅設定表示	選択中の模様に設定されている振り幅を表示します。	B-34
⑥	2.5 mm	ぬい目の長さ設定表示	選択中の模様に設定されているぬい目の長さを表示します。	B-34

設定画面

[設定]を押すと、設定画面が表示され、ミシンのさまざまな設定を変更することができます。

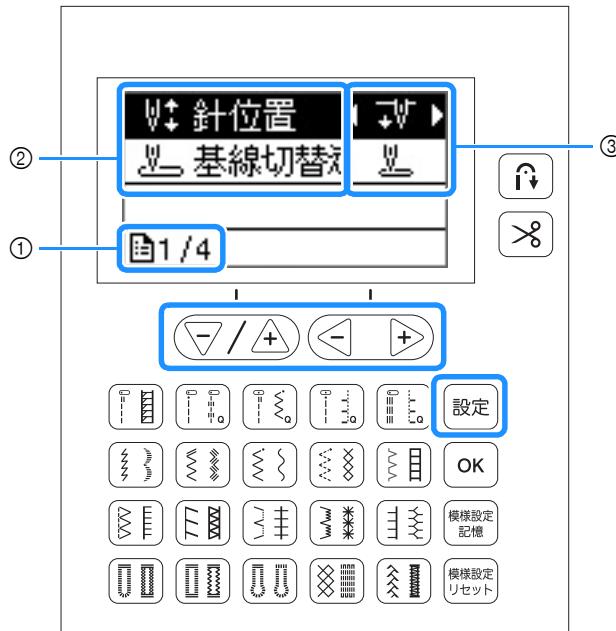
再度**[設定]**を押すと、設定画面の次のページに移動します。

前後の設定項目に移動するには、**▽/△**を押します。

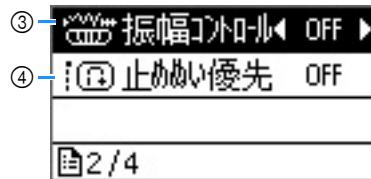
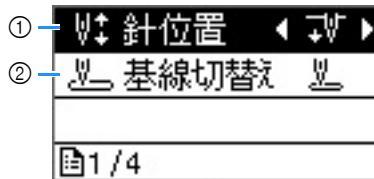
* 次の設定項目に移動するには、**▽**（下矢印）を押します。

* 前の設定項目に移動するには、**△**（上矢印）を押します。

選択した設定項目の値を変更するには、**< / >**を押します。



- ① ページ
- ② 設定項目
- ③ 設定値



- ① ミシンが停止したときの針位置（上／下）を選択します。
- ② 電源を入れたときに自動的に選択される模様として、「1直線（左基線）」または「3直線（中基線）」を選択します。
- ③ この設定を「ON」にすると、スピードコントロールレバーがジグザグの振り幅調節レバーに切り替わります。詳細は、「実用ぬい編」の「振り幅コントロールを使用したサテンぬい」を参照してください。
- ④ この設定を「ON」にして止めぬいをする模様をぬうと、ぬい始め／ぬい終わりに、返しぬいスイッチを押しても止めぬいをします。詳細は、B-31の「自動で返しぬい／止めぬいをする」を参照してください。
- ⑤ 操作音のON/OFFを選択します。
- ⑥ ミシンのライトのON/OFFを選択します。
- ⑦ 液晶画面の明るさを調節します。



- ⑧ 操作キーの感度を調節します。詳細は、B-11の「操作キーの感度を調節する」を参照してください。
- ⑨ 液晶画面に表示される言語を設定します。詳細は、B-11の「表示言語を設定する」を参照してください。
- ⑩ ミシンにインストールされているプログラムのバージョンです。



お知らせ

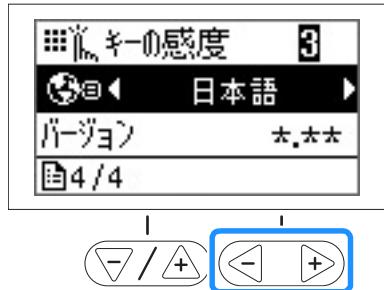
- 元の画面に戻るには、OKを押します。

表示言語を設定する

1 [設定]を押して、設定画面の4ページを表示します。

2 ▽/+を押して、④ (言語設定) を選択します。

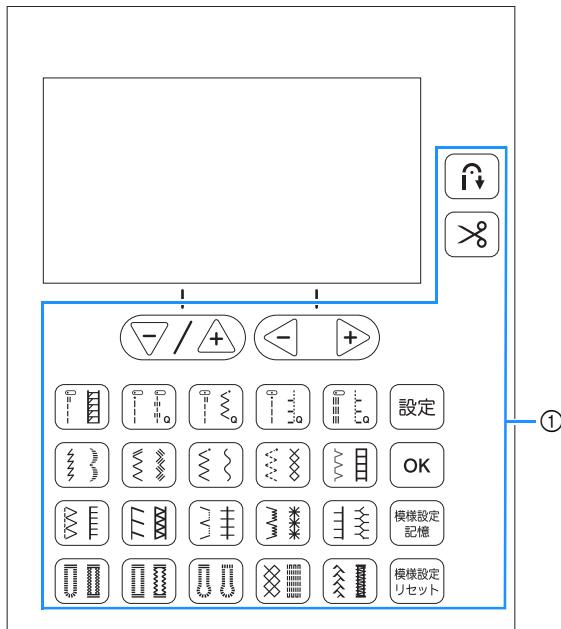
3 ◀▶を押して、言語を選択します。



4 [OK]を押して、元の画面に戻ります。

操作キーの感度を調節する

操作キーの感度は、5段階から選択することができます。設定画面で、使いやすい感度を選択してください。



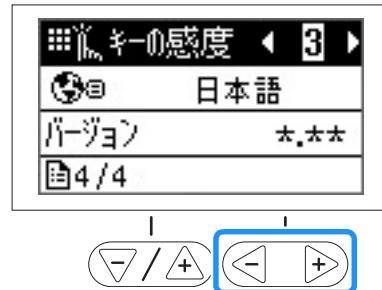
① 操作キー

1 [設定]を押して、設定画面の4ページを表示します。

2 ▽/+を押して、④ (キーの感度) を選択します。

3 ◀▶を押して、感度を調節します。

- 数値が低いほど感度は低くなり、数値が高いほど感度は高くなります。初期設定値は、3です。



お知らせ

- 市販の静電容量式に対応したタッチペンを使用する場合は、感度を最高に設定することをお勧めします。

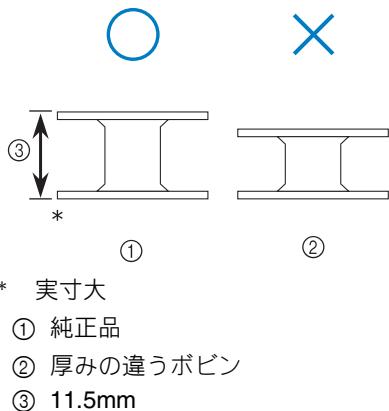
■操作キーを押してもミシンが動かないときは

④ (糸切りスイッチ) を押しながらミシンの電源を入れてください。キーの感度の設定がリセットされます。その後、設定の画面で、感度の調節をしてください。

下糸の準備

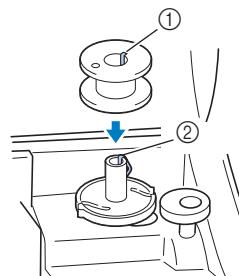
⚠ 注意

- 必ず純正ボビンをご使用ください。他のボビンを使用すると、けが・故障の原因となります。
- 付属のボビンは本機純正品です。厚みの違うボビンを使用すると、ミシンが正しく動作しません。必ず付属品、または別売の純正ボビン（モデル名：B051）を使用してください。



2

- ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせて、ボビンを下糸巻き軸にカチッとはまるまで差し込みます。

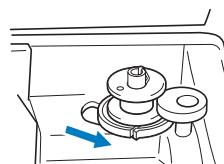


① ミゾ

② 下糸巻き軸のバネ

3

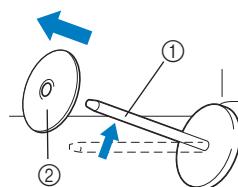
- ボビンを右側へカチッと音がするまで押します。



- スタート/ストップスイッチがオレンジ色に点灯します。

4

- 糸たて棒を起こし、糸たて棒から糸こま抑えを抜きます。

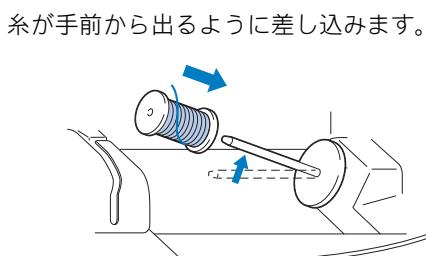


① 糸たて棒

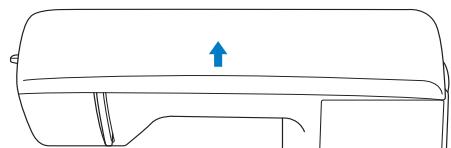
② 糸こま抑え

5

- 下糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。

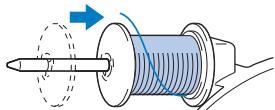


- 糸こまを正しい向きにセットしないと、糸が糸たて棒にからまるおそれがあります。



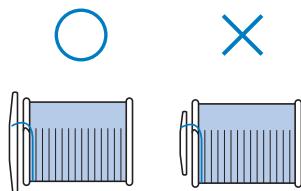
- 6** 糸こま抑えを糸たて棒に差し込み、糸たて棒をもとの平行の位置に戻します。

糸こま抑えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。



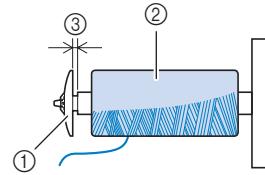
▲ 注意

- 糸こまや糸こま抑えが正しくセットされないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや針折れの原因となります。
- 糸こま抑え（大）（中）（小）は糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまより小さい糸こま抑えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。
また、使用的する糸こまによっては、糸こま抑え（特殊）を使用します。



お知らせ

- 下図のような糸こまを使用するときは、糸こま抑え（小）を使用し、糸こま抑えと糸こまとの間に少しすきまを残してください。

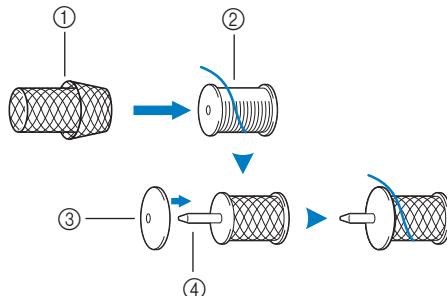


① 糸こま抑え（小）

② 糸こま

③ すきま

- ナイロン透明糸やメタリック糸などの張りが強い糸を使用する場合は、付属の糸こまネットを糸こまに付けてから糸たて棒にセットしてください。ネットが長い場合は、糸こまの大きさに合わせて折って使用します。



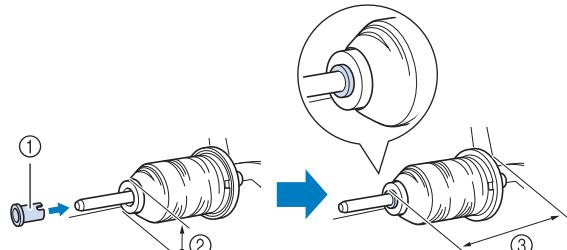
① 糸こまネット

② 糸こま

③ 糸こま抑え

④ 糸たて棒

- 高さ 75mm、芯の直径が 12mm の糸こまを使用する場合は、付属の糸こま抑え（特殊）を使用してください。

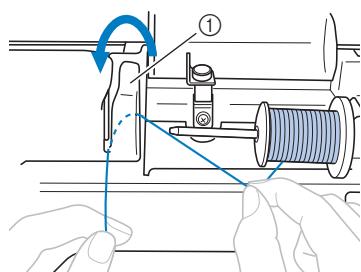


① 糸こま抑え（特殊）

② 12mm

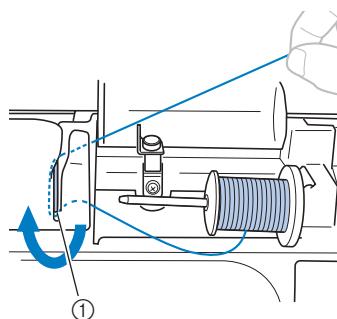
③ 75mm

- 7 糸を糸案内カバーの奥から手前へかけます。引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



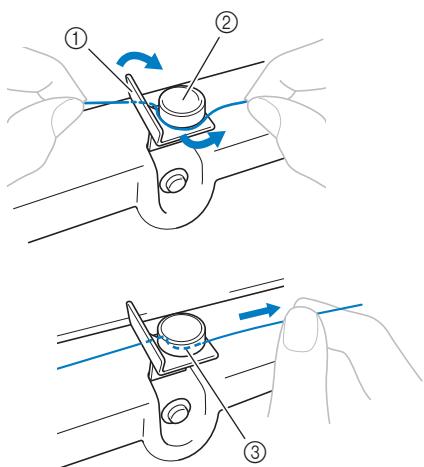
① 糸案内カバー

- 8 糸案内板の下から上へ糸をかけます。



① 糸案内板

- 9 下糸巻き案内の凸部の下から糸をかけて、皿の下に通します。



① 下糸巻き案内

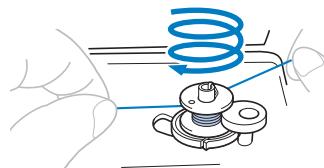
② 皿

③ しっかり奥まで入れるようにひっぱります。



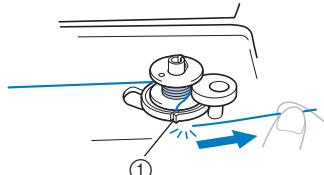
- お願い**
- 糸が皿の下を確実に通っていることを確認してください。

- 10 糸を時計まわりに5~6回ボビンに巻きつけます。引き出した糸がたるまないように左手で糸を持ち、右手で糸端をボビンに巻きつけます。

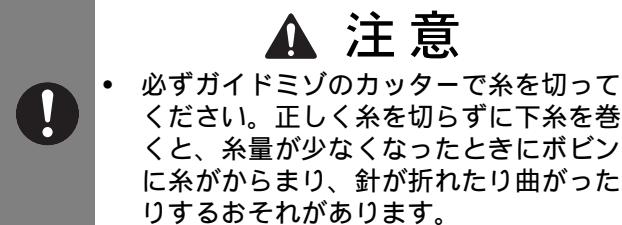


- お願い**
- 糸は、必ずピンと張った状態にしてください。
 - 糸は、必ず時計回りに巻いてください。逆方向に巻くと、下糸巻き軸に糸が巻きつくことがあります。

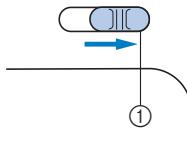
- 11 糸端をボビン受け座のガイドミゾに引っかけて右へ引き、カッターで糸を切ります。



① ガイドミゾ (カッター付)



- 12 スピードコントロールレバーを右側（はやく）へ動かします。



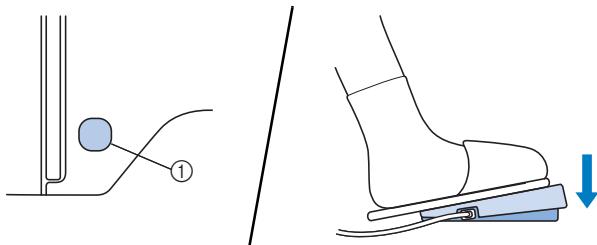
① スピードコントロールレバー



- お知らせ**
- 糸を巻くスピードは、糸によって異なります。

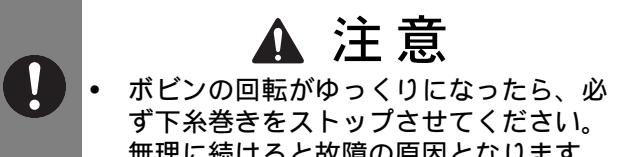
- 13 電源を入れます。

- 14 スタート/ストップスイッチを1回押して、下糸巻きをスタートします。
別売のフットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーを踏み込みます。

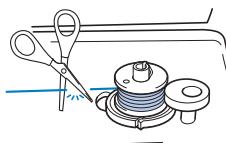


① スタート/ストップスイッチ

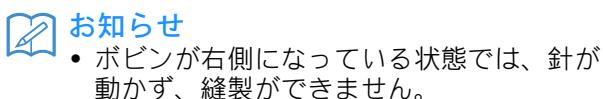
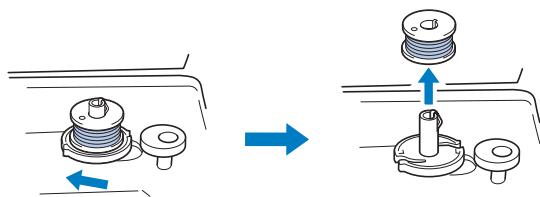
- 15 ボビンの回転がゆっくりになったら、スタート/ストップスイッチを1回押して、下糸巻きをストップします。
フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーから足を離します。



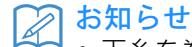
- 16 巻き終わりの糸をはさみで切ります。



- 17 ボビンを左側へ戻し、下糸巻き軸からボビンを抜きます。



- 18 スピードコントローラーをもとの位置に戻します。
19 糸こまを糸たて棒から外します。



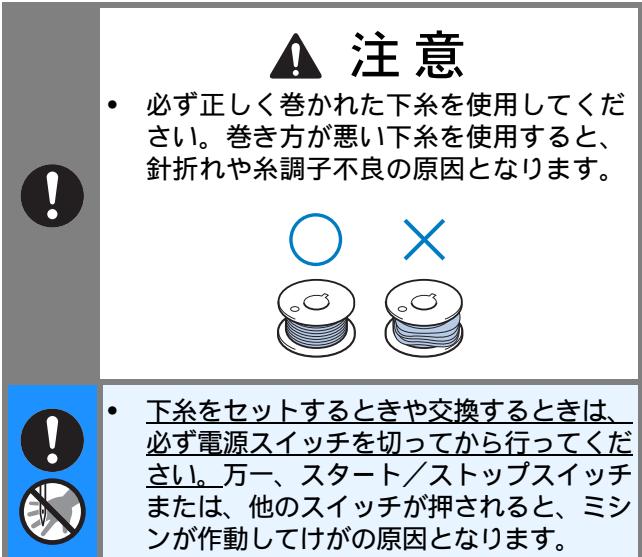
- 下糸を巻いた後にミシンをスタートさせたりブーリーを回したりすると、ガチャツという音がすることがあります。故障ではありません。

下糸をセットする

下糸を巻いたボビンをかまにセットします。
ボビンをかまに入れ、針板カバーのミゾにそって糸を通してセットするだけで、すぐにぬい始めるることができます（下糸を引き出す必要はありません）。

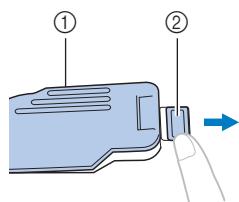


- ギャザーなどをぬうとき、フリーモーションキルトをするときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。詳細は、B-22の「下糸を引き出す」を参照してください。



- 1 (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。
- 2 電源を切ります。
- 3 押えレバーを上げます。

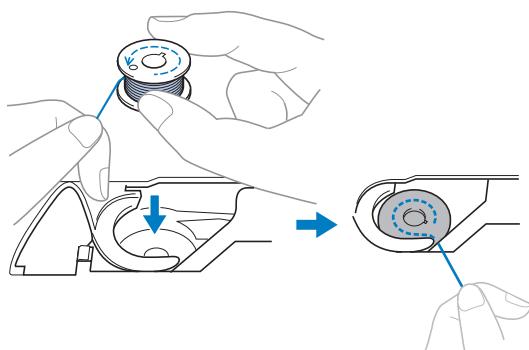
- 4** 針板ふたの横のつまみを右側へスライドさせます。



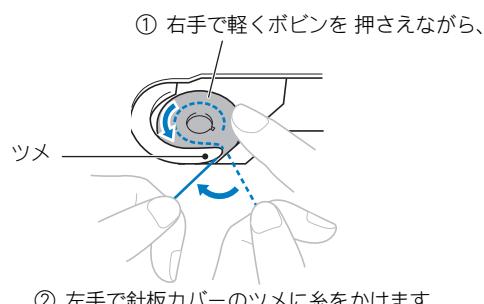
① 針板ふた
② つまみ

- 5** 針板ふたを取り外します。

- 6** 糸が左巻きになるように右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。そのまま、右手でボビンをかまに入れます。



- 7** 右手でボビンを軽く押さえながら (①) 、左手で巻き終わりの糸を針板カバーのツメにかけます (②) 。



② 左手で針板カバーのツメに糸をかけます。

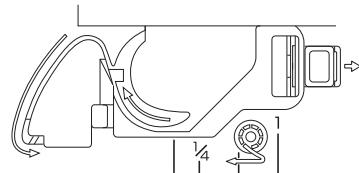


！ 注意

- ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。
万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

お知らせ

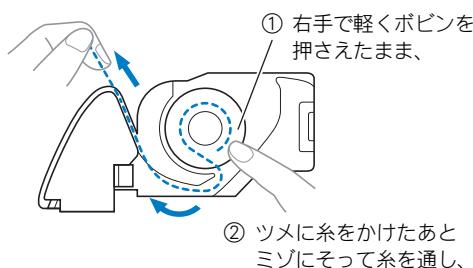
- ボビンのセットのしかたは、針板カバーにも表示されています。必ず、表示されていようとおりに糸を通してください。



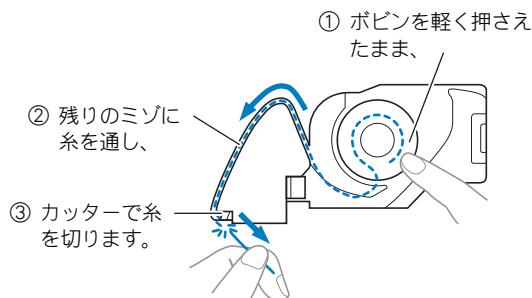
- 8** 右手でボビンを軽く押さえたまま (①) 、ツメにかけた糸を針板カバーのミゾにそって通し (②) 、左上で糸を軽くひっぱります (③) 。

① 内かまの板バネに糸が入ります。

③ 左上で糸を軽くひっぱります。



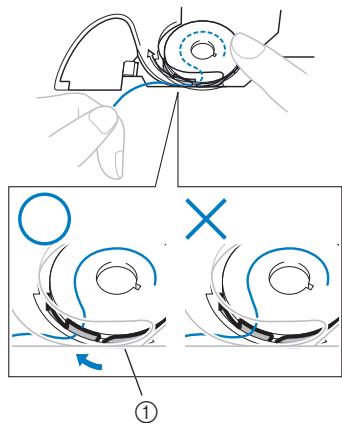
- 9** 右手でボビンを軽く押さえたまま (①) 、左手で残りのミゾに糸を通します (②) 。最後に手前に引いてカッターで糸を切れます (③) 。





お願い

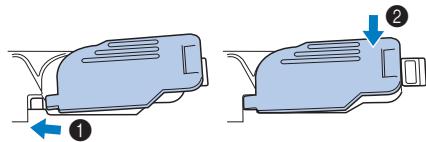
- 内かまの板バネの間に確実に糸が入っていることを確認してください。入っていない場合は、糸をかけ直してください。糸調子不良の原因となります。



① 板バネ

10 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの突起部を針板カバーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から押して取り付けます。



→ 下糸のセットが完了します。

次に、上糸を通します。引き続き B-18 の「上糸通し」をご覧ください。



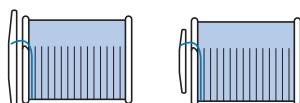
お知らせ

- 下糸は引き出さずにぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、B-22 の「下糸を引き出す」を参照してください。

上糸通し

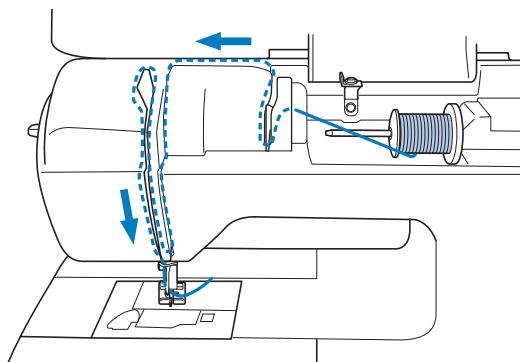
⚠ 注意

- 糸こま押え（大）（中）（小）は糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。
- また、使用する糸こまによっては、糸こま押え（特殊）を使用します。
- 適切な糸こま押えの選び方については、B-13 を参照してください。



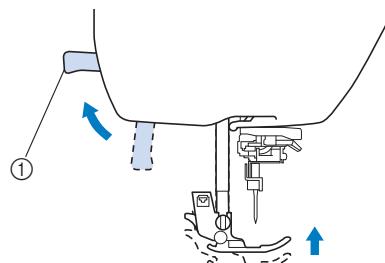
- 上糸は、手順に従って正しく通してください。上糸を正しく通していない場合、糸がからんで針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 20番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。
- 針と糸は、B-23 の「布地と糸の種類による針の使い分け」を参照して、適切な組み合わせでお使いください。

上糸を通す



1 電源を入れます。

2 押えレバーで押えを上げます。



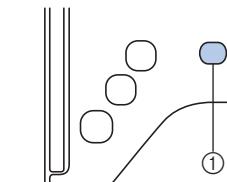
① 押えレバー

→ シャッターが開いて、糸通しできるようになります。

お知らせ

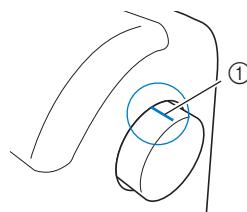
- 押えが下がった状態で上糸を通すことはできません。

3 ④ (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。



① 針上下スイッチ

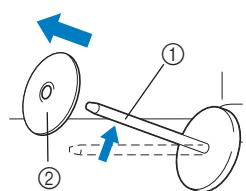
→ 針が確実に上がっているときは、プーリーのしるしが上になります。必ず、プーリーのしるしが上になっていることを確認してください。上にならない場合は、必ず、④ (針上下スイッチ) を押して、針を一番上まで上げてください。



① プーリーのしるし

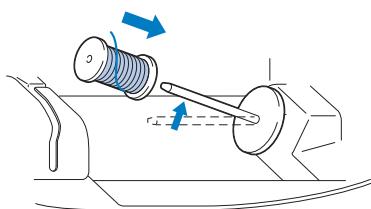
4 電源を切れます。

- 5 糸たて棒を起こし、糸たて棒から糸こま押えを抜きます。



① 糸たて棒
② 糸こま押え

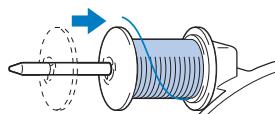
- 6 上糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。
糸が手前から出るように差し込みます。



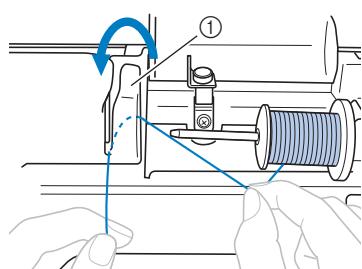
- ！ 注意**
- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや針折れの原因となります。

- 7 糸こま押えを糸たて棒に差し込み、糸たて棒をもとの平行の位置に戻します。

糸こま押えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。

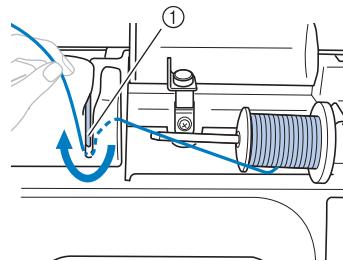


- 8 糸を糸案内カバーの奥から手前へかけます。
引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



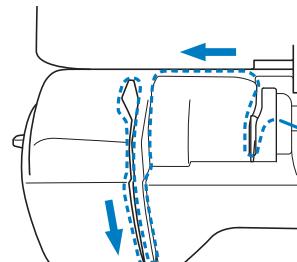
① 糸案内カバー

- 9 糸案内板の下から上へ糸をかけます。



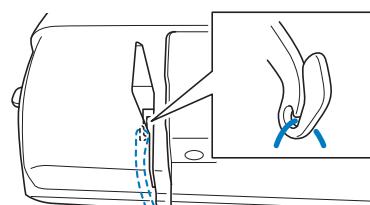
① 糸案内板

- 10 矢印のように、ミゾに沿って糸を通します。
引き出した糸をたるまないように右手で持ち、左手で糸を通します。



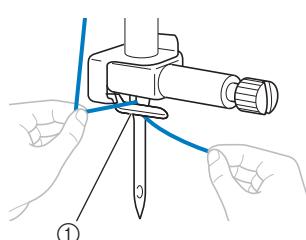
お願ひ

- 押えを上げるとシャッターが開きます。上糸を通すときや通した上糸を外すときは、必ず押えを上げてください。
- このミシンには、てんびんの位置を確認する窓があります。てんびん確認窓から、糸が確実にてんびんに通っていることを確認してください。



- 11 針棒糸かけに糸をかけます。

左手で糸を押さえ、右手で糸端を持ってかけます。



① 針棒糸かけ

針に糸を通す

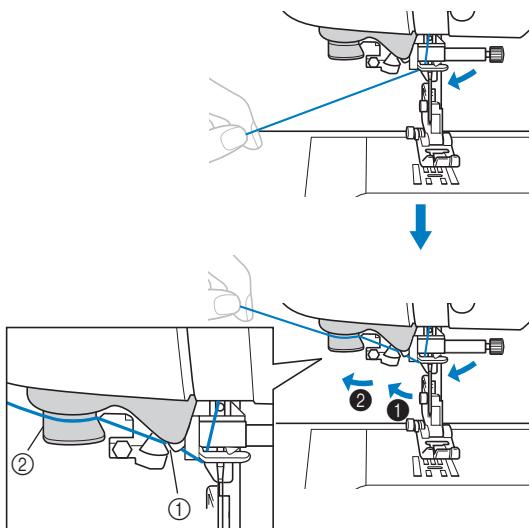


お知らせ

- 糸通し装置は、11～16番のミシン針のみに使用できます。
- ワインギニードルを取り付けているときは、糸通し装置は使用できません。
- ナイロン透明糸や特殊な糸を使用するときは、糸通し装置は使用できません。
- 糸通し装置が使用できない場合は、B-21の「手で針に糸を通すとき」を参照してください。

1 糸を左へ引いて、糸ガイドのミゾに通し（①）、糸案内皿（7のしるし）に糸をかけます（②）。

- 糸が糸ガイドのミゾを確実に通っていることを確認してください。

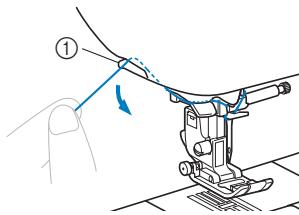


① 糸ガイドのミゾ

② 糸案内皿

2

ミシン本体左側面の糸切りで糸を切れます。

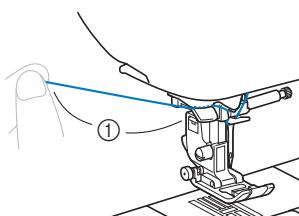


① 糸切り



お願い

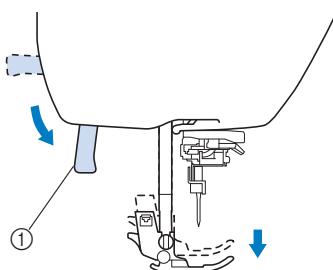
- 糸切りで糸がうまく切れないときは、押えを下げるから切ってください。糸が固定されて切りやすくなります。糸を切った後は④に進んでください。
- メタリック糸など、糸こまからほどけやすい糸を使用する場合、糸切りで糸を切ると糸通しができないことがあります。このようなときは、糸案内皿（7のしるし）に糸をかけた後、糸切りを使用せずに、糸を8cm以上引き出してください。



① 8cm 以上

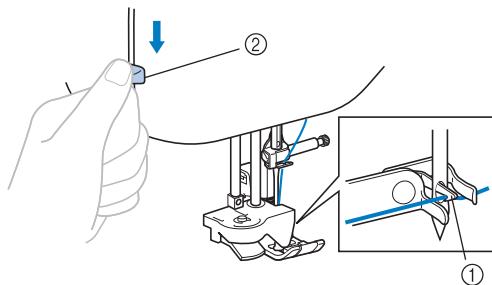
3

抑えレバーで押えを下げます。



① 押えレバー

- 4 ミシン本体左側面の糸通しレバーをカチャッと音がするまで下げる、ゆっくりともどへ戻します。



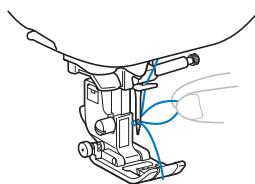
- ① フック
② 糸通しレバー
→ フックが回転し、針穴に糸が通ります。

**お願い**

- 針が一番上の位置にないと、糸通し装置が正常に作動しません。一番上の位置にないときは、ブーリーを手前に回し、一番上まで上げてください。針が確実に上がっているときは、ブーリーのしるしが上になります。B-18の手順③を参照してください。

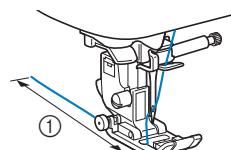
- 5 針穴を通った糸をゆっくり引っ張ります。

針穴を通った糸が輪になった場合は、輪をゆっくり引っ張り、針穴から糸を引き出します。

**⚠ 注意**

- 糸の輪を針穴から引き出すときは、ゆっくり引き出してください。強く引くと、針折れの原因となります。

- 6 押えを上げ、上糸を押えの穴から押えの下に通して、後ろ側へ 5cm ほど引き出します。



① 5cm

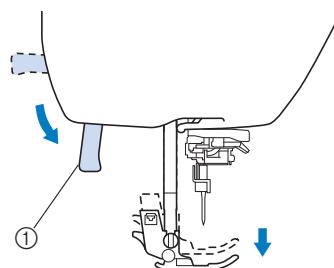
手で針に糸を通すとき

糸通し装置が使用できないナイロン透明糸や特殊な糸、ウイングニードルなどを使用するときは、次の手順で針に糸を通します。

- 1 針棒糸かけまで上糸を通します。

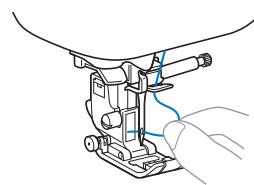
- 詳細は、B-18の「上糸通し」を参照してください。

- 2 押えレバーで押えを下げます。



① 押えレバー

- 3 手で糸を持ち、針穴の手前から後ろへ糸を通して通します。

**⚠ 注意**

- 手で糸を針に通すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

- 4

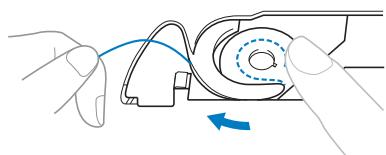
- 押えを上げ、上糸を押えの穴から押えの下に通して、後ろ側へ 5cm ほど引き出します。

下糸を引き出す

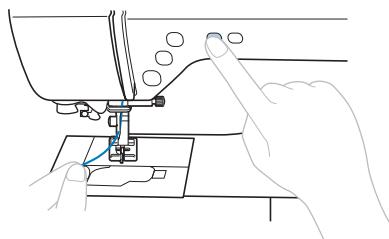
ギャザーなどをぬうとき、フリーモーションキルトをするときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。

- 1 B-18の「上糸を通す」を参照して、針に糸を通します。
- 2 B-15の「下糸をセットする」の④～⑥を参照して、ボビンをかまに入れます。
- 3 引き出した糸をミゾに沿って途中まで通します。

カッターで糸を切らないでください。

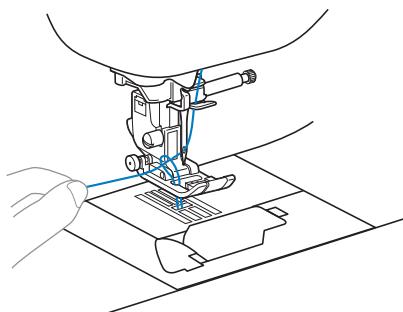


- 4 左手で上糸の端を持ち、(針上下スイッチ)を2回押して、針を上げます。

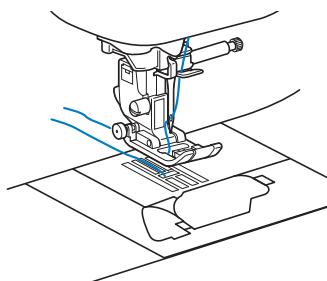


→ 下糸が針板から輪になって引き出されます。

- 5 上糸をゆっくりと上へ引き、下糸の糸端を引き出します。

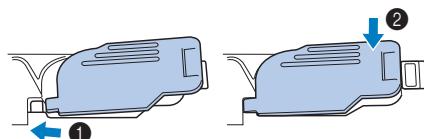


- 6 上糸を押えの穴から押えの下に通して、下糸とそろえて押えの下から後ろ側へ10cmほど引き出します。



- 7 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの突起部を針板カバーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から押して取り付けます。



針の交換

針の取り扱いには十分注意してください。針が折れ、破片が散らばるなど、非常に危険です。以下の注意をよく読んで、必ず守ってください。

⚠ 注意



- 針は必ず家庭用ミシン針（H A × 1）を使用してください。そのほかの針を使用すると、針が曲がったり、折れてけがをするおそれがあります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。けがをするおそれがあります。

布地と糸の種類による針の使い分け

ミシン針は布地や糸の太さによって使い分けます。次の表を参考にして、布地に合った糸と針を選んでください。

布地の特徴・種類	ミシン糸		針の種類
	種類	太さ	
普通地	プロード	綿糸	11～14
	タフタ	合織糸	
	フラン、ギャバシン	絹糸	
薄地	ローン	綿糸	9～11
	ジョーゼット	合織糸	
	ポーラ	絹糸	
厚地	デニム	綿糸	14～16
	コーデュロイ	合織糸	
	ツィード	絹糸	
のびる布地	ジャージ	ニット用糸	ニット用 11～14
	トリコット		
ほつれやすい布地		綿糸	9～14
		合織糸	
		絹糸	
ステッチ糸の場合		合織糸	16
		絹糸	



お願い

- 20番以下の太い糸は使用しないでください。
故障の原因となります。

■ 糸と針の番号

糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。

■ ニット用針（金色）

伸縮性のある布地や、目がとびやすい布地に使用します。

■ ナイロン透明糸

布地や糸にかかわらず14～16番の針を使用します。

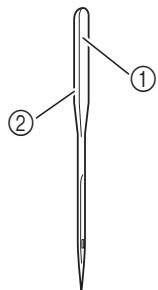


⚠ 注意

- 布地と糸と針の組み合わせは、上記に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目ふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因になります。特に厚い布地（デニムなど）を細い針（9～11番）でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

正しい針の見分け方

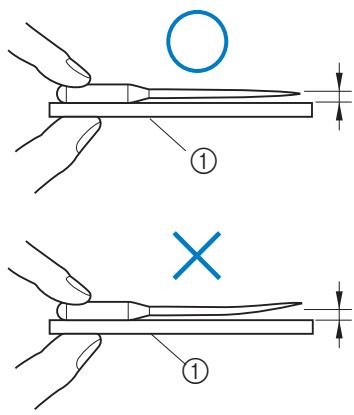
曲がった針は、使用中に折れるおそれがあり大変危険です。使用する前に、針の平らな面を平らな板などに合わせて確認し、すき間が平行にならない針は使用しないでください。



① 平らな面
② 針の種類の刻印

⚠ 注意

- 針と平らな板のすき間が平行でない場合は、針が曲がっています。曲がった針は使用しないでください。



① 平らな板

針の交換

「正しい針の見分け方」で確認した正しい針と、付属のドライバーを用意します。

- ④ (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。
- 電源を切ります。



- ⚠ 注意**
- 針は、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

- 押えの下に布または紙を置いて、針板の穴をふさぎます。



お願い

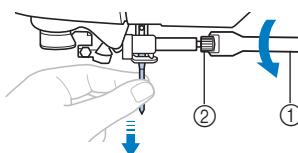
- 針を交換する前に、押えの下に布や紙を置いて、針が針板の穴から下へ落ちないようにしてください。

- 押えを下げます。

- 付属のドライバー（大）で針のとめネジをゆるめ、針を抜きます。

左手で針を持ち、右手でドライバーを手前（時計と反対回り）に回します。

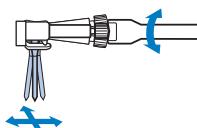
- 針のとめネジは、L型ネジ回し（またはネジ回し）でも回すことができます。



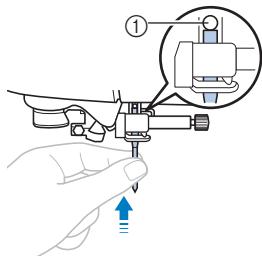
① ドライバー（大）

② 針のとめネジ

- とめネジをしめたりゆるめたりするときに、無理に力を加えないでください。故障の原因となります。



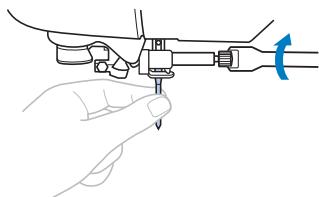
- 6** 平らな面が後ろ側になるように、新しい針を針棒に差し込みます。
針が針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。



① 針棒のストッパー

- 7** 針のとめネジをしめます。

左手で針を支え、右手でドライバーを奥側（時計回り）に回します。



⚠ 注意

- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、付属のドライバーでとめネジを確実にしめてください。針が正しく取り付けられていないと、針折れや故障の原因となります。

押えの交換



注意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 押えは必ず純正品を使用してください。純正品以外の押えを使用するとけがをするおそれがあります。

押えを交換する

1 (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。

2 電源を切ります。

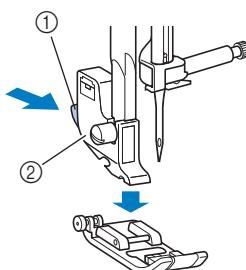


注意

- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

3 押えレバーを上げます。

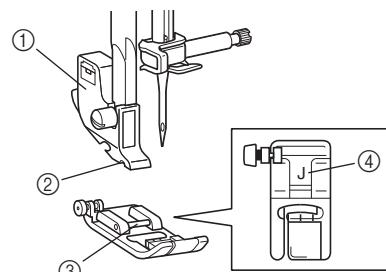
4 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押します。



① 黒いボタン
② 押えホルダー

5

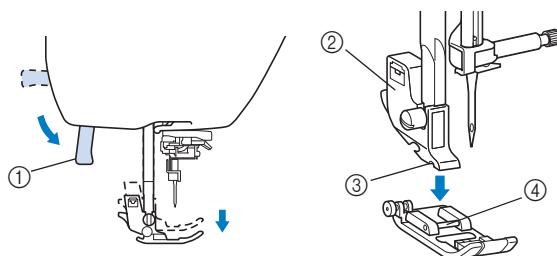
取り付ける押えのピンと押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。



① 押えホルダー
② ミゾ
③ ピン
④ 押え記号

6

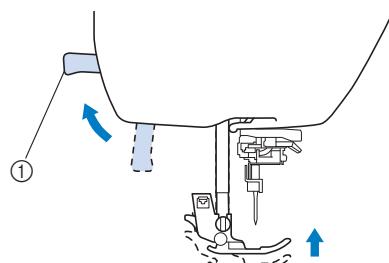
押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。



① 押えレバー
② 押えホルダー
③ ミゾ
④ ピン
→ 押えが押えホルダーに取り付けられます。

7

押えレバーを上げて、押えが確実に取り付けられていることを確認します。



① 押えレバー



お願い

- ・模様を選択すると、使用する押えが液晶画面に表示されます。ぬい始める前に押えを確認してください。他の押えが取り付けられている場合は、一旦ミシンの電源を切り、正しい押えを取り付けてから電源を入れ、ぬいたい模様をもう一度選択してください。



ジグザグ押え< J >



模様ぬい押え< N >



たち目かがり押え< G >



ボタン穴かがり押え< A >



まつりぬい押え< R >

- ・各模様で使用する押えについては、B-37の「ぬい方早見表」を参照してください。

押えホルダーを取り外す／取り付ける

お手入れをするとき、また、別売のウォーキングフットなど、押えホルダーを使わない押えを使用するときは、押えホルダーを取り外します。付属のドライバー（大）を用意します。

■ 押えホルダーを取り外すとき

1 押えを取り外します。

- ・ 詳細は、B-26の「押えを交換する」を参照してください。

2 押えホルダーのネジをゆるめます。

右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを奥側（時計と反対回り）に回します。

- ・ 押えホルダーのネジは、L型ネジ回し（またはネジ回し）でも回すことができます。



① ドライバー（大）

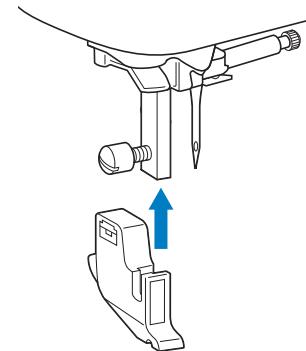
② 押えホルダー

③ 押えホルダーのネジ

■ 押えホルダーを取り付けるとき

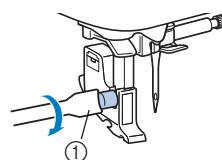
1 押えレバーを上げます。

2 押えホルダーを押え棒に合わせます。



3 押えホルダーのネジをしめます。

右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを手前（時計回り）に回します。



① ドライバー（大）

注意



- ・ 押えホルダーのネジは、確実にしめてください。しめ方がゆるいと、押えホルダーが落ちて針に当たり、針が曲がったり折れたりするおそれがあります。

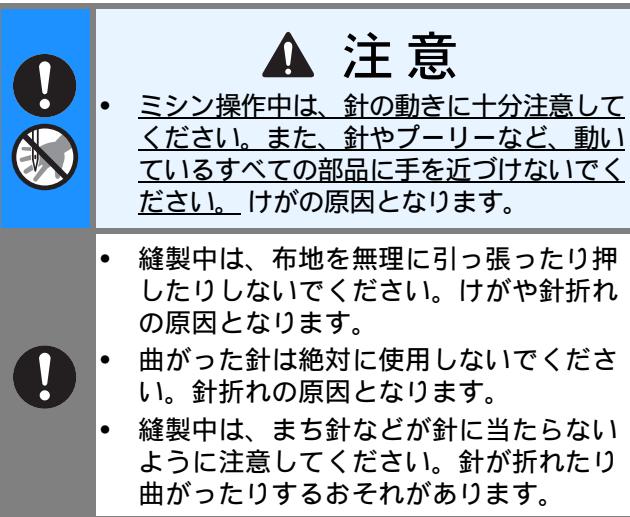


お知らせ

- ・ 押えホルダーが正しく取り付けられていないと、正しい糸調子にならないことがあります。

第2章 基本のぬい方

ぬってみましょう



模様を選択する



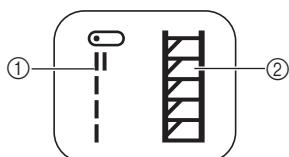
お知らせ

- 内蔵模様の詳細は、B-37の「ぬい方早見表」を参照してください。

■ CPF30 シリーズ

模様選択キーを使って、目的に応じた模様を選択します。模様選択キーには、それぞれ2つの模様が割り当てられています。

例：

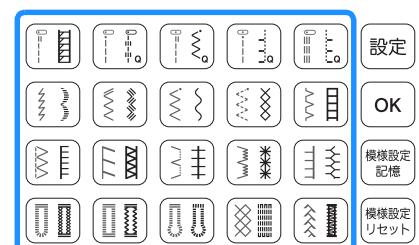
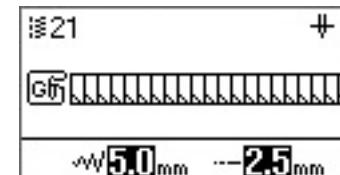


- ① 直線（左）
② たち目かがり

キーの左側に記されている模様を選択する場合は、該当する模様選択キーを1回押します。

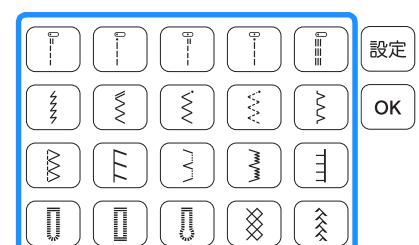
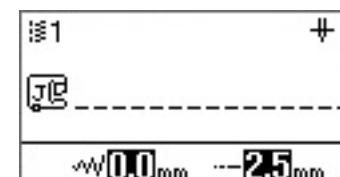


キーの右側に記されている模様を選択する場合は、該当する模様選択キーを2回押します。



■ CPF20 シリーズ

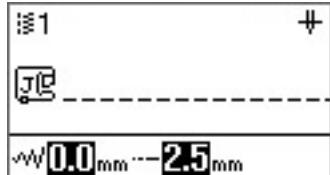
模様選択キーを押して、目的に応じた模様を選択します。



模様をぬう

- 1** ミシンの電源を入れ、 (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。

- 2** 前項「模様を選択する」の手順に従って、ぬいたい模様を選択します。



- 3** 必要に応じて、自動返しぬい／止めぬいやぬい目の長さなどを設定します。

- 振り幅とぬい目の長さの調節について詳細は、B-34の「振り幅を調節する」とB-34の「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。

- 4** 押えを取り付けます。

- 押えの交換の詳細については、B-26の「押えの交換」を参照してください。



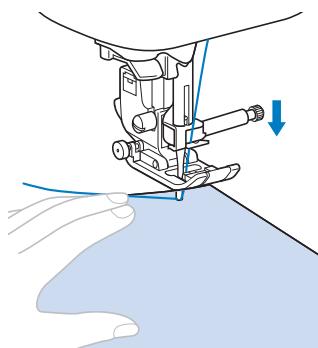
お願い

- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面に表示されます。ぬい始める前に押えを確認してください。他の押えが取り付けられている場合は、電源を切り、正しい押えを取り付けてから電源を入れ、ぬいたい模様をもう一度選んでください。

▲ 注意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
模様に適した押えについては、B-37を参照してください。

- 5** 布地を押えの下に置き、左手で布地と糸端を押さえ、プーリーを回してぬい始め位置に針を刺します。



お知らせ

- ジグザグ押え<J>の左側の黒いボタンは、布地を送らないときや布地に段差があるときに使用します。(詳細は、「実用ぬい編」の「厚い布地をぬう」を参照してください。) 通常は黒いボタンを使わずにぬいます。

- 6**

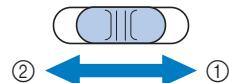
押えを下げます。

下糸を引き出す必要はありません。

- 7**

スピードコントロールレバーでぬう速さを調節します。

ぬっている途中でも、ぬう速さを調節することができます。



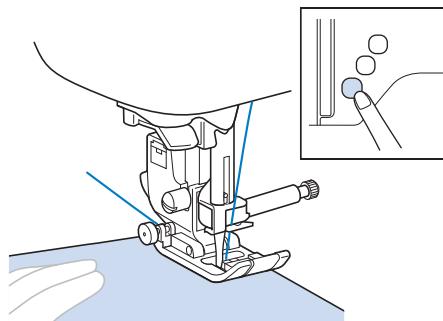
① はやく

② ゆっくり

- 8**

スタート/ストップスイッチを押して、ぬい始めます。

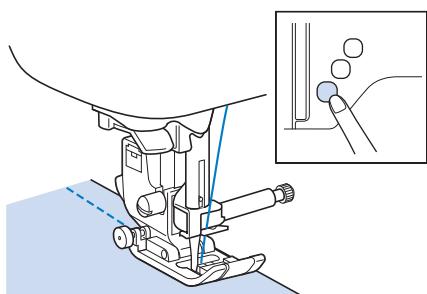
布地に軽く手を添えます。



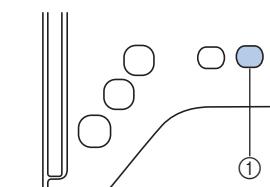
お知らせ

- フットコントローラージャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。

- 9 ぬい終わったら、もう一度スタート／ストップスイッチを押します。



- 10 (糸切りスイッチ) を押して糸を切れます。



① 糸切りスイッチ

→ 針が自動的に上がります。

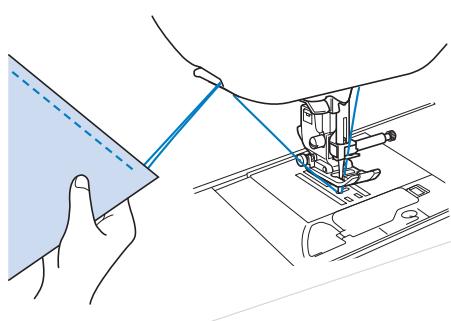
注意

- 糸を切った後は、(糸切りスイッチ) を押さないでください。糸がからまり、針が折れたり、ミシンが故障する原因となります。
- 押えの下に布地がないときや、ミシンが動いているときは、(糸切りスイッチ) を押さないでください。糸がらみや故障の原因となります。



お願い

- ナイロン糸・メタリック糸など特殊な糸を切る場合は、本体左側面の糸切りを使用してください。



- 11 針が完全に止まったら、押えを上げて布地を取り出します。

■ フットコントローラー（別売）を使う

別売のフットコントローラーを使って、ミシンを操作することもできます。



注意

- フットコントローラーに糸くずやほこりなどがたまらないようにしてください。火災や感電の原因となります。

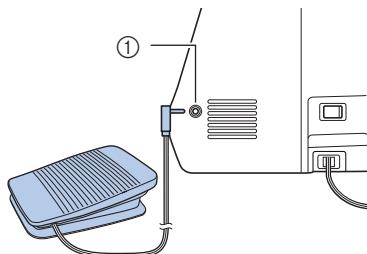


お知らせ

- フットコントローラージャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。下糸巻きも、フットコントローラーで操作します。

- 1 電源を切ります。

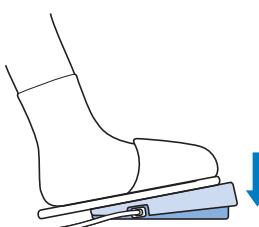
- 2 ミシン本体右側面のフットコントローラージャックに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。



① フットコントローラージャック

- 3 電源を入れます。

- 4 フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。



お知らせ

- スピードコントロールレバーを左右に動かして、フットコントローラーの最高速度を調整することができます。

- 5 ぬい終わりの位置まできたら、フットコントローラーから足を離します。

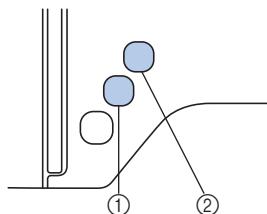
返しぬい／止めぬいをする

ぬい始めとぬい終わりは、糸の端がほつれないように、返しぬいまたは止めぬいをします。

Ⓐ (返しぬいスイッチ) を押している間、模様によって返しぬいまたは止めぬいをします。

(B-37 の表の「返しぬいスイッチ」の欄を参照してください。)

Ⓑ (止めぬいスイッチ) を長押しすると、同じ場所で 3 ~ 5 針ぬってから止まります。

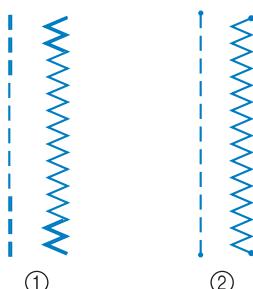


① 返しぬいスイッチ

② 止めぬいスイッチ

自動止めぬいが設定されているときは、スタート／ストップスイッチを押してぬい始めるとときに自動的に返しぬい（または止めぬい）がぬわれます。

ぬい終わりは、Ⓐ (返しぬいスイッチ) またはⒷ (止めぬいスイッチ) を押すと、返しぬいまたは止めぬいができます。



① 返しぬい

② 止めぬい

ミシンの動きは、選択している模様によって異なります。

次項「自動で返しぬい／止めぬいをする」を参照してください。

自動で返しぬい／止めぬいをする

模様を選んだときに自動返しぬい／止めぬいを設定しておくと、ぬい始めとぬい終わりに自動的に止めぬい（模様によっては返しぬい）をします。

B-32 の表を参照してください。

1 模様を選択します。

2 Ⓛ を押して、自動返しぬい／止めぬいを設定します。

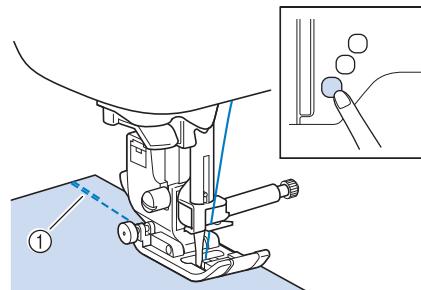


→ キーが点灯します。

お知らせ

- ボタン穴かがりやかんどめなどの一部の模様は、ぬい始めに止めぬいを行う必要があります。これらの模様は、止めぬいが自動的に設定されます（模様を選択するとキーが点灯します）。

3 布地をぬい始めの位置に置き、ぬい始めます。



① 返しぬい（または止めぬい）

→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をしてぬい始めます。

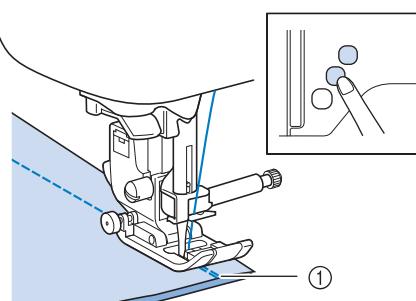
お知らせ

- 以下の模様を選んだ場合は、ぬい始めは自動的に返しぬいをします。



- ぬっている途中でスタート／ストップスイッチを押して止めた後、再びぬい始めた場合は返しぬい（または止めぬい）をしません。

4 (① (返しひいスイッチ) または② (止めぬいスイッチ) を押します



① 返しひい (または止めぬい)

→ 自動的に返しひい (または止めぬい) をして止まります。



お知らせ

- 自動止めぬいを解除するときは、もう一度①を押します。解除されると、キーが消灯します。

それぞれのスイッチを押したときのミシンの動きは、そのとき選択している模様によって異なります。スイッチを押したときのミシンの動きについては、次の表の説明を参照してください。

	返しひいスイッチ ①	止めぬいスイッチ ②
自動返しひい／止めぬい =OFFで、以下のような模様を選択している場合 	返しひいスイッチを押している間だけ返しひいをします。	止めぬいスイッチを押している間3～5針の止めぬいをします。
自動返しひい／止めぬい =OFFで、以下のような模様を選択している場合 	返しひいスイッチを押している間だけ返しひいをします。*	止めぬいスイッチを押している間3～5針の止めぬいをします。
自動返しひい／止めぬい =OFFで、直線、ジグザグ以外の模様を選択している場合 	返しひいスイッチを押している間3～5針の止めぬいをします。	止めぬいスイッチを押している間3～5針の止めぬいをします。
自動返しひい／止めぬい =ONで、以下のような模様を選択している場合 	ぬい始めとぬい終わりに返しひいをします。	ぬい始めに返しひい、ぬい終わりに止めぬいをします。
自動返しひい／止めぬい =ONで、以下のような模様を選択している場合 	ぬい始めに止めぬい、ぬい終わりに返しひいをします。*	ぬい始めとぬい終わりに止めぬいをします。

	返しひいスイッチ ①	止めぬいスイッチ ②
自動返しひい／止めぬい =ONで、直線、ジグザグ以外の模様を選択している場合	ぬい始めとぬい終わりに止めぬいをします。	ぬい始めとぬい終わりに止めぬいをします。

* 設定画面で④(止めぬい優先)を「ON」にしている場合は、返しひいの代わりに止めぬいを行います。

自動で糸を切る

ぬい終わりに自動で糸を切るように設定します。これを「プログラム糸切り」といいます。

プログラム糸切りを設定すると、自動返しひい／止めぬいも一緒に設定されます。

1 電源を入れます。

2 模様を選択します。

- 模様の選択についての詳細は、B-28の「模様を選択する」を参照してください。

3 ✖を押します。



→ ①と✖が点灯して、プログラム糸切りと自動返しひい／止めぬいが設定されます。

- プログラム糸切りを解除するときは、✖を押します。

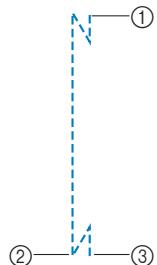
4 布地をセットし、スタート／ストップスイッチを1回押します。

→ 返しひいまたは止めぬいをしてから、ぬい始めます。

- 5** ぬい終わりの位置まできたら、①(返しぬいスイッチ) または②(止めぬいスイッチ) を1回押します。

ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。

→ 返しづいまたは止めぬいをしてから、自動で糸を切れます。



- ① スタート／ストップスイッチを押した地点
- ② ①(返しぬいスイッチ) または②(止めぬいスイッチ) を押した地点
- ③ ここで糸が切れる



お知らせ

- ぬっている途中で、スタート／ストップスイッチを押したときは、プログラム糸切りは行われません。ぬい終わりで①(返しぬいスイッチ) または②(止めぬいスイッチ) を押してください。
- 電源を切ると、プログラム糸切りの設定は解除されます。

模様の設定

模様の振り幅（ジグザグの振り幅）やぬい目の長さは、あらかじめ模様ごとの標準値に設定されています。この設定は、必要に応じて変更することができます。

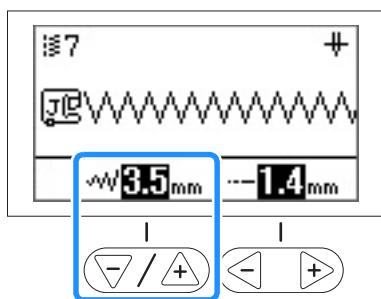


お知らせ

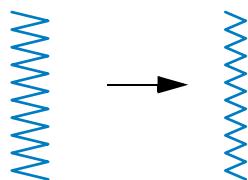
- 設定を変更した後に、ミシンの電源を切ったり他の模様を選択したりすると、もとの数値に戻ります。
CPF30シリーズをお使いの場合で、設定を記憶させておきたいときは、B-36の「模様の設定を記憶させる（CPF30シリーズのみ）」を参照してください。

振り幅を調節する

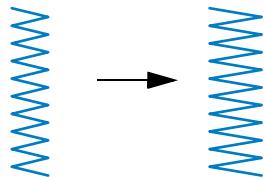
模様の振り幅（ジグザグの振り幅）を広くしたりせまくしたりすることができます。



▽を押すごとに、ジグザグの幅がせまくなります。



△を押すごとに、ジグザグの幅が広くなります。



お知らせ

- もとの設定に戻すときは、CPF30シリーズをお使いの場合、[模様設定]を押します。または、模様を保存しないでミシンの電源を切るか、他の模様を選択します。
CPF20シリーズをお使いの場合は、電源を切るか、他の模様を選択します。
- 直線模様（直線、3重ぬい）を選択した場合は、模様の振り幅を変更すると針の位置が移動します。振り幅を広くすると針は右に移動し、せまくすると左に移動します。
- と表示されているときは、設定を変更することができません。

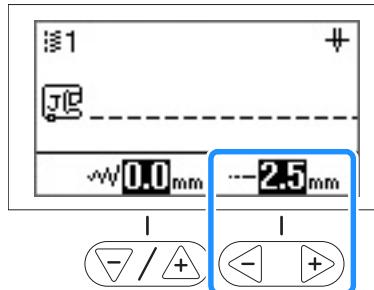


注意

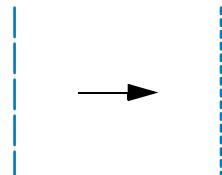
- 振り幅を調節したときは、ブーリーをゆっくりと手前に回し、針が抑えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

ぬい目の長さを調節する

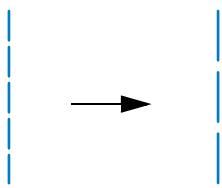
ぬい目の長さを調節して、ぬい目をあらく（長く）したり細かく（短く）したりすることができます。



◀を押すごとに、ぬい目が細かく（短く）なります。



▷を押すごとに、ぬい目があらく（長く）なります。



お知らせ

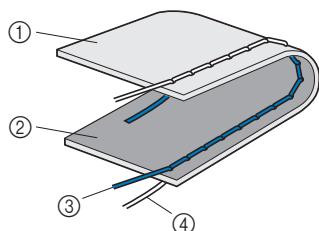
- ・もとの設定に戻すときは、CPF30シリーズをお使いの場合、模様設定 リセットを押します。または、模様を保存しないでミシンの電源を切るか、他の模様を選択します。
- CPF20シリーズをお使いの場合は、電源を切るか、他の模様を選択します。
- ・表示されているときは、設定を変更することができません。

糸調子を調節する

布や糸の種類によって、糸調子を調節します。

■正しい糸調子

上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。布地の表に出るのは上糸だけで、布地の裏に出るのは下糸だけになります。



- ①裏
- ②表
- ③上糸
- ④下糸

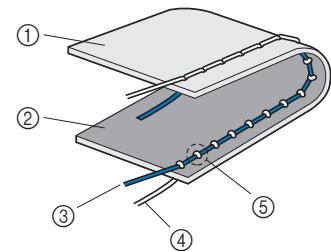
■上糸が強すぎるとき

布地の表に下糸が見える場合は、上糸が強すぎます。糸調子を弱くしてください。



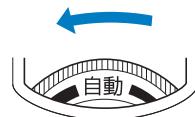
お願い

- ・下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなることがあります。上糸が強いときは、下糸のセットを再度行ってください。B-15の「下糸をセットする」を参照してください。



- ①裏
- ②表
- ③上糸
- ④下糸
- ⑤上糸が強いと上糸と下糸の重なりが表にできます。

糸調子ダイヤルを左に回し、上糸調子を弱くします。



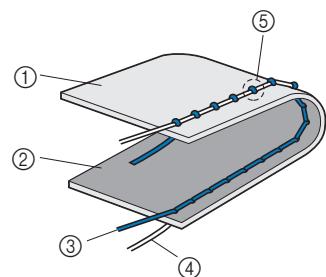
■上糸が弱すぎるとき

上糸が布地の裏に出る場合は、上糸が弱すぎます。糸調子を強くしてください。



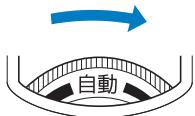
お願い

- ・上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなることがあります。上糸が弱いときは、上糸のセットを再度行ってください。B-18の「上糸通し」を参照してください。



- ①裏
- ②表
- ③上糸
- ④下糸
- ⑤上糸が弱いと上糸と下糸の重なりが裏にできます。

糸調子ダイヤルを右に回し、上糸調子を強くします。



- 下糸セットと上糸通しが正しく行われていない場合、糸調子が合わないことがあります。糸調子を調節しても糸調子が合わないときは、下糸セットと上糸通しをやり直してください。

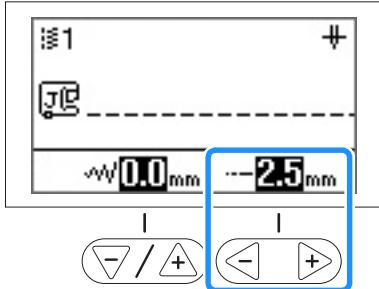
模様の設定を記憶させる (CPF30 シリーズのみ)

変更した設定を後で使いたい場合は、**模様設定 記憶** を押して設定を記憶させておくことができます。

直線のぬい目の長さを、いつも 2.0mm でぬう場合

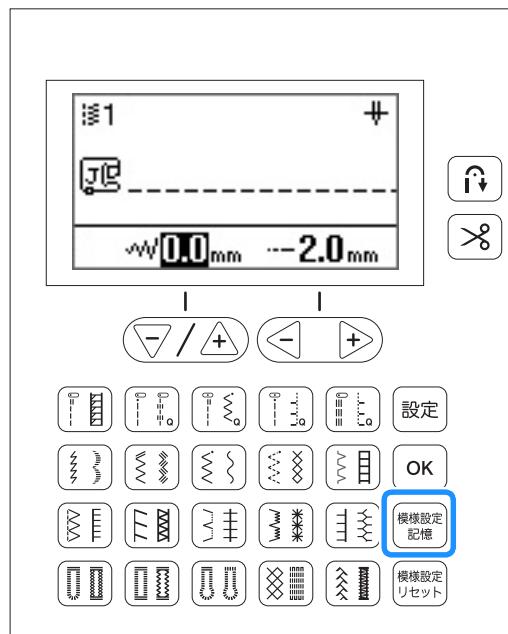
1 直線模様を選択します。

2 複数のぬい目の長さを 2.0mm に設定します。



3 **模様設定 記憶** を押します。

- もとの設定に戻すときは、**模様設定 リセット** を押した後、**模様設定 記憶** を押します。



- 次に同じ直線模様を選択すると、ぬい目の長さが 2.0mm に設定されます。
- 模様の振り幅（ジグザグの振り幅）とぬい目の長さのうち、設定を変更した方だけではなく、両方が記憶されます。一旦ミシンの電源を切っても、次に同じ模様を選択したときには、最後に記憶した設定が表示されます。記憶した設定を呼び出した後、再度設定を変更した場合や**模様設定 リセット** を押して設定をもとに戻した場合も、その後に**模様設定 記憶** を押さない限り、新しい設定は記憶されません。また、自動糸切り、自動止めぬいの設定は、**模様設定 リセット** を押してももとに戻りません。

ぬい方早見表

この表では、それぞれの模様について、用途、使用する押え、振り幅やぬい目の長さの設定などを紹介しています。

「返しぬいスイッチ」欄に * のある模様について：

 (自動返しひい／止めぬいキー) で自動返しひい／止めぬいを設定しているときは、ぬい始めに止めぬいを行います。

設定画面で「止めぬい優先」をONにしている場合は、ぬい終わりにも止めぬいを行います。



お願い

- ウォーキングフット（別売）を使用するときは、返しぬいをしないでください。

ぬい方	CPF30 シリーズ	CPF20 シリーズ	番号	名前	押え	主な用途	振り幅 [mm]	ぬい目の長さ [mm]	返しぬい スイッチ	ワーキング ポジション
							自動 手動	自動 手動		
一一一	1	1	直線 (左基線)	J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0	返しぬい	×	
一一一	2	2	直線 (左基線)	J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0	返しぬい*	○	
一一一	3	3	直線 (中基線)	J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0	返しぬい	×	
一一一	4	4	直線 (中基線)	J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0	返しぬい*	○	
====	5	5	3重ぬい	J	丈夫なぬい目なので、袖つけや股下をぬうときに便利です。また、伸びる布地をぬうときやステッチをかけるときに使用します。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	止めぬい	×	
々々々	6	6	伸縮ぬい	J	伸縮性のあるぬい目なので、伸びる布地をぬうときに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	1.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	止めぬい	×	
＼＼＼＼＼	7	7	ジグザグ (中基線)	J	たち目かがりやアップリケなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	1.4 0.0 - 5.0	返しぬい	×	
＼＼＼＼＼	8	8	ジグザグ (中基線)	J	たち目かがりやアップリケなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	1.4 0.0 - 5.0	返しぬい*	○	
＼＼＼＼＼	9	9	3点ジグザグ	J	普通地、厚地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくりいぬいなど幅広い用途に使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 5.0	返しぬい*	×	
＼＼＼＼＼	10	10	たち目かがり	G	薄地、普通地のたち目かがりに使用します。	3.5 2.5 - 5.0	2.0 0.4 - 5.0	止めぬい	×	
▽▽▽▽▽	11	11	たち目かがり	G	厚地のたち目かがりに使用します。	5.0 2.5 - 5.0	2.5 0.4 - 5.0	止めぬい	×	
TTTT	12	12	たち目かがり	J	伸びる布地のたち目かがりに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	止めぬい	×	
＼＼＼＼＼	13	13	まつりぬい	R	普通地のまつりぬいに使用します。	00 3← - →3	2.0 0.4 - 5.0	止めぬい	×	
＼＼＼＼＼	14	14	まつりぬい	R	伸びる布地のまつりぬいに使用します。	00 3← - →3	2.0 0.4 - 5.0	止めぬい	×	
一一一一	15	15	アップリケ	J	アップリケに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	止めぬい	×	

ぬい方早見表

ぬい方	CPF30 番号	CPF20 番号	名前	押え	主な用途	振り幅 [mm]	ぬい目の長さ [mm]	返しぬい スイッチ	シングル オーフ
						自動 手動	自動 手動		
□	16	16	ボタン穴かがり	A	ねむり穴、横穴用。薄地から普通地のボタン穴かがりに使用します。ブラウス、シャツなどに使用します。	5.0 3.0 - 5.0	0.4 0.2 - 1.0	自動 止めぬい	×
□	17	17	ボタン穴かがり	A	両止めボタン穴かがり。麻、木綿など、ある程度腰のある素材に適しています。ホームウェアやブラウスなど手軽にぬえるものに使用します。	5.0 3.0 - 5.0	0.4 0.2 - 1.0	自動 止めぬい	×
□	18	18	ボタン穴かがり	A	はとめ穴。厚地や毛足の長い布のボタン穴かがりに使用します。プレザー、スツ、コートなどに使用します。	7.0 3.0 - 7.0	0.5 0.3 - 1.0	自動 止めぬい	×
❖	19	19	スマッキング	J	スマッキングや飾りぬいに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0	止めぬい	×
❖	20	20	ファゴティング	J	ファゴティングは布地と布地の間を離して糸でかがる方法をいい、ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	止めぬい	×
■	21	-	たち目かがり	G	厚地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	5.0 3.5 - 5.0	2.5 0.4 - 5.0	止めぬい	×
○	22	-	手ぬい風直線	J	上糸にナイロン透明糸、下糸にキルトに合った色の糸を使うと手ぬい風のキルト直線がぬえます。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	止めぬい	×
△	23	-	ジグザグ	J	アップリケキルトやフリーモーションキルト、サテンぬいなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	1.4 0.0 - 5.0	返しぬい *	○
△	24	-	アップリケ (左)	J	アップリケやバインディングをするときに使用します。	1.5 0.0 - 7.0	1.2 0.4 - 5.0	止めぬい	×
△	25	-	アップリケ (右)	J	アップリケやバインディングをするときに使用します。	1.5 0.0 - 7.0	1.2 0.4 - 5.0	止めぬい	×
◆	26	-	サテンスカラップ	N	スカラップは半月状の丸いカーブの連続した波形の模様をいいます。ブラウスやハンカチなどのふち飾りに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	0.5 0.1 - 5.0	止めぬい	×
※	27	-	飾りぬい	J	飾りぬいに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	止めぬい	×
~	28	-	飾りぬい	N	飾りぬいやゴムひもつけに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 5.0	止めぬい	×
❖	29	-	飾りぬい	N	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	4.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	止めぬい	×
□	30	-	飾りぬい	J	飾りぬいに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 5.0	止めぬい	×
△	31	-	飾りぬい	N	レースつけやふち飾りなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	止めぬい	×
△△	32	-	飾りぬい	N	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	5.0 0.0 - 7.0	4.0 0.4 - 5.0	止めぬい	×
++	33	-	飾りぬい	N	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	4.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	止めぬい	×
***	34	-	飾りぬい	N	ふち飾りなどに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 5.0	止めぬい	×

ぬい方	CPF30 シリーズ	CPF20 シリーズ	名前	押え	主な用途	振り幅 [mm]	ぬい目の長さ [mm]	返しぬい スイッチ	ワオーナー ^ト キック
						自動 手動	自動 手動		
	35	-	飾りぬい	N	つき合わせや飾りぬいに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	2.0 0.4 - 5.0	止めぬい	×
	36	-	ボタン穴かがり	A	伸びる布地のボタン穴かがりに使用します。芯ひもを入れてぬいます。	6.0 3.0 - 6.0	1.5 1.0 - 3.0	自動 止めぬい	×
	37	-	ボタン穴かがり	A	伸びる布地や編み地のボタン穴かがりに使用します。芯ひもを入れてぬいます。	6.0 3.0 - 6.0	1.0 0.5 - 2.0	自動 止めぬい	×
	38	-	ボタン穴かがり	A	はとめ穴。厚地や毛足の長い布の横穴ボタン穴かがりに使用します。厚手のコートなどに使用します。	7.0 3.0 - 7.0	0.5 0.3 - 1.0	自動 止めぬい	×
	39	-	ダーニング	A	普通地のつくりぬいに使用します。	7.0 2.5 - 7.0	2.0 0.4 - 2.5	自動 止めぬい	×
	40	-	かんどめ	A	ぬい目がほどけやすい箇所やポケット口などのあき止まり部分の力の加わる部分の補強に使用します。	2.0 1.0 - 3.0	0.4 0.3 - 1.0	自動 止めぬい	×



実用ぬい編

ここでは、実用ぬいのさまざまな機能を紹介しています。基本的な縫製だけでなく、筒ものぬいやボタン穴かがりなど、本機をもっと活用したいときの詳しい操作方法を知ることができます。

ページ数は、「S」の記号で始まります。

第1章 きれいに仕上げるために S-2

第2章 いろいろなぬい方 S-6



▲ 注意

- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート／ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。
押えの交換については、「基本機能編」を参照してください。

第1章 きれいに仕上げるために

上手にぬうコツ

試しぬいをする

本製品は、ぬう布地に適した糸と針をセットし、模様を選択すると、自動的に適切な糸調子や模様の振り幅（ジグザグの振り幅）・ぬい目の長さが設定されるようになっています。しかし、布地の種類やぬい方によっては必ずしも思い通りにならないことがあるので、試しぬいをするようにしましょう。

試しぬいをするときは、実際に使用する布地のはぎれと糸を使用して、糸調子や模様の振り幅（ジグザグの振り幅）・ぬい目の長さを確認します。ぬい方や、布地を何枚重ねてぬうかによってもぬった結果は異なるので、実際にぬうときと同じ状態で試しぬいをします。

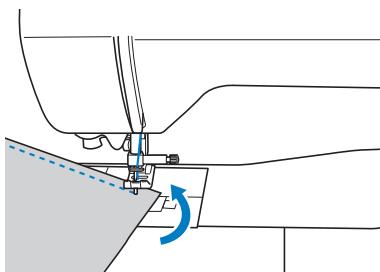
ぬう方向を変える

1 角までぬったら、ミシンをストップさせます。

このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、④（針上下スイッチ）を押して針を下げます。

2 押えを上げ、布地を持って回転させます。

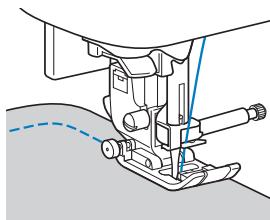
針位置を基点に回転させます。



3 押えを下げ、続きをぬいます。

カーブをぬう

途中でミシンをストップさせながら、少しづつ向きを変えてぬいます。S-3の「ぬいしろの幅をそろえる」を参考にして、ぬいしろと平行になるようにぬいます。

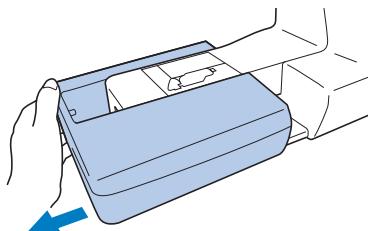


ジグザグ模様をぬうときは、ぬい目の長さを短めにするとききれいに仕上がりります。

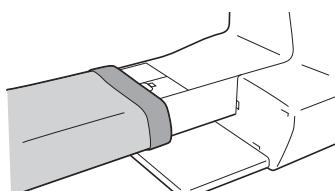
筒ものをぬう

そで口やズボンのすそなどの小さな筒ものをぬうときは、補助テーブルを取り外してフリーアームにします。

1 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



2 下図のように布地をアームにセットし、布地を回しながらぬっていきます。



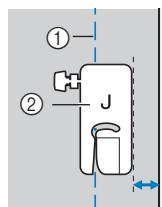
3 ぬい終わったら、補助テーブルをもとに戻します。

ぬいしろの幅をそろえる

布端と平行に一定の幅でぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端か針板の目盛りを基準にしてぬいます。

■ 押えを基準にする

押えの右端と布端が一定の幅で平行になるようにぬいます。

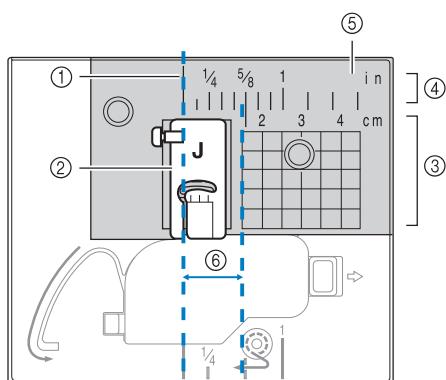


① ぬい目
② 押え

■ 針板を基準にする

針板には、直線 [左] の針位置からの長さが表示されています。針板に刻まれている目盛りと布端を合わせてぬいます。上側の目盛りは $1/8$ インチ（約 3mm）単位、下側の目盛りは 5mm 単位になっています。

左基線の模様の場合（振り幅：0.0mm）



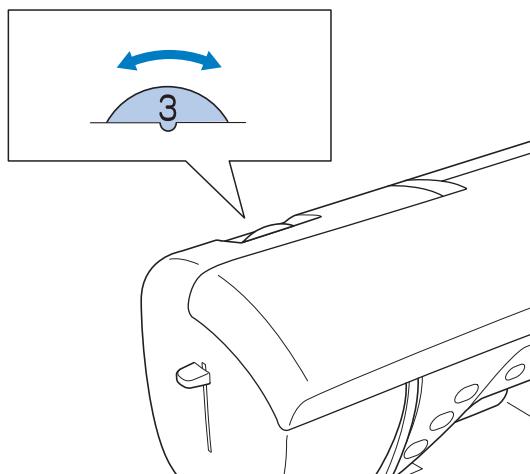
① ぬい目
② 押え
③ cm 目盛り
④ インチ目盛り
⑤ 針板
⑥ 1.5cm

押え圧を調節する

押え圧（押えが布地を押さえる強さ）を調節することができます。

- 1 押えレバーを下げます。
- 2 ミシン本体背面の押え圧ダイヤルを回して、押え圧を調節します。

押え圧は 1 ~ 4 の 4 段階で調節します。
数字が小さいほど弱く、大きいほど強くなります。



- 3ぬい終わったら、ダイヤルを 3（標準）に戻します。

S

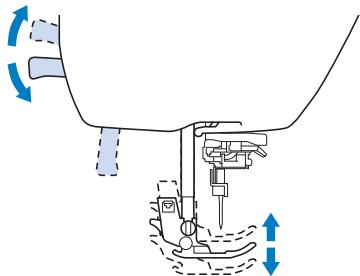
きれいに仕上げるために

いろいろな素材をぬう

厚い布地をぬう

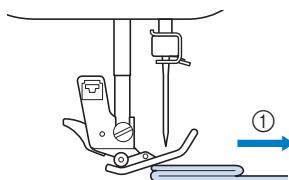
■ 押えの下に布地が入らない場合

押えレバーは2段階に上がります。厚地を重ねてぬう場合など布地を入れにくいときは、レバーをさらに押し上げると、押えがもう一段上がり布地を入れやすくなります。



■ 布地が送られない場合

厚い布地をぬうとき、下図のように、押えが水平にならず、ぬい始めに布地が送られないことがあります。そのようなときは、ジグザグ押え< J >の左側の黒いボタンを使うと、押えを水平に保ち、スムーズに布地を送ることができます。

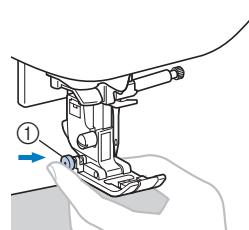


① ぬう方向

1 押えを上げます。

2 ぬい始めの位置に合わせて、布地をおきます。

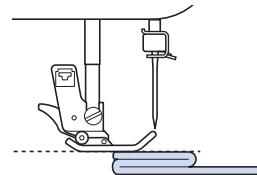
3 ジグザグ押え< J >を水平に保持して、左側の押え固定ピン（黒いボタン）を押したまま、押えを下げます。



① 押え固定ピン（黒いボタン）

4 押え固定ピン（黒いボタン）から手を離します。

→ 押えが水平に保たれ、布が送られます。



→ ぬい進めると押えはもとに戻ります。



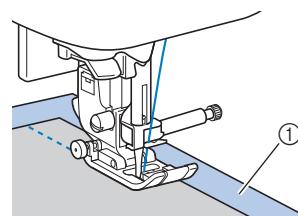
注意

- 6mm以上厚い布地をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れ、けがをするおそれがあります。

薄い布地をぬう

薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送られないことがあります。

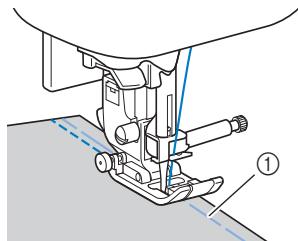
状態の良い針を使い、針位置をいちばん左か右に設定すると、布地が送り歯の中に巻き込まれるのを防ぎやすくなります。布が巻きこまれてしまう場合は、布地の下にハトロン紙などの薄い紙や接着芯をしいて、布地と一緒にぬいます。ぬい終わったら、紙や接着芯をやぶって取り除きます。



① 接着芯または薄い紙

伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。



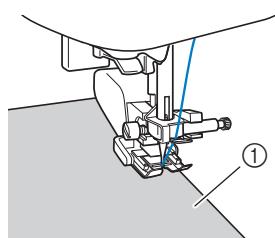
① しつけ

ニット生地をぬうときは、伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。また、ニット用針を使用してください。推奨する模様は以下の模様です。



ビニールや皮革をぬう

ビニールコーティングや皮革など、押えに貼りついてぬいにくい素材には別売のウォーキングフットを使用します。



① 皮革



お願い

- ウォーキングフットは、直線模様またはジグザグ模様のみに使用できます。ウォーキングフット使用時は返しづらいをしないでください。自動返しづらい／止めぬいを設定するときは、ぬい始めに返しづらいをしない直線またはジグザグ模様を選択してください。詳細は、「基本機能編」の「ぬい方早見表」を参照してください。
- ウォーキングフットを使用するときは、あらかじめ実際に使用する生地のはぎれで試しぬいをして、生地に押えのあとが残らないことを確認してください。

面ファスナー（マジックテープ[®]）をぬう



▲ 注意

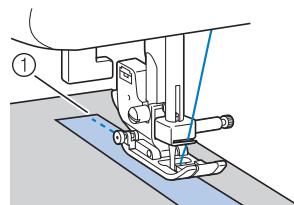
- 面ファスナーは、のりが付いていない縫製用のものを使用してください。のりが針やかまに付着すると、故障の原因となります。
- 面ファスナーを細い針（9～11番）でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。



お願い

- ミシンでぬう前に、しつけをして面ファスナーと布地をぬい合わせておいてください。

ブーリーを手で回して面ファスナーに針を刺し、針がスムーズに通ることを確認してから、面ファスナーの端を低速でぬります。針が通らない場合は、厚地用の針と糸に交換してください。（「基本機能編」の「布地と糸の種類による針の使い分け」参照）



① 面ファスナーの端



お知らせ

- “マジックテープ[®]”は、株式会社クラレの、面ファスナーの登録商標です。

第2章 いろいろなぬい方

布をぬい合わせる

基本となる直線ぬいをします。

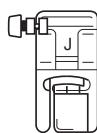
名前	ぬい方	CPF30	CPF20	押え
		シリーズ	シリーズ	
	模様番号			
直線（左基線）	①	1	1	J
	②	2	2	
直線（中基線）	③	3	3	J
直線（中基線）	④	4	4	
3重ぬい	⑤	5	5	

注意

- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

1 ぬい合わせるところを、しつけまたはまち針で留めます。

2 ジグザグ押え< J >を取り付けます。



3 模様を選択します。

4 ぬい始めの位置に針を刺します。

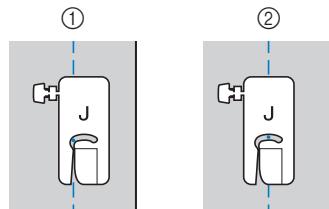
5 押えを下げ、ミシンをスタートさせます。

6 ぬい終わったら、糸を切れます。



■針位置を変えるとき

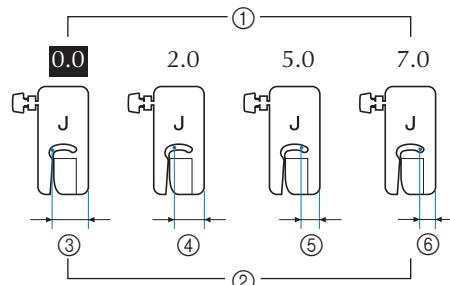
直線 [左] と直線 [中] は、基線となる針位置が異なります。



① 直線 [左]

② 直線 [中]

直線 [左] は、ジグザグの振り幅が標準の設定 (0.0mm) のときに、針位置から押えの右端まで 12mm あります。振り幅を変更 (0.0 ~ 7.0mm) すると、針位置が変えられます。押えの右端に布端を合わせてぬうと、一定の幅でぬうことができます。



① 振り幅

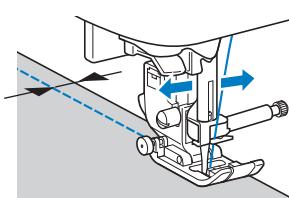
② 針位置から押え右端までの幅

③ 12.0mm

④ 10.0mm

⑤ 7.0mm

⑥ 5.0mm



- 詳細は、「基本機能編」の「振り幅を調節する」を参照してください。

すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。

名前	ぬい方	CPF30	CPF20	押え
		シリーズ	シリーズ	
まつりぬい	↖ ↗	13	13	R
	↖ ↘ ↗ ↘	14	14	



注意

- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

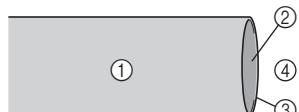


お知らせ

- 筒の大きさがアームに入らないほど小さいときや、筒の長さが短いときは、布地がうまく送られず、きれいに仕上がらないことがあります。

1

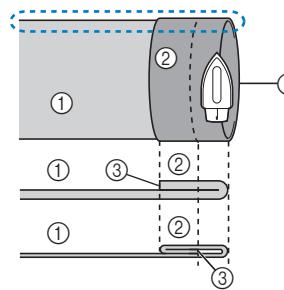
すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。



- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ すそ側

2

できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。



- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線

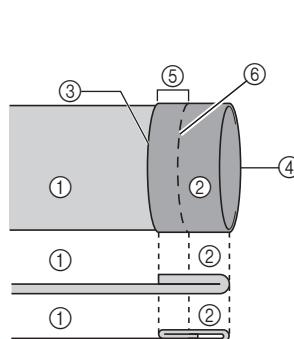
< 厚い布地 >

< 普通地 >

< () を横から見た図 >

3

布端から約 5mm のところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。



- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- ⑤ 5mm
- ⑥ しつけ

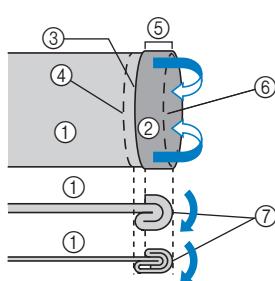
< 厚い布地 >

< 普通地 >

< 横から見た図 >

4

しつけをしたところから、内側へ折り込みます。



- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- ⑤ 5mm
- ⑥ しつけ
- ⑦ しつけの位置

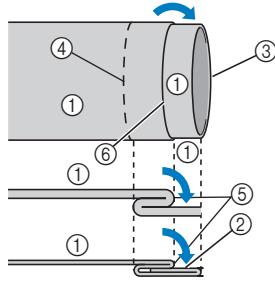
< 厚い布地 >

< 普通地 >

< 横から見た図 >

5

布端を開いて裏返します。



- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- ⑤ しつけの位置
- ⑥ しつけ

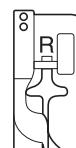
< 厚い布地 >

< 普通地 >

< 横から見た図 >

6

まつりぬい押え < R >を取り付けます。



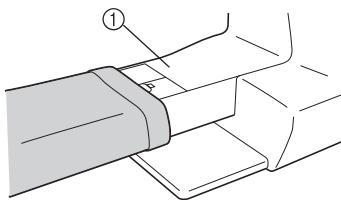
S

いろいろなぬい方

7 模様 または を選択します。

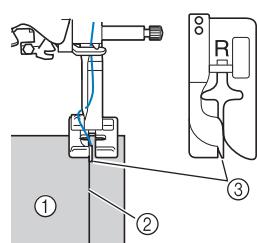
8 補助テーブルを外して、ミシンをフリー アームにします。

9 下図のように布地をアームにセットし、布地を回せることを確認して、ミシンをスタートさせます。



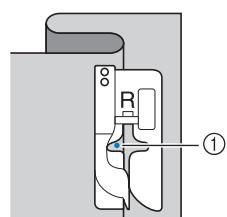
① アーム

10 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えを下げます。



① 裏
② 折り山
③ ガイド

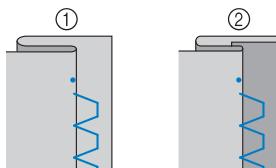
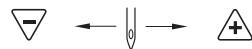
11 プーリーをゆっくり手前に回して針を下げる、針が折り山に少しかかる位置にあるか確認します。



① 針落ち位置

針落ち位置を変更するときは、針を上げてから振り幅を変更します。

*振り幅を調整することで針の落ち位置の微調整ができます。(振り幅の設定の数値の単位はmmではありません。)



① 厚い布地

② 普通地

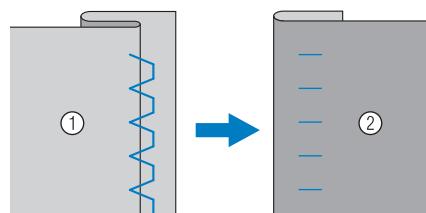
お知らせ

- 左側の針落ち位置が折り山にかかっていないと、まつりぬいをすることができません。また、針があまり折り山のほうにかかりすぎると、折りを広げることができず布地の表側にぬい目が大きく出て、きれいに仕上がりません。
うまくまつりぬいをできないときは、以下の解決方法を参照してください。

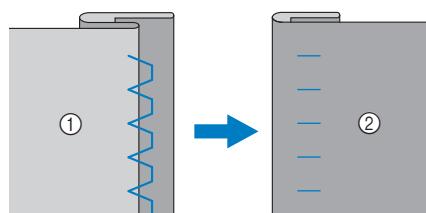
■針がかかりすぎているとき

針が左側にいきすぎています。
振り幅を小さくして、針が折り山に少しかかるように調節します。

□ 例：厚地



□ 例：普通地

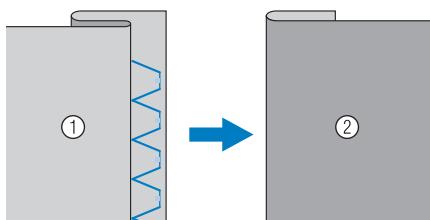


① 裏
② 表

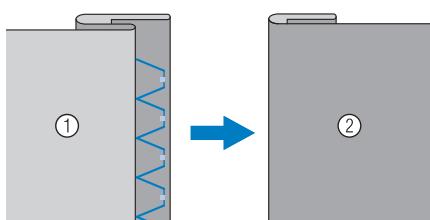
■針がかかっていないとき

針が右側にいきすぎています。
振り幅を大きくして、針が折り山に少しかかるよう調節します。

□ 例：厚地



□ 例：普通地



① 裏

② 表

12 折り山に押えのガイドを沿わせてねいります。

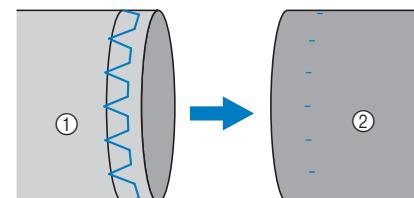
13 ぬい終ったらミシンを止め、針と押えを上げ、布地を後ろに引いて取り出します。



お願い

- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えが破損するおそれがあります。

14 しつけをほどき、布地を表に返します。



① 裏

② 表

布端を始末する

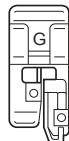
裁断した布端がほつれないように、たち目かぎりをします。

たち目かぎり押え<G>を使う たち目かぎり

名前	ぬい方	CPF30	CPF20	押え
		シリーズ	シリーズ	
たち目かぎり	縫	10	10	G
	△	11	11	
	目	21	-	

- ⚠ 注意**
- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

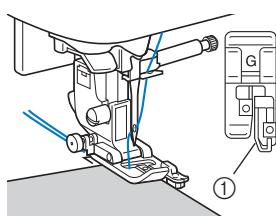
- 1 たち目かぎり押え<G>を取り付けます。



- 2 模様を選択します。

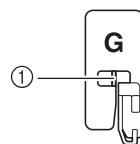
- ⚠ 注意**
- たち目かぎり押え<G>を使用するときは、必ずたち目かぎり押え<G>用の模様を選んでください。間違った模様でぬうと、針が押えに当たり、針が折れたり、押えが破損したりするおそれがあります。

- 3 押えのガイドに布端を当て、押えを下げます。



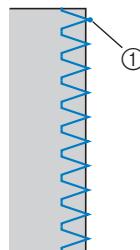
① ガイド

- 4 プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認します。



① 針が当たらないように注意してください。

- 5 布端をガイドに当てながら、ガイドにそってねじります。



① 針落ち位置

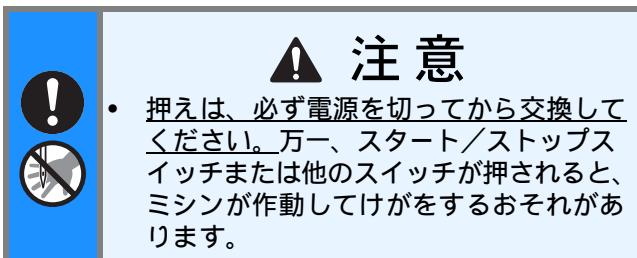
- ⚠ 注意**
- 押えを最上位置まで上げると、針が押えに当たるおそれがあります。

- 6 ぬい終わったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

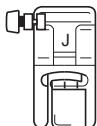
- お願ひ**
- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えのピンが破損するおそれがあります。
 - 押えに糸がからみついた場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えを上げて押えを取り外してください。糸がからんだまま、押えを上げると、押えが破損するおそれがあります。

ジグザグ押え<J>を使うたち 目かがり

名前	ぬい方	CPF30 シリーズ	CPF20 シリーズ	押え
		模様番号		
ジグザグ（中基線）		7	7	
3点ジグザグ		9	9	J
たち目かがり		12	12	

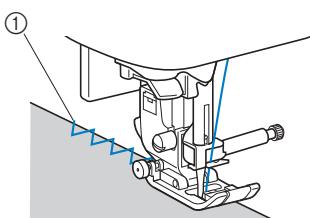


1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

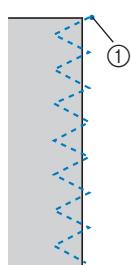


2 模様を選択します。

3 針が布端よりわずかに外側に落ちるようになります。



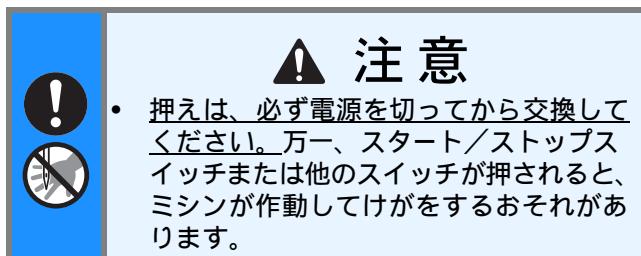
① 針落ち位置



① 針落ち位置

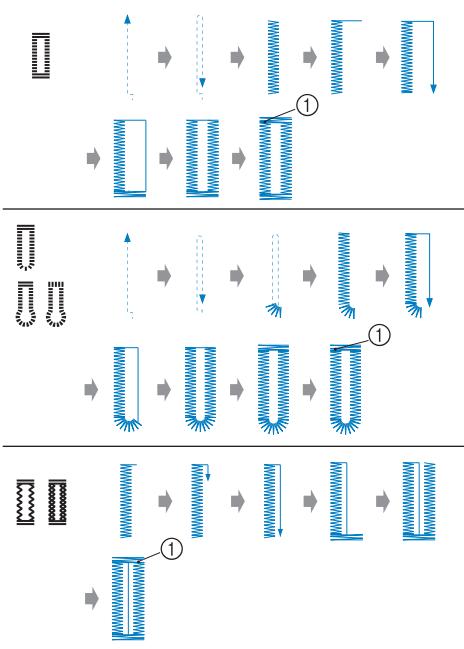
ボタン穴かがり

名前	ぬい方	CPF30	CPF20	押え
		シリーズ	シリーズ	
		模様番号		
ボタン穴かがり		16	16	A
		17	17	
		18	18	
		36	-	
		37	-	
		38	-	

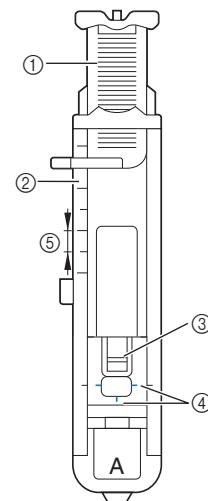


「ボタンの直径+厚み」が 28mm までのボタン穴を作ることができます。

ボタン穴かがりは、図のように押えの手前から後ろに向かってぬいます。

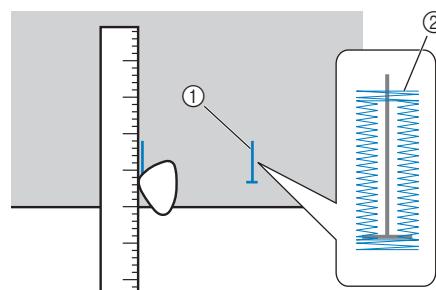


ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え < A > の各部の名称は以下のとおりです。

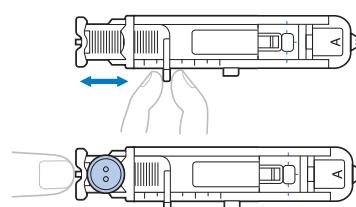


- ① 台皿
- ② 押えスケール
- ③ ピン
- ④ しるし
- ⑤ 5mm

1 布地の穴かがりをする位置に、ボタンの直径と厚みを合わせた長さのしるしをつけます。



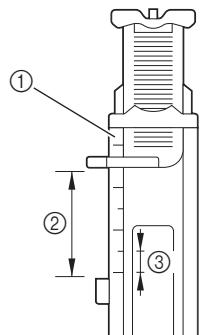
2 押えの台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。



■ ボタンが台皿にのらない場合

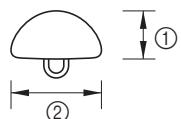
押えスケールの目盛りを使用して、穴かがりの大きさを設定します。押えスケールは1目盛り5mmです。

押えスケールの目盛りをボタンの直径 + 厚みの寸法に合わせてください。



- ① 押えスケール
- ② でき上がり寸法 (直径 + 厚み)
- ③ 5mm

例) 直径 1.5cm 厚み 1cm のボタンの場合、2.5cm の目盛りに合うように、台皿を引き出します。



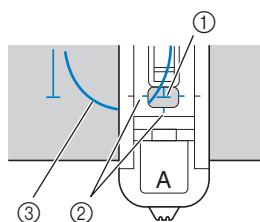
- ① 厚み 1cm
 - ② 直径 1.5cm
- ボタン穴かがりの大きさが決まります。

3 ボタン穴かがり押え < A > を取り付けます。

ボタン穴かがり押え < A > を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

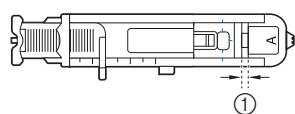
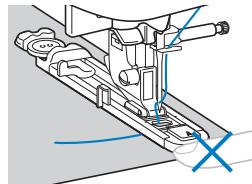
4 模様を選択します。

5 押えの赤のしるしと布地のしるしの手前側を合わせ、押えを下げます。



- ① 布地のしるし (手前)
- ② 赤のしるし
- ③ 上糸

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。

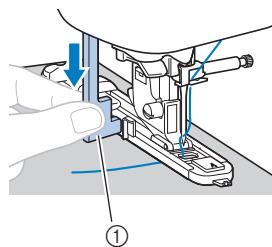


- ① すきまをなくさない

お知らせ

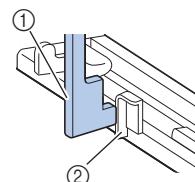
- しるしの位置を合わせにくい場合は、ブリーラーをゆっくりと手前に回して針が刺さる位置を確認し、そこに布地のしるしを合わせます。

6 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



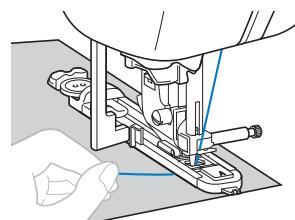
- ① ボタン穴かがりレバー

ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



- ① ボタン穴かがりレバー
- ② 突起部

7 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

8 (糸きりスイッチ) を1回押して糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。



お知らせ

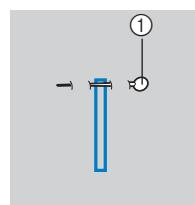
- あらかじめプログラム糸切りを設定しておくと、ぬい終わりに止めぬいをしてから自動的に上糸と下糸を切れます。
詳細は、「基本機能編」の「自動で糸を切る」を参照してください。
- ミシン左側の糸切りやはさみを使って糸を切る場合は、(+) (針上下スイッチ) で針を上げ、抑えも上げて、布を引き出してから糸を切ってください。

9

ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

10

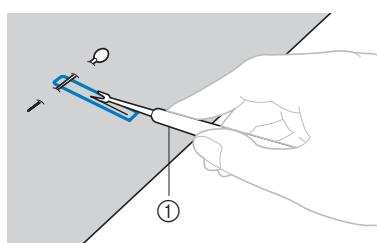
ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺します。



① まち針

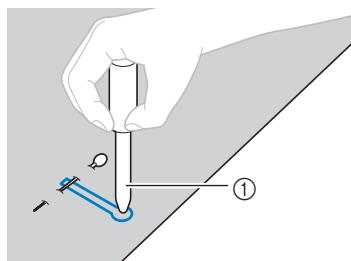
11

付属のリッパーでボタン穴を切り開きます。



① リッパー

はとめ穴の場合は、付属のはとめ穴パンチで穴を開けてから、リッパーで切り開きます。



① はとめ穴パンチ

- はとめ穴パンチを使用するときは、布地の下に厚紙などを敷いてください。

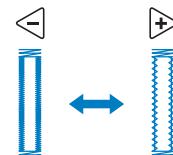


注意

- リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべてのときには、必ずおそれがあります。
- リッパーは、本来の使用目的以外での使用はしないでください。

■ぬい目のあらさを変えるとき

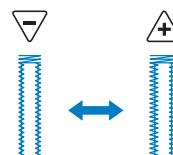
ぬい目の長さを調節します。



- 詳細は、「基本機能編」の「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。
- 厚地の場合などで布地が進まないときは、ぬい目をあらくします。

■振り幅を変えるとき

ジグザグの振り幅を調節します。



- 詳細は、「基本機能編」の「振り幅を調節する」を参照してください。



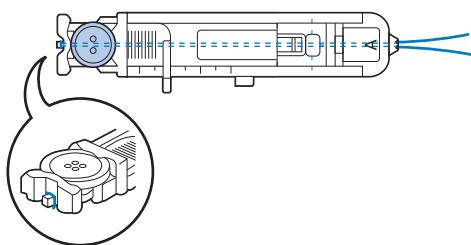
お願い

- ボタン穴かがりをする前に、模様の長さと幅を確認するために、はぎれを使って試しぬいをしてください。

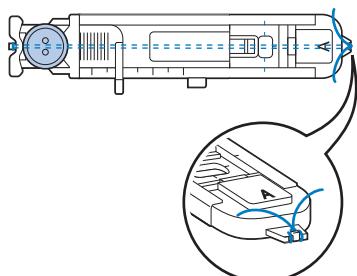
■ 伸びる布地をぬうとき (CPF30 シリーズのみ)

伸びる布地にボタン穴かがりをするときは、芯ひもを入れてねします。

- ボタン穴かがり押え< A > の図の部分に芯ひもをかけます。



- 芯ひもの端を反対側のミゾにはさんで軽く結びます。



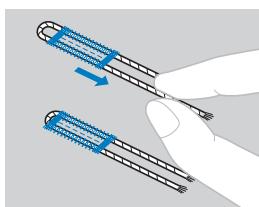
- ボタン穴かがり押え< A >を取り付けます。

- 模様 または を選択します。

- 芯ひもの太さより大きめに振り幅を設定します。

- 押えを下げ、ボタン穴かがりレバーを下げる、ミシンをスタートさせます。

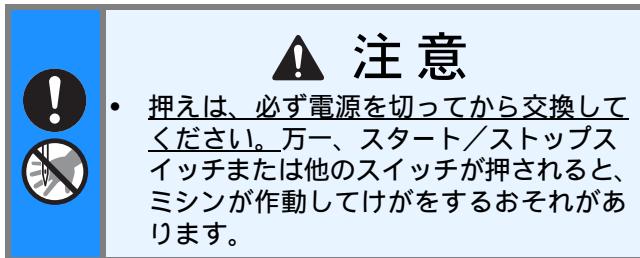
- ぬい終わったら、芯ひもを引いてたるみをなくします。



- 手ぬい針を使用して布地の裏側に芯ひもを引き出して結びます。

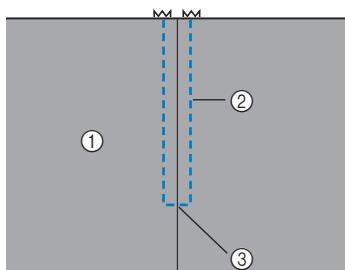
ファスナーつけ

名前	ぬい方	CPF30 シリーズ	CPF20 シリーズ	押え
模様番号				
直線（中基線）	①	3	3	I



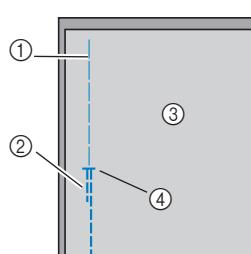
つき合わせ

つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。



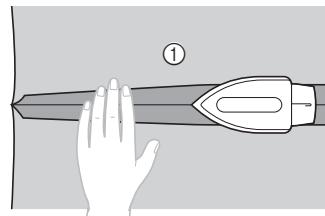
- ① 表
- ② ステッチ
- ③ あき止まり

- 1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。
- 2 あき止まりから下側に地ぬいをします。
布地は中表にし、あき止まりは返しづいをします。
- 3 ファスナーをつける部分のでき上がり線にしつけをします。



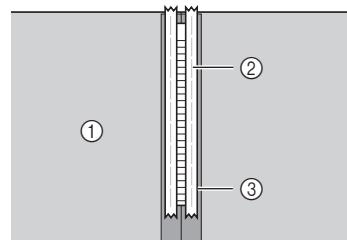
- ① しつけ
- ② 収しづい
- ③ 裏
- ④ あき止まり

- 4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



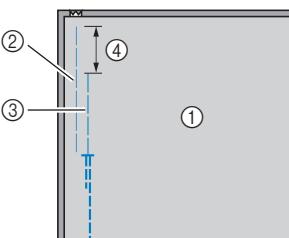
① 裏

- 5 ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。



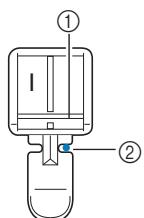
① 裏
② しつけ
③ ファスナー

- 6 でき上がり線のしつけを布端から5cmの位置までほどきます。



① 裏
② ファスナーのしつけ
③ でき上がり線のしつけ
④ 5 cm

- 7 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。



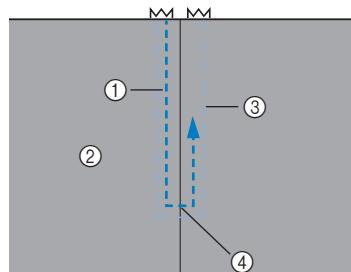
① ピン右側
② 針落ち位置

- 8 模様 を選択します。

⚠ 注意

- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線 [中] を使用し、ブーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 9 布地の表からステッチをかけます。



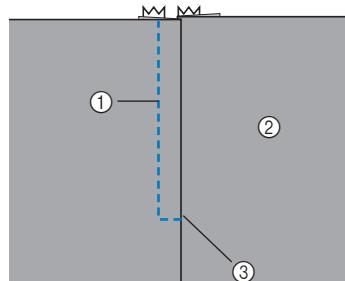
① ステッチ
② 表
③ しつけ
④ あき止まり

- ⚠ 注意
- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 10 しつけをほどきます。

片返し

布地の片側にステッチが入ります。脇ファスナーや後ろファスナーの作品を作るときに使用します。



① ステッチ
② 表
③ あき止まり

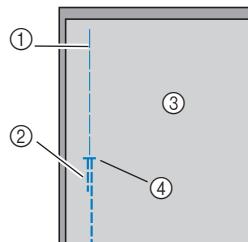
ここでは、脇ファスナーの場合を例に説明します。

- 1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 2 あき止まりから下側に地ぬいをします。

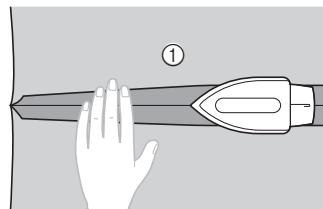
布地は中表にし、あき止まりは返しぐれをします。

- 3 ファスナーをつける部分のでき上がり線にしつけをします。



① しつけ
② 返しぐれ
③ 裏
④ あき止まり

- 4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。

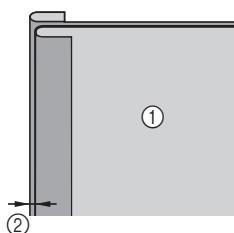


① 裏

S

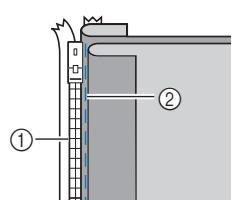
いろいろなぬい方

- 5 右側（ステッチが入らない方）のぬいしろを3mm出してアイロンをかけます。



① 裏
② 3mm

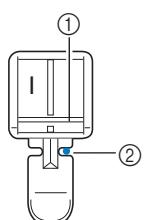
- 6 3mm出した折り山とファスナーのむしの端を合わせて、しつけまたはまち針で留めます。



① むし
② しつけ

- 7 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

例と反対側をぬう場合は、左側のピンを取り付けます。



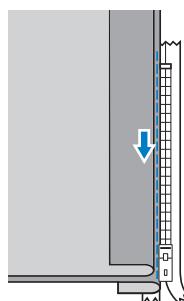
① ピン右側
② 針落ち位置

- 8 模様 を選択します。

⚠ 注意

- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線 [中] を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

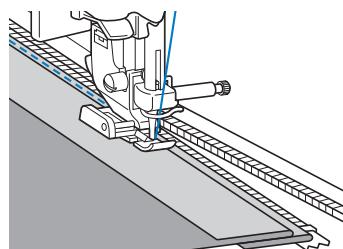
- 9 3mm出した折り山部分を、あき止まりの方からぬいます。



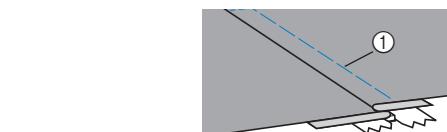
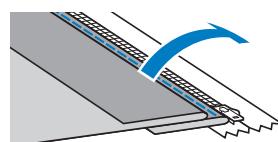
- ⚠ 注意**
- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 10 残り5cmの位置までぬったらミシンをストップさせ、針を下げたまま押えを上げます。

- 11 ファスナーを開いて続きをぬいます。



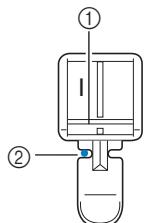
- 12 ファスナーをとじて表に返し、反対側をしつけします。



① しつけ

13 片押え<I>のピンの逆側を押えホルダーに取り付けます。

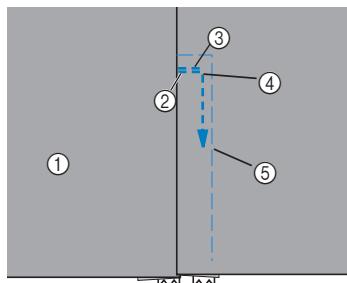
⑦ で右側に取り付けた場合は、左側に取り付けます。



① ピン左側
② 針落ち位置

14 布地の表からステッチをかけます。

あき止まり側から返しぬいをし、しつけをめやすにしてねします。



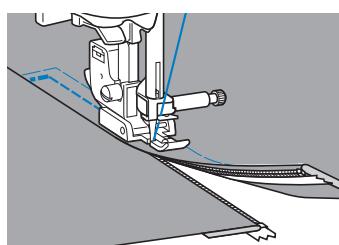
① 表
② あき止まり
③ 返しぬい
④ ぬい始め
⑤ しつけ

▲ 注意

- ・ ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

15 残り5cmほどまでぬったらミシンをストップさせ、針を下げるまま押さえを上げます。

16 でき上がり線のしつけをほどいてファスナーを開き、続きをぬいます。



S

いろいろなぬい方

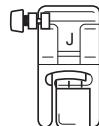
伸びる布地やゴムテープをぬう

名前	ぬい方	CPF30 シリーズ	CPF20 シリーズ	押え
		模様番号		
伸縮ぬい	縫	6	6	J
3点ジグザグ	縫	9	9	

- 注意**
- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

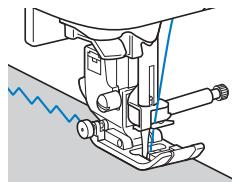
伸縮ぬい

- 1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。



- 2 模様縫を選択します。

- 3 布地を伸ばさないようにぬいます。

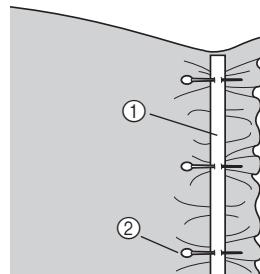


ゴムテープつけ

そで口やウエストなどにゴムテープをぬいつける場合、ゴムテープが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムテープを用意します。

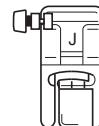
- 1 まち針で布地の裏側にゴムテープを留めます。

布地とゴムテープが均等になるようにまち針で数か所留めます。



① ゴムテープ
② まち針

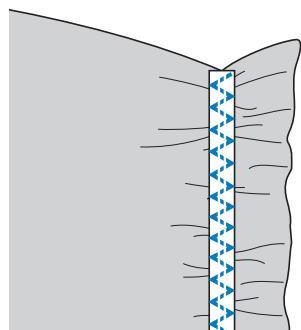
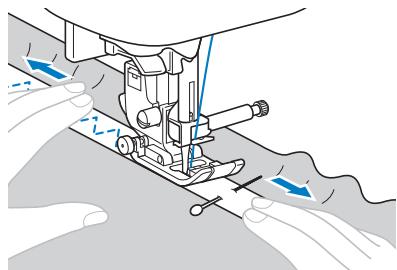
- 2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。



- 3 模様を選択します。

4 ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。



△ 注意

- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

S

いろいろなぬい方

アップリケ／パッチワーク／キルトぬい

名前	ぬい方	CPF30 シリーズ	CPF20 シリーズ	押え
	模様番号			
ジグザグ（中基線）	※	7	7	
ジグザグ	※ Q	23	-	
アップリケ	■	15	15	J
	■ Q	24	-	
	■ Q	25	-	
手ぬい風直線	□ Q	22	-	



注意

- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート／ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

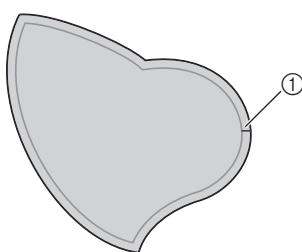


お知らせ

- 模様右下に記されている「Q」は、その模様がキルト用であることを示します。

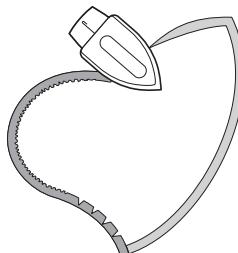
アップリケ

- 1 アップリケ布は3～5mmのぬいしろをつけて裁断します。

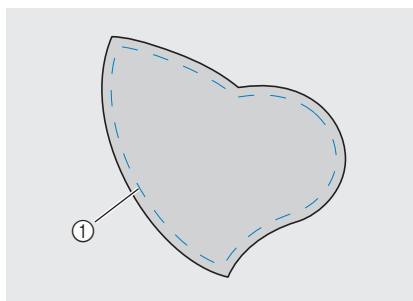


① ぬいしろ

- 2 アップリケ布の裏に厚紙の型紙をあてて、アイロンででき上がり線を折ります。



- 3 アップリケ布を表に返し、土台になる布地にしつけまたはのりでとめます。



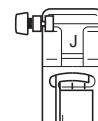
① しつけ



注意

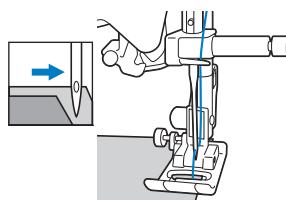
- のりでアップリケ布を土台になる布地にとめる場合は、ミシンでぬう部分にのりをつけないでください。のりが針やかまに付着すると、故障の原因となります。

- 4 ジグザグ押え< J >を取り付けます。



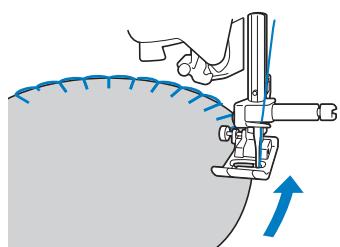
- 5 模様を選択します。

- 6 プーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。



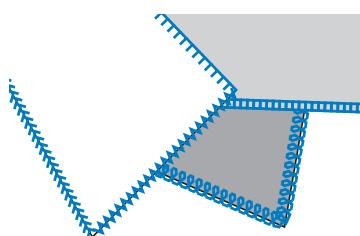
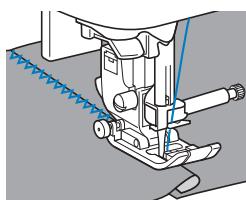


急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したまま、押えを上げて少しづつ方向を変えながらぬいます。



パッチワーク (クレイジーキルト)

- 1 上側になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。
- 2 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

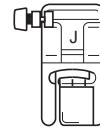


ピーシング

パッチワークで布と布（ピース）をぬい合わせることを、「ピーシング」といいます。布地は、すべて7mmのぬいしろを付けて裁断します。

直線（中基線）で、押えの右端、または左端から7mmのところをぬいます。

- 1 ピーシングする布地のぬいしろを、しつけまたはまち針で留めます。
- 2 ジグザグ押え< J >を取り付けます。



- 3 模様 を選択します。



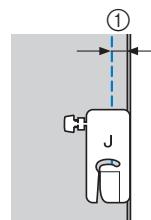
お願い

- ピーシングをするときは、ぬい目の長さを1.6 mmに設定してください。

- 4 押えの端に布端を合わせてぬいます。

■ぬいしろが右側のとき

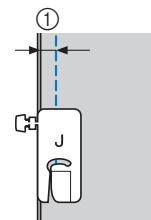
振り幅を5.0mmに設定し、押えの右端に布端を合わせてぬいます。



① 7mm

■ぬいしろが左側のとき

振り幅を2.0mmに設定し、押えの左端に布端を合わせてぬいます。



① 7mm



お知らせ

- ぬいしろの幅を変更する（針位置を変更する）方法は、「基本機能編」の「振り幅を調節する」を参照してください。

キルティング

表布と裏布の間にキルト綿をはさんでぬい合わせることを、「キルティング」といいます。ウォーキングフット^{*} やキルター^{*} を使用すると、きれいにぬうことができます。

* ウォーキングフット、キルターは別売です。



お願い

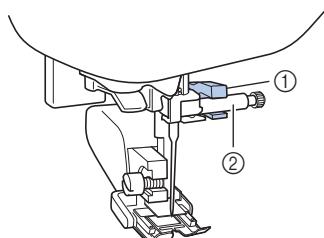
- ウォーキングフットを使用するときは、手で針に糸を通してください。糸通しレバーを使用する場合は、糸を通した後にウォーキングフットを取り付けてください。
- ウォーキングフットを使用するときは、速さをゆっくり～中速でぬってください。
- ウォーキングフットは、直線模様またはジグザグ模様のみに使用できます。ウォーキングフット使用時は返しづらいをしないでください。自動返しづらい／止めぬいを設定するときは、ぬい始めに返しづらいをしない直線またはジグザグ模様を選択してください。詳細は、「基本機能編」の「ぬい方早見表」を参照してください。

1 布地にしつけをします。

2 押えと押えホルダーを取り外します。

- 詳細は、「基本機能編」の「押えホルダーを取り外す／取り付ける」を参照してください。

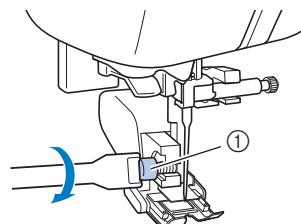
3 ウォーキングフットのレバーのふたまた部分で、針のとめネジの棒をはさみます。



① ふたまた部

② 針のとめネジの棒

4 押えレバーを下げる、押えホルダーのネジを付属のドライバー（大）で確実にしめます。



① 押えホルダーのネジ

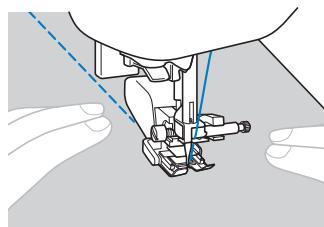


注意

- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬう前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

5 模様を選択します。

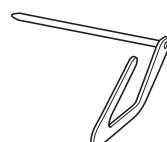
6 押えの両側に手を置き、布地をしっかりと張ってぬいます。



■ キルター^{*}を使う

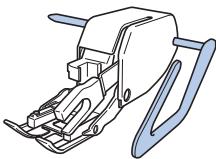
キルターを使用すると、ぬい目を平行にそろえて等間隔にぬうことができます。

* キルターは別売です。

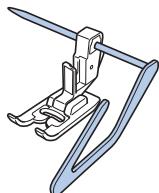


- 1 ウォーキングフットまたは押えホルダーの穴に、キルターの棒を差し込みます。

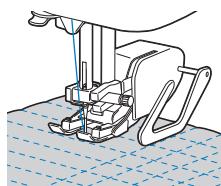
□ ウォーキングフット



□ 押えホルダー



- 2 ぬい終わったぬい目とキルターのガイドが合うように、棒の長さを調節します。



フリー モーション キルト

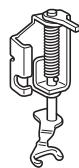
フリー モーション キルトでは、フットコントローラー（別売）を取り付けて、一定の速度でぬうことをお勧めします。ぬう速度は、ミシンのスピードコントロールレバーで調節できます。



▲ 注意

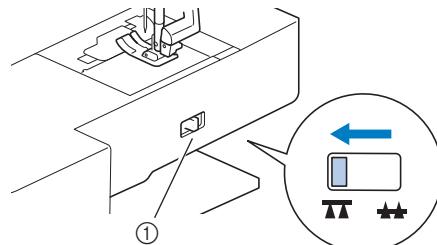
- フリー モーション キルトでは、ぬう速度に合うように布を動かしてください。無理に速く布地を動かすと、針が折れたり、他の損傷が起きるおそれがあります。

フリー モーション キルトをするときは、別売のオープントゥキルト押え<O>を使用します。



オープントゥキルト押え<O>

- 1 補助テーブルを外し、ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（▲）にします。



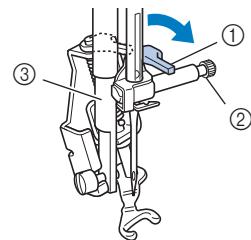
① ドロップレバー（背面から見た図）
→ 送り歯が下がります。

- 2 模様を選択します。

- 3 押えホルダーを取り外します。

- 詳細は、「基本機能編」の「押えホルダーを取り外す／取り付ける」を参照してください。

- 4 オープントゥキルト押え<O>のピンを針のとめネジの上に配置して、左下を押え棒に合わせて、オープントゥキルト押え<O>を取り付けます。

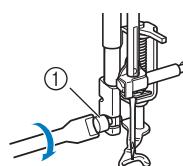


- ① ピン
② 針のとめネジ
③ 押え棒

お願い

- キルト押えが傾斜していないことを確認してください。

- 5 右手でキルト押えを持ちながら、左手で押えホルダーのネジを付属のドライバー（大）でしめます。



- ① 押えホルダーのネジ

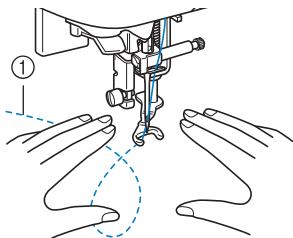
S

いろいろなぬい方

⚠ 注意

- ネジをしめるときは、必ず付属のドライバーを使用してください。ネジを確実にしめないと針がキルト押えに当たり、曲がったり折れたりするおそれがあります。

- 6** 両手で布地を引っ張り、一定の速度で布地を送り、ぬい目の長さが均一に約 2.0～2.5mm になるようにぬいます。



① ぬい目

- 7** ぬい終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側 (▲) にし、プーリーを回して送り歯を上げ、補助テーブルを元に戻します。



お知らせ

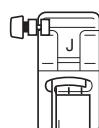
- 最初はきれいに仕上がる不容易ありますが、練習を重ねて素敵な作品を作りましょう。

振り幅コントロールを使用したサテンぬい

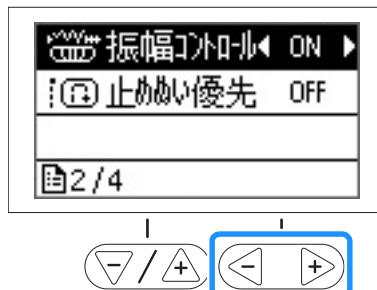
ジグザグ模様の振り幅を変化させて、サテン模様をぬうことができます。スピードコントロールレバーの設定を変更して、振り幅の調節が手もとでできるようにします。ぬう速度は、フットコントローラー（別売）で調節します。

- 1** フットコントローラーを取り付けます。

- 2** ジグザグ押え<J>を取り付けます。



- 3** [設定] を押して設定画面を表示し、「振幅コントロール」を「ON」にします。



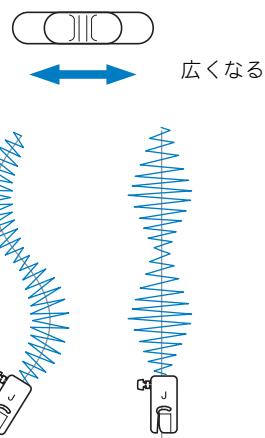
→ 模様の振り幅がスピードコントロールレバーで調節できるように設定されました。

- 4** [OK] を押します。

- 5** ジグザグ模様を選択します。

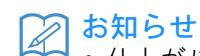
- 6** ぬいながら、スピードコントロールレバーを動かし、振り幅を調節します。

レバーを左に動かすと、振り幅は狭くなり、右に動かすと、振り幅は広くなります。



- ぬう速さは、フットコントローラーで調節します。

- 7** ぬい終わったら、「振幅コントロール」を「OFF」に戻します。



- 仕上がりは、布地の種類や糸の太さによって変わりますが、ぬい目の長さを 0.3～0.5mm に設定すると、きれいにぬうことができます。

丈夫にしたいところをぬう

そでぐりや股ぐりなどのぬい目を丈夫にしたり、ポケット口などのあき止まり部分を補強するときに使用します。

名前	ぬい方	CPF30	CPF20	押え
		シリーズ	シリーズ	
模様番号				
3重ぬい		5	5	J
ダーニング		39	-	A
かんどめ		40	-	



▲ 注意

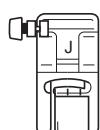
- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

3重ぬい

そでぐりや股ぐりなど、ぬい目を丈夫にしたいところをぬうときに使用します。

1

ジグザグ押え<J>を取り付けます。



2

模様

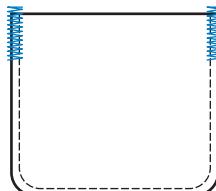
3

ミシンをスタートさせます。

かんどめ (CPF30 シリーズのみ)

かんどめは、ポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに使用します。

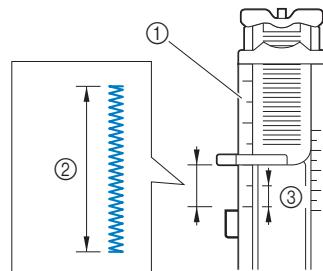
ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。



1

かんどめの長さを決めます。

ボタン穴かがり押え<A>の押えスケールの目盛り(1目盛り5mm)を合わせて、長さを決めます。



① 押えスケール

② かんどめのでき上がり寸法

③ 5mm

- 最大約28mmのかんどめができます。

2

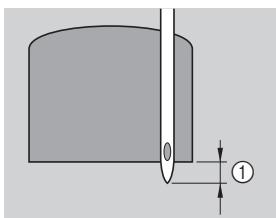
ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。

3

模様

4

ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より2mm手前に針が刺さる位置で押えを下げます。



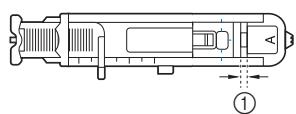
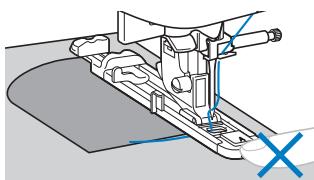
① 2mm

上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

S

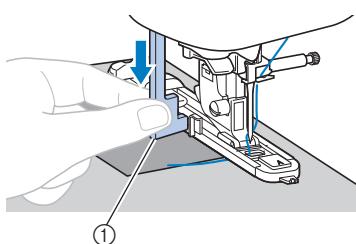
いろいろなぬい方

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。かんどめを正確な大きさにぬえません。



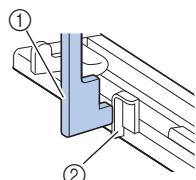
① すきまをなくさない

5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



① ボタン穴かがりレバー

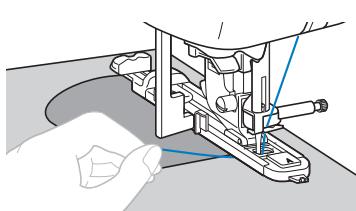
ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



① ボタン穴かがりレバー

② 突起部

6 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



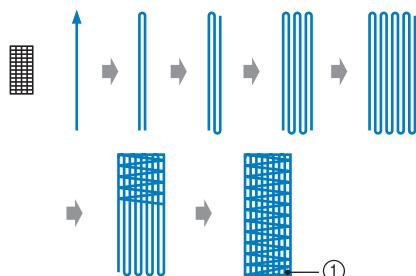
7 押えを上げ、布地を取りだしてから、糸を切ります。

8 ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

お知らせ

- 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く（ぬい目をあらく）します。詳細は、「基本機能編」の「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。

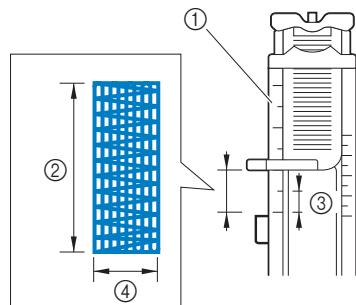
つくりいぬい（ダーニング） (CPF30 シリーズのみ)



① 止めぬい

1 つくりいぬいをする長さを決めます。

ボタン穴かがり押え< A >の押えスケールの目盛り（1 目盛り 5mm）を合わせて、長さを決めます。



① 押えスケール

② ダーニングのでき上がり寸法

③ 5mm

④ 7mm

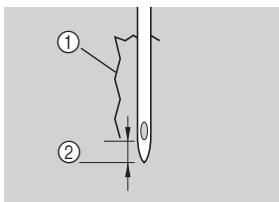
- 最大約 28mm のダーニングができます。

→ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

2 ボタン穴かがり押え< A >を取り付けます。

3 模様 ■■■ を選択します。

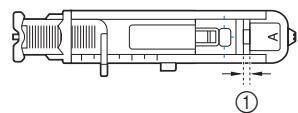
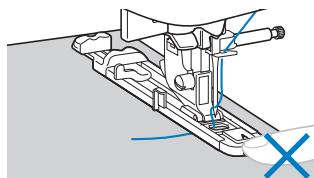
- 4** やぶれた箇所から2mm手前に針が刺さるように布地を置き、押えを下げます。



① やぶれた箇所
② 2mm

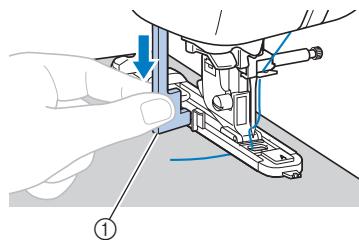
上糸を押えの穴から押えの下に通し、押えを下げます。

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。ダーニングを正確な大きさにねえません。



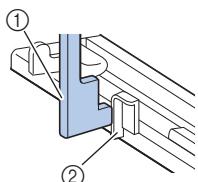
① すきまをなくさない

- 5** ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



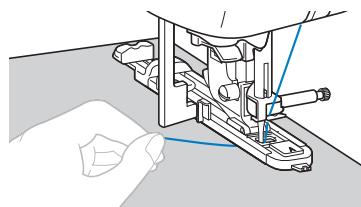
① ボタン穴かがりレバー

ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



① ボタン穴かがりレバー
② 突起部

- 6** 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



- 7** 押えを上げ、布地を取りだしてから、糸を切れます。

- 8** ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

お知らせ

- 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く（ぬい目をあらく）します。詳細は、「基本機能編」の「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。

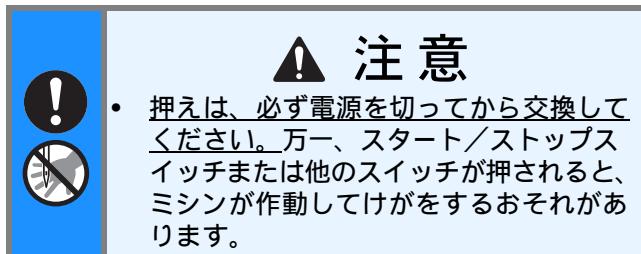
S

いろいろなぬい方

飾りぬいをする

いろいろな飾りぬいができます。

名前	ぬい方	CPF30	CPF20	押え
		シリーズ	シリーズ	
		模様番号		
スモッキング	❖❖	19	19	J
ファゴティング	❖❖	20	20	
サテンスカラップ	❖	26	-	N
飾りぬい	❖❖	27	-	J
	❖	28	-	N
	日	30	-	J
	EE	31	-	
	❖	32	-	N
	*	34	-	



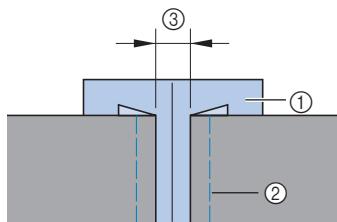
ファゴティング

布地と布地の間を離して糸でかがるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに使用します。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

- 1 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。

- 2 ハトロン紙などの薄い紙（または刺しゅう用接着芯）に4mmの間隔をあけて、布地をしつけします。

ハトロン紙（または刺しゅう用接着芯）の中央に線を書いておくとぬいやすくなります。

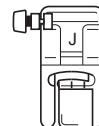


① ハトロン紙（または刺しゅう用接着芯）

② しつけ

③ 4mm

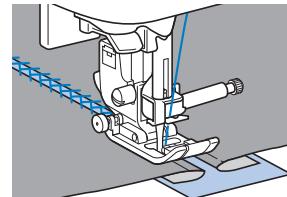
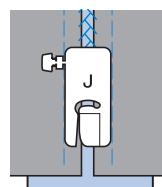
- 3 ジグザグ押え< J >を取り付けます。



- 4 模様 ❖❖ を選択します。

- 5 ジグザグの振り幅を 7.0mm に設定します。

- 6 押えの中心を布地と布地の中心に合わせてぬいます。

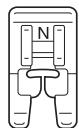


- 7 糸をやぶって取り除きます。

スカラップ (CPF30 シリーズのみ)

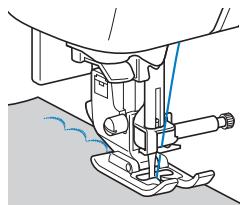
貝殻を並べたような連続した波形の模様を「スカラップ」といいます。ブラウスの衿やハンカチのふち飾りなどに使用します。

- 1 模様ぬい押え< N >を取り付けます。



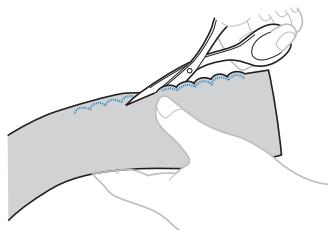
- 2 模様 を選択します。

- 3 模様が布端にかかるないように、布端から少し離してぬいます。



- ぬう前に布地にアイロン用スプレーのりをかけておくと、きれいに仕上がります。

- 4 ぬい目に沿って布端を切れます。



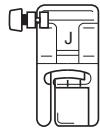
- 糸を切らないように注意してください。

スマッキング

ギャザーの上に飾りぬいまたは刺しゅうすることを「スマッキング」といいます。ブラウスの胸もとやそで口の飾りなどに使用します。

布地に模様を施すと同時に伸縮性もつけられる、飾りと実用を兼ねたぬい方です。

- 1 ジグザグ押え< J >を取り付けます。



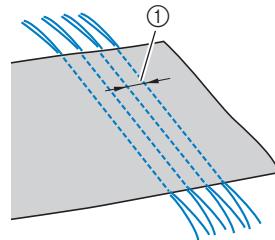
- 2 直線を選択し、ぬい目の長さを 4.0mm、上糸調子を弱めに設定します。

下糸は上に引き出しておきます。

- 詳細は、「基本機能編」の「ぬい目の長さを調節する」「糸調子を調節する」および「下糸を引き出してからぬう」を参照してください。

- 3 1cm の間隔をあけて、平行に数本ぬいます。

ぬい終わりは、糸を 5cm ほど引き出して切れます。

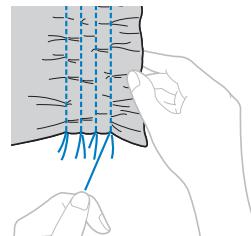


① 1cm

- 収しぬいと糸切りはしないでください。

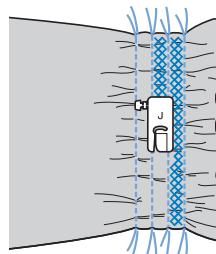
- 4 下糸を引いてギャザーを寄せます。

アイロンでギャザーを整えておきます。

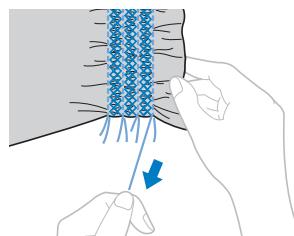


- 5 模様 または を選択します。

- 6 直線ぬいの間をぬいます。



- 7 直線ぬいの糸を抜き取ります。



S

いろいろなぬい方

ヘアルーム (CPF30 シリーズのみ)

別売のウイングニードルを使用し、針穴を大きくあけてレース風の飾り模様をぬいます。すその飾りやテーブルクロスなどに使用します。薄地または普通地で、張りのある平織りの布地を用意します。

1 ウィングニードルを取り付けます。



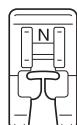
- ・ ウィングニードルは、モデル名：WN001 を使用してください。
- ・ 針の取り付け方の詳細は、「基本機能編」の「針の交換」を参照してください。
- ・ ウィングニードルを取り付けたときは、糸通し装置は使用できません。糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。針穴の手前から向こう側に手で糸を通してください。詳細は、「基本機能編」の「手で針に糸を通すとき」を参照してください。



！ 注意

- ・ ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅は、6.0mm 以下に設定してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- ・ ジグザグの振り幅を調節したときは、ブーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

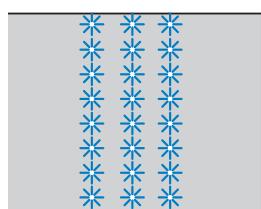
2 模様ぬい押え< N >を取り付けます。

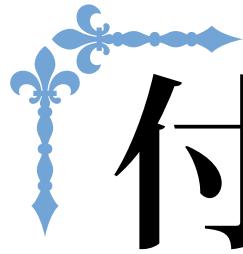


3 模様を選択します。

模様は · · が適しています。

4 ミシンをスタートさせます。





付録

ここでは、困ったときのヒントや、本機を長くお使いいただくためのお手入れ方法などを紹介しています。
ページ数は、「A」の記号で始まります。

第1章 お手入れ／困ったときには A-2

第1章 お手入れ／困ったときには

お手入れのしかた

注油について

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的に注油する必要はありません。万一、ブーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

ミシンを保管するときのご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。
結露によるさびの発生など、故障の原因となります。

- ・ 温度が著しく高くなる場所
- ・ 温度が著しく低くなる場所
- ・ 急激に温度が変化する場所
- ・ 湿気、湯気が多い場所
- ・ 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- ・ 屋外や直射日光の当たる場所
- ・ ほこり、油煙の多い場所



お願い

- ・ 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。
長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

画面の汚れの掃除

画面が汚れた場合は、乾いたやわらかい布地などで軽くふきとってください。有機溶剤や洗剤は使用しないでください。



お願い

- ・ 湿った布で画面を拭かないでください。



お知らせ

- ・ 画面が結露したり、曇ったりする場合がありますが、故障ではありません。しばらくすると、結露や曇りはなくなります。

ミシンの汚れの掃除

ミシンが汚れた場合は、乾いたやわらかい布地などで軽くふきとってください。有機溶剤や洗剤は使用しないでください。



- ！ 注意**
- ・ ミシンの掃除は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。
けがまたは感電の原因となります。

かまの掃除

針板カバーの下にあるかまを掃除します。

かまには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良の原因になる場合があります。定期的に掃除してください。



- ① (針上下スイッチ) を押して針を上げます。



- 電源を切ります。



- 電源プラグをコンセントから抜きます。



- ！ 注意**
- ・ ミシンの掃除は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。
けがまたは感電の原因となります。



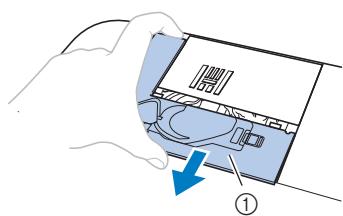
- 抑えを上げて、針と抑え、抑えホルダーを外します。

- ・ 詳細は、「基本機能編」の「針の交換」「抑えの交換」を参照してください。



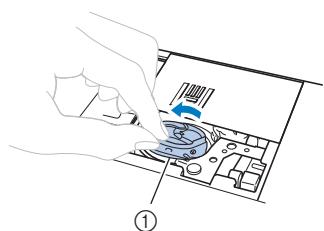
- 補助テーブルを取り付けている場合は外します。

6 針板カバーを手前に引いて外します。



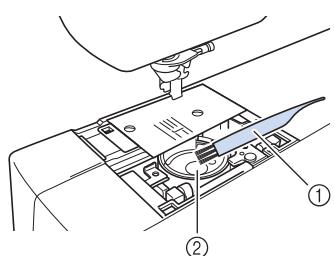
① 針板カバー

7 内かまを取り出します。



① 内かま

8 ブラシや掃除機で、外かまの周辺の糸くずやほこりを取り除きます。

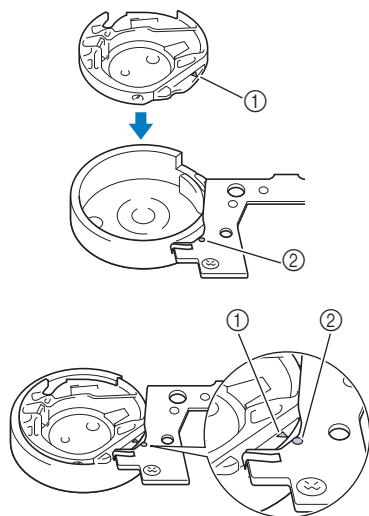


① ミシンブラシ

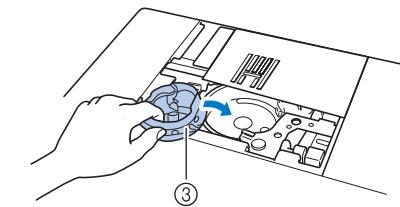
② 外かま

・ 内かまに油をささないでください。

9 内かまの▲印とミシンの●印が合うように、内かまを取り付けます。



・ ▲印と ●印を合わせます。



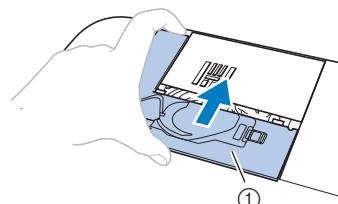
① ▲印

② ●印

③ 内かま

- ・ 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

10 針板カバーの突起を針板に差し込み、そのままミシンに取り付けます。



① 針板カバー

A 注意

- ・ 傷がついた内かまは使用しないでください。万一使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。新しい内かまが必要な場合は、最寄りの販売店にご連絡ください。
- ・ 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

A

お手入れ／困ったときには

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目および弊社サポートサイト（ブロザーソリューションセンター）（<http://support.brother.co.jp/>）の「よくあるご質問（Q&A）」を確認してください。それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」にご相談ください。

よくあるご相談

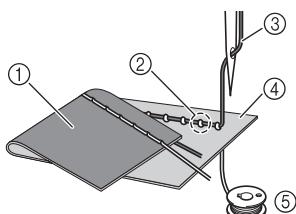
以下のよくあるご相談については、詳しい原因と対処方法を記載しております。お問い合わせの前にご確認ください。

上糸がつる	A-4 参照
布裏で糸がからまる	A-5 参照
糸調子が合わない	A-6 参照
布がミシンに入り込んでとれなくなった	A-7 参照
ボビン受け座の下に糸がからまってしまった	A-10 参照

上糸がつる

■ こんなとき

- 上糸がピンと一本線になっている。
- 布地の上側の面に下糸がポツポツと出ている（下図参照）。
- 上糸がつっていて、引くと抜けてしまう。
- 上糸がつっていて、布にしわがよってしまう。
- 上糸が強く、糸調子を調節して直してもまったく変わらない。



- ① 布地の下側の面
 ② 布地の上側の面に下糸が出ている
 ③ 上糸
 ④ 布地の上側の面
 ⑤ 下糸

■ 原因

下糸のセットがまちがっている

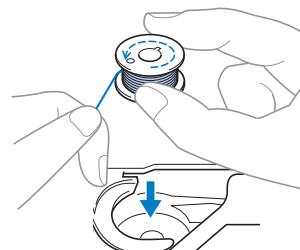
下糸のセットがまちがっていると、下糸に適正な張力が加わらず、上糸が引き上げられる際に布地まで一緒に引っ張られてしまいます。そのため、布地の上に糸が出てしまいます。

■ 対処方法／確認内容

下糸を正しくセットしなおします。

- 電源を切ります。
- いったんボビンを内かまから取り出します。
- 糸が正しい方向から出るように、ボビンを内かまにセットします。

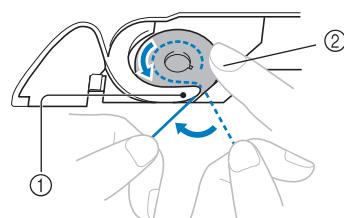
- 糸が必ず左巻きになるように、右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。そのまま右手でボビンを内かまに入れます。



糸が逆方向から出た状態でボビンをセットすると、正しい糸調子でぬうことができません。

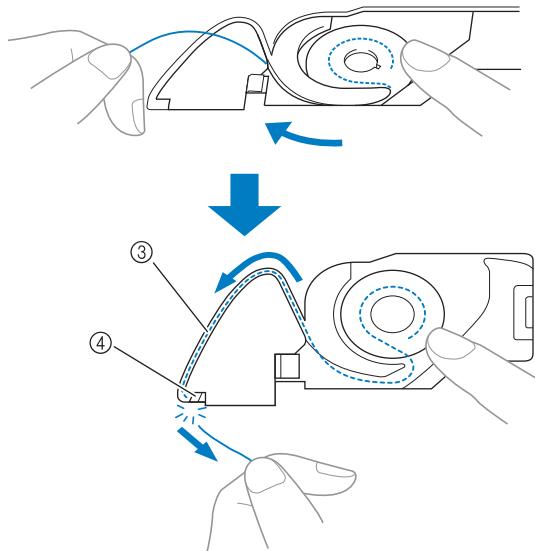
- ボビンを指で押さえながら糸を針板のミゾに通します。

- 右手でボビンを押さえ、左手で巻き終わりの糸をツメに引っかけます。



- ① ツメ
 ② 右手でボビンを押えます。

糸を引っぱりながら針板のミゾにそって糸を通し、最後に手前に引いてカッターで糸を切ります。



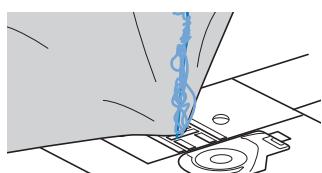
- ③ ミゾ
④ カッター

内かまにボビンの糸を正しくセットしなければ、正しい糸調子でぬうことができません。

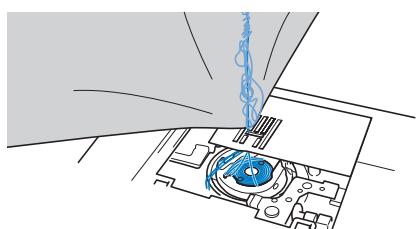
布裏で糸がからまる

■ こんなとき

- 布の下側で糸がグチャグチャにからんでしまう。



- ぬい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。
- 布地の下側を見ると、かまの中まで糸が何重にもからまっている。



■ 原因

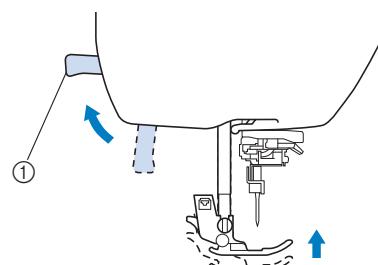
上糸のセットがまちがっている

上糸のセットがまちがっていると、布地を貫通した上糸をしっかりと引き上げることができず、かまの中に上糸がたまり、グチャグチャにからんでしまいます。

■ 対処方法／確認内容

からんだ糸を取り除き、上糸をセットしなおします。

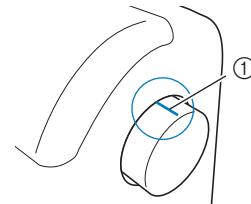
- からんだ糸を取ります。取れない場合は、はさみで糸を切れます。
 - A-2 の「かまの掃除」を参照してください。
- いったん上糸をミシンから取り外します。
 - ボビンを内かまから取り出した場合は、「基本機能編」の「下糸をセットする」、および A-4 の「上糸がつる」の「対処方法／確認内容」を参照して、正しくボビンをセットしてください。
- 以下の手順に従って、上糸をもう一度セットしなおします。押えレバーを使って抑えを上げます。



- ① 押えレバー
→ シャッターが開いて、糸通しできるようになります。
• 押えが上がっていなければ、正しく糸通しできません。

- ④(針上下スイッチ) を 1 回か 2 回押して針を上に上げます。

→ 針が確実に上がっているときは、プーリーのしるしが、下の図のように上になります。必ず、プーリーのしるしが上になっていることを確認してください。上になっていない場合は、④(針上下スイッチ) を押して、上にしてください。

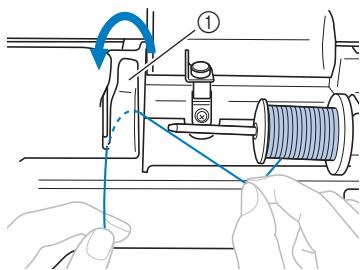


① プーリーのしるし

A

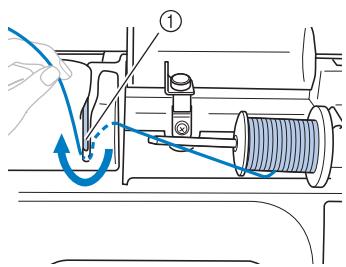
お手入れ／困ったとき

- 5** 引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



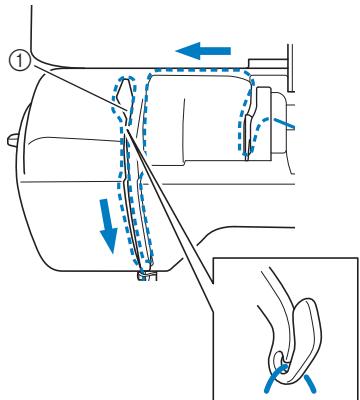
① 糸案内カバー

- 6** 糸案内板の下から上へ糸をかけます。



① 糸案内板

- 7** 引き出した糸をたるまないように右手で持ち、矢印のように、ミゾに沿って糸を通します。

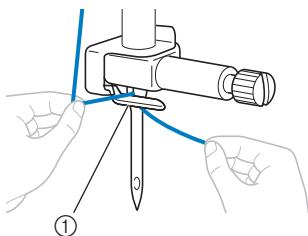


① シャッター

- 8** 電源を切ります。

- 9** 針棒糸かけに糸をかけます。

下の図のように左手で糸を押さえ、右手で糸端を持ってかけるとかけやすくなります。



① 針棒糸かけ

- 10** 糸通しレバーを使って、針に糸を通します。

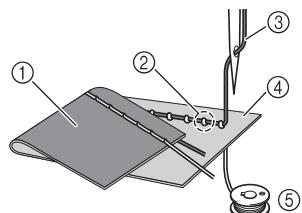
「基本機能編」の「針に糸を通す」の手順にしたがって、糸を通します。

糸調子が合わない

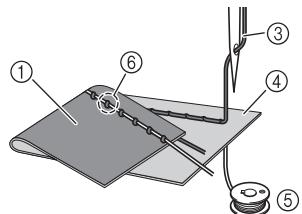
■ こんなとき

- 症状① 布地の上側にポツポツと下糸が出ている。
(下図参照)
- 症状② 布地の上側で上糸が直線になる。
- 症状③ 布地の下側にポツポツと上糸が出ている。
(下図参照)
- 症状④ 布地の下側で下糸が直線になる。
- 症状⑤ 布地の下側のぬい目がゆるい、またはたるむ。

□ 症状①



□ 症状③



① 布地の下側の面

② 布地の上側の面に下糸が出ている

③ 上糸

④ 布地の上側の面

⑤ 下糸

⑥ 布地の下側の面に上糸が出ている

■原因／対処方法／確認内容

□原因1

糸が正しくミシンにセットされていない。

<症状①、②に該当する場合>

下糸が正しくセットされていません。

上糸調子ダイヤルを「自動」に戻し、A-4の「上糸がつる」を参照してセットし直します。

<症状③～⑤に該当する場合>

上糸が正しく通っていません。

上糸調子ダイヤルを「自動」に戻し、A-5の「布裏で糸がからまる」を参照して上糸をかけ直します。

□原因2

布地に合った糸や針を使用していない。

ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分けが必要です。

布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合わなかったり、布地にしわが寄ったり、目とびの原因になったりします。

- 「基本機能編」の「布地と糸の種類による針の使い分け」の一覧表を参照して、布地に合った糸と針を使用しているか確認してください。

□原因3

上糸調子の設定値が適正でない。

適正な糸調子になるように調節します。

使用する布地／糸の種類やぬい方によって、適正な糸調子は異なります。

「基本機能編」の「糸調子を調節する」を参照してください。

- 実際にお使いになる布地の端切れで試しういをして、糸調子を調節してください。



お願い

- 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていない場合は、糸調子の調節が正しく行えません。上糸かけ、下糸セットの確認を行ってから、糸調子の調節を行ってください。

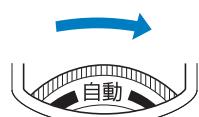
・布地の上側に下糸が見える場合

糸調子ダイヤルを左に回して、糸調子を弱くします。



・布地の下側に上糸が見える場合

糸調子ダイヤルを右に回して、糸調子を強くします。



布がミシンに入り込んでとれなくなってしまった

布がミシンに入り込んでとれない場合、糸が針板の下でからんでいることがあります。以下の手順で、布をミシンから取り外してください。操作が手順どおりに進まない場合は、無理に作業を続けず、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」にご相談ください。

■布をミシンから取り外す

1 直ちにミシンを停止させます。

2 電源を切ります。

3 針を取り外します。

針が布に刺さっている場合は、プーリーを奥側に回して針を布から外してから、針を取り外してください。

- 「基本機能編」の「針の交換」を参照してください。

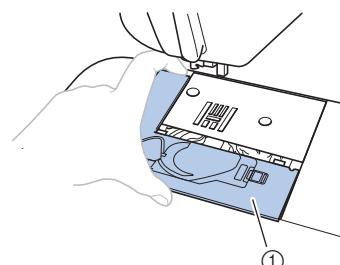
4 押えと押えホルダーを取り外します。

- 「基本機能編」の「押えを交換する」「押えホルダーを取り外す／取り付ける」を参照してください。

5 布を持ち上げて、布の下の糸を切ります。

ここで布を取り外すことができる場合は、取り外してください。次の手順へ進み、かまの掃除をします。

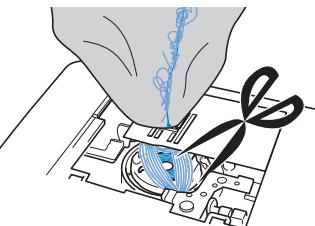
6 針板カバーを外します。



① 針板カバー

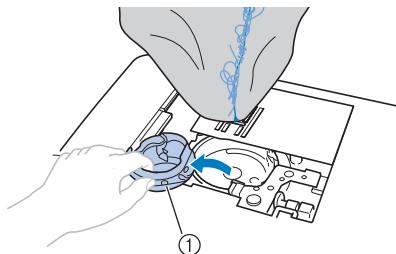
- A-2の「かまの掃除」を参照してください。

- 7** からんだ糸を切ってボビンを取り出します。



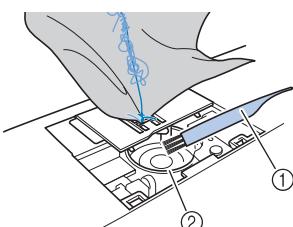
- 8** 内かまを取り出します。

内かまに糸が残っている場合は、取り除いてください。



① 内かま

- 9** 付属のミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。

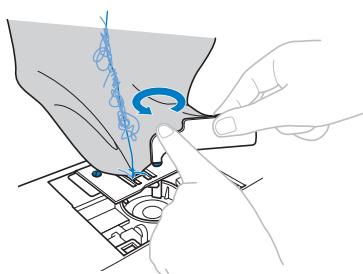


① ミシンブラシ

② 外かま

ここまで手順で布を取り外せた場合	→手順 16 に進む
ここまで手順で布が取り外せない場合	→手順 10 に進む

- 10** 付属のL型ネジ回し（またはネジ回し）を使って、針板の2つのネジを取り外します。

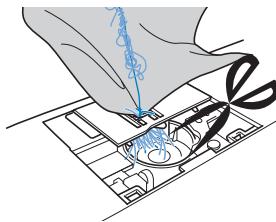


お願い

- 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

- 11** 針板を少し持ち上げ、絡んだ糸を切って、針板を取り外します。

針板から布と糸を取ります。



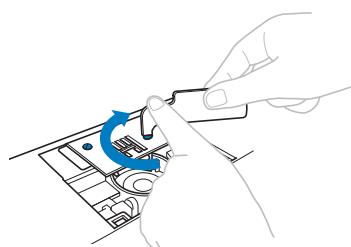
ここまで手順を終えても布が取り外せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」にご相談ください。

- 12** かまや送り歯のまわりの糸を取り除きます。

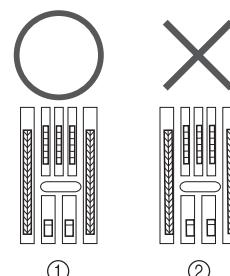
- 13** プーリーを回して、送り歯を上に上げます。

- 14** 針板の2つのネジ穴を針板取付け部の2つの穴に合わせながら、ミシンに針板をはめ込みます。

- 15** 針板の右側のネジを手で軽くしめます。次に、左側のネジをL型ネジ回し（またはネジ回し）でしっかりとしめます。最後に右のネジもしっかりとしめます。



プーリーを回して、送り歯が針板のミゾの端に当たらず、スムーズに動くことを確認してください。



① 正しい送り歯の位置

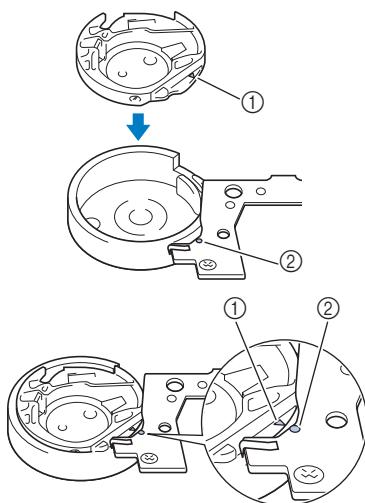
② 正しくない送り歯の位置



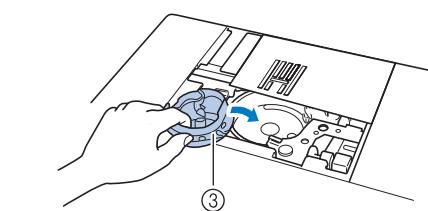
お願い

- 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

- 16 内かまの▲印とミシンの●印が合うように、内かまを取り付けます。



- ▲印と●印を合わせます。



- ① ▲印
② ●印
③ 内かま

- 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。



▲ 注意

- 傷がついた内かまは使用しないでください。万一使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。新しい内かまが必要な場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

- 17 针板カバーを取り付けます。(A-2の「かまの掃除」の手順⑩を参照してください。)

- 18 針の状態を確認して、針をミシンに取り付けます。

曲がっているなど針が悪くなっている場合は、必ず新しい針を取り付けてください。

- 「基本機能編」の「正しい針の見分け方」「針の交換」を参照してください。



▲ 注意

- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因になります。



お願い

- ここまで手順を終えたあとは、ミシンが正しく動くように、以降の「ミシンの動作を確認する」の手順を続けてください。



お知らせ

- 布がミシンに入り込んだ際に、針が損傷しているおそれがありますので、新しい針に交換することをお勧めします。

A

お手入れ／困ったときには

■ ミシンの動作を確認する

針板を取り外したあとは、正しく取り付けられていることを確認するために、ミシンの動作確認をしてください。

- 1 電源を入れます。

- 2 中基線の模様[□]を選択します。

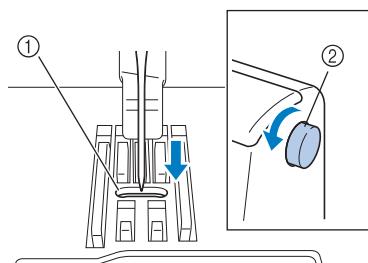


お願い

- 押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。

- 3 プーリーをゆっくりと手前に回し、針が針板の穴の中央に落ちることを左右前後から見て確認します。

針が針板に当たる場合は、もう一度針板を取り外し、A-7の「布をミシンから取り外す」の手順⑬からやり直してください。



- ① 針板の穴
② プーリー

4 ジグザグ模様を選択します。このとき、ぬい目の長さとジグザグの振り幅を最大にしてください。

- 設定の変更については、「基本機能編」の「振り幅を調節する」「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。

5 プーリーをゆっくりと手前に回し、針棒と送り歯が正しく動くことを確認します。

針や送り歯が針板に当たる場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

6 電源を切ってから、ボビンと押えをセットします。

- 「基本機能編」の「下糸をセットする」「押えを交換する」を参照してください。

7 上糸をかけなおします。

- 「基本機能編」の「上糸通し」を参照してください。



お知らせ

- 上糸が正しくセットされていなければ、糸がらみの原因になります。正しく上糸をセットしてください。

8 普通地で試しひいをします。

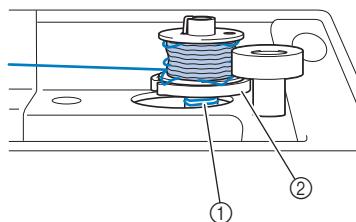


お願い

- 正しくねえない場合、原因として、上糸が正しくセットされていないことや薄い布地を使用していることが考えられます。試しひいの仕上がりが良くない場合は、上糸のかけ方やお使いの布地を確認してください。

ボビン受け座の下に糸がからまってしまった

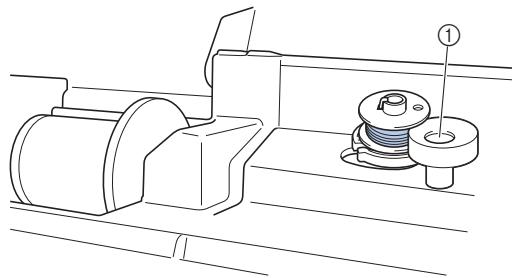
糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていない状態で下糸を巻くと、ボビン受け座の下に糸が巻かれてしまうことがあります。そうなった場合は、以下の手順に従ってボビン受け座の下に巻かれた糸をほどいてください。



① 糸
② ボビン受け座

⚠ 注意

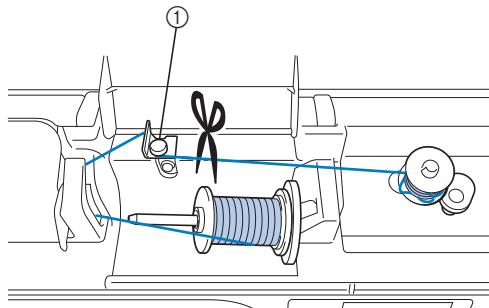
- ボビン受け座の下に糸が巻かれても、ボビン受け座は外さないでください。受け座のカッターだけがをするおそれがあります。
- ボビンホルダーのネジは外さないでください。外すと、ミシンが故障するおそれがあります。ネジを外しても、糸はほどけません。



① ボビンホルダーのネジ

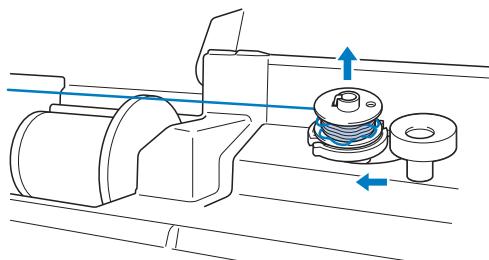
- 1 ボビン受け座の下に下糸がからまり始めたら、スタート/ストップスイッチを1回押して下糸巻きを停止します。
フットコントローラーで操作している場合は、フットコントローラーから足を離します。

- 2 下糸巻き案内側で、はさみで糸を切ります。

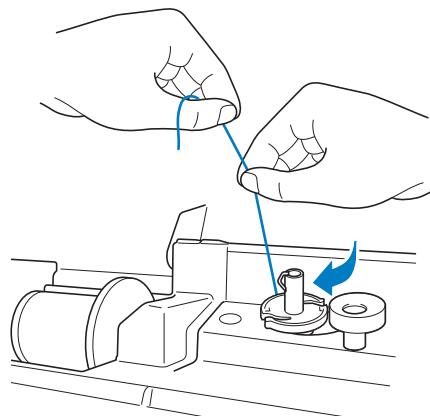


① 下糸巻き案内

- 3 ボビンを左側へ戻し、下糸巻き軸からボビンを抜きます。ボビンと軸の間で糸を切り、ボビンを軸から完全に取り外します。



- 4 図のように左手で糸端を持ち、右手でボビン近くの糸をゆっくりと時計回りに回して、からまった糸をほどきます。



- 5 下糸巻きをやり直します。



お願い

- 糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていることを確認してください。

A

お手入れ／困ったときには

こんなときは

修理を依頼される前に、次の項目を点検してください。それでも直らないときは、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ ぬう前の準備

症状	原因	対処	参照ページ
糸通しができない 針穴に糸が通らない	針が正しい位置にない。	針上下スイッチを押して針を上げます。	B-3
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-24
	針が曲がっている。	新しい針に交換します。	B-24
	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-18
	糸通しつックが曲がっていて針穴に通っていない。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	-
	糸通し装置が動かない。糸通し装置が戻らない。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	-
	9番の針を使っている。	糸通し装置に対応しない針です。手で糸を針穴に通してください。	B-21
下糸がボビンにきれいに巻けない	下糸巻き案内に糸がしっかりとかかっていない。	下糸巻き案内に糸をしっかりとかけます。	B-12
	ボビンの回転が遅い。	スピードコントロールレバーを「はやく」にします。	B-12
	引き出した糸を正しく巻き付けていない。	引き出した糸は、時計回りに 5 ~ 6 回ボビンに巻き付けます。	B-12
	ボビンが下糸巻き軸に正しくセットされていない。	ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせて、ボビンをカチッと音がするまで押し込みます。	B-12
下糸巻き中、ボビン受け座の下に下糸が巻かれた	下糸の巻き方がまちがっている。	受け座の下に巻かれた糸をほどいた後、下糸を正しく巻きます。糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていることを確認してください。	B-12, A-10
下糸を引き出すことができない	針が曲がっている。	新しい針に交換します。	B-24
	下糸のセットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-15
液晶画面に何も表示されない	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れます。	B-7
	電源プラグがコンセントに差し込まれていない。	電源プラグをコンセントに差し込みます。	B-7
	液晶画面の明るさが明るすぎる、または暗すぎる。	液晶画面の明るさを調整します。	A-18
液晶画面がくもる	液晶画面が結露している。	少し待つと、くもりはなくなります。	-
操作キーを押しても動かない	手袋をはめた手でキーを押している。 つめでボタンを押している。 静電容量式に対応していないタッチペンを使っている。	• 操作キーは指で直接押してください。 • 市販のタッチペンを使用するときは、静電容量式に対応したものを使用してください。	B-4
操作キーを押しても動かない、またはキーの反応が強すぎる	操作キーの感度が、使用される方に合っていない。	操作キーの感度を調節します。	B-11
ライトが点灯しない	ライトが故障した。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	-
	設定画面で「ライト」が OFF に設定されている。	設定を ON にします。	B-10

■ ぬっているとき

症状	原因	対処	参照ページ
ミシンが動かない	スタート/ストップスイッチを押していない。	スタート/ストップスイッチを押します。	B-29
	下糸巻きを行った後、下糸巻き軸が右側のままになっている。	下糸巻き軸を左側に戻します。	B-12
	押えが下がっていない。	押えを下げます。	B-29
	フットコントローラーを接続したままスタート/ストップスイッチを押している。	フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。フットコントローラーを使ってミシンを操作してください。スタート/ストップスイッチを使用する場合は、フットコントローラーを取り外してください。	B-30
	スピードコントロールレバーがジグザグの振り幅を調節するように設定されている（「振幅コントロール」がONになっている）ときに、スタート/ストップスイッチを押している。	スタート/ストップスイッチではなく、フットコントローラーを使って、ミシンを操作します。または、設定画面で「振幅コントロール」をOFFにします。	B-9, B-30
針が折れる	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-24
	針のとめネジがゆるんでいる。	とめネジをしっかりしめます。	B-24
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-24
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-23
	模様に合った押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-27
	上糸調子が特に強すぎる。	糸調子を調節します。	B-35
	布地を不当に引っ張っている。	布地を引っ張らないようにします。	-
	糸こまが正しくセットされていない。	糸こまの付け方を確認して、付け直します。	B-12
	針板の穴の周辺にキズがある。 ※ 針板の穴の左端には、くぼみが設けられています。この部分はキズではありません。	針板を交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。 	A-7
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	B-26
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-2
	針が劣化・消耗している。	新しい針に交換します。	B-24
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違うボビンでは正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	B-12
	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-18
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-15
	押えの取り付けがまちがっている。	押えを正しく取り付けます。	B-26
	押えホルダーのネジがゆるんでいる。	押えホルダーのネジを確実にしめます。	B-27
	布地が厚すぎる。	ブーリーを手で回して針が布地に通ることを確認してください。	B-23, S-4
	厚い布地などを縫製中に布地を押しこんでいる。	無理に布地を押しこまないようにしてください。	S-4
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目をあらくします。	B-34
	下糸が正しく巻かれていません。	下糸を正しく巻きます。	B-12

A

お手入れ／困ったとき

症状	原因	対処	参照ページ
上糸が切れる	上糸の通し方がまちがっている（糸こまが正しくセットされていない、糸こま押えの大きさが合っていない、糸が針棒糸かけから外れているなど）。	糸を正しく通します。	B-18
	糸にこぶや結び目がある。	糸のこぶや結び目を取り除きます。	-
	針に比べて糸が太すぎる。	針と糸の組み合わせを確認します。	B-23
	上糸調子が強すぎる。	糸調子を調節します。	B-35
	糸がからまっている。	かまなどにからんだ糸をはさみなどで切って取り除きます。	A-5
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-24
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-24
	針板の穴の周辺にキズがある。 ※ 針板の穴の左端には、くぼみが設けられています。この部分はキズではありません。	針板を交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。 	A-7
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	B-26
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-2
布裏で糸がからまる	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-23
	糸が結ばれたり、からんだりしている。	上糸と下糸を通しなおします。	B-12, B-18
上糸がつる	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違うボビンでは正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	B-12
	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-18, A-5
下糸が切れる	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-23
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-15, A-4
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-15
	下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻きます。	B-12
	ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換します。	B-15
布地にしわがよる	糸がからまっている。	かまなどにからんだ糸をはさみなどで切って取り除きます。	A-7
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違うボビンでは正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	B-12
	上糸の通し方、または下糸のセットのしかたがまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。または、下糸を正しくセットします。	B-15, B-18
	糸こまが正しくセットされていない。	糸こまの付け方を確認して、付け直します。	B-13
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-23
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-24
	薄地に対してぬい目があらすぎる。	ぬい目を細かくします。	B-34
模様に合った押えを使用していない。	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	B-35
	模様に合った押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-27

症状	原因	対処	参照ページ
ぬい目が飛ぶ	糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-18
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-23
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-24
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-24
	針が劣化・消耗している。	新しい針に交換します。	B-24
	針板の下にゴミがたまっている。	ミシンブラシなどでゴミを取り除きます。	A-2
	薄い布地や伸びる布地をぬっている。	布地の下に薄い紙をしいてねいます。	S-4
ぬい目ができない	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-24
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-15
	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-18
ぬい音が高い ガタガタと音がする	送り歯にゴミがたまっている。	ゴミを取り除きます。	A-2
	かまの部分に糸くずが巻きこまれている。	かまの掃除をします。	A-2
	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-18
	本機純正のボピンを使用していない。	厚みの違うボピンでは正しく動作しません。 本機純正ボピンを使用してください。	B-12
	内かまに針が刺さった穴やスリキズがある。	内かまを交換します。お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-2
布地を送らない	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを右（▲▲）に動かします。	B-2
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目の長さを長くします。	B-34
	模様に合った押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-27
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-24
	糸がからまっている。	かまなどにからんだ糸をはさみなどで切って取り除きます。	A-7
	ぬい始めに段差があって、ジグザグ押えが傾いている。	ジグザグ押え＜J＞の押え固定ピンで押えを水平にしてねします。	S-4
布地が逆方向に送られる。	送り機構が故障した。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	-
針が針板に当たる	針のとめネジがゆるんでいる。	針のとめネジをしっかりとしめます。針が曲がっている場合や針先がつぶれている場合は新しい針に交換します。	B-24
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-24
布がミシンに入り込んでとれない	糸が針板の下でからんでいる。	布を持ち上げて、布の下の糸を切れます。次にかまの掃除をします。	A-7
折れた針がミシンの中に落ちた	-	ミシンの電源を切ってから、針板を外します。 ミシンの中に落ちた針が見える場合は、ピンセットなどで取り出します。針を取り出したら、針板を元に戻します。 電源を入れる前に、ブーリーを手でゆっくり手前に回してなめらかに回るか確認してください。 ブーリーがなめらかに回らない場合やミシンの中に落ちた針を取り出せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-7
ブーリーを回したときに重い	糸がかまなどにからんでいる。	かまにからんだ糸を取り除きます。内かまを正しい位置に取り付けなおします。	A-5, A-7
模様が正しくぬえない	模様に合った押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-27
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	B-35, A-6
	内かまなどで糸がからまっている。	からまつた糸を取り除きます。内かまにからんでいる場合は、かまを掃除します。	A-7
	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを右（▲▲）に動かします。	B-2

A

お手入れ／困ったときは

■仕上がり

症状	原因	対処	参照ページ
糸調子が合わない	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-18
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸をセットし直します。（針板を取り外した場合は、針板を取り付けし直し、内かまを取り付ける前に針板のネジを確実にしめます。）	B-15, A-2
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-23
	押えホルダーが正しく取り付けられていない。	押えホルダーを正しく取り付けます。	B-27
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	B-35, A-6
	下糸が正しく巻かれていません。	下糸を正しく巻きます。	B-12
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-24
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違うボビンでは正しく動作しません。 本機純正ボビンを使用してください。	B-12
模様がくずれる	模様に合った押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-27
	薄地や伸びる布地なのに芯を貼っていない。	布地に接着芯を貼ります。	S-4
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	B-35, A-6
	ぬっている途中で布地を引っ張ったり押さえたり、布地がずれたりしている。	布地がまっすぐ送られるように、布に手を軽く添えてねします。	B-29
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	A-7

エラーメッセージ

誤った操作をしたときは、ミシンが止まり、エラーメッセージでお知らせします。エラーメッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

表示中のエラーメッセージは **OK** を押すか、正しい操作をすると消えます。

	エラーメッセージ	原因／対処
1	① 押えレバーを下げてください。	押えが上がっている状態で、スタート／ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
2	① 下糸巻き軸を左に戻してください。	下糸巻き軸を右にした状態で返しづらいスイッチ、止めぬいスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
3	▲ 説明書の「エラーメッセージ」をみてください。	上糸がかまにからんだり、針が曲がって針板に当たったなどでミシンが停止したときに表示されます。 A-12 の「こんなときは」を参照してください。
4	▲ 電源スイッチを切ってから針板を交換してください。	別売の直線針板を取り付けた状態で、直線（中基線）以外の模様を選択しようとしたときに表示されます。

A

お手入れ／困ったときに

	エラーメッセージ	原因／対処
5	▲針板カバーを取り付けてください。	ミシンの電源を入れたまま針板カバーを取り外したときに表示されます。
6	①フットコントローラーをはずしてください。	フットコントローラーを取り付けた状態で、スタート／ストップスイッチを押したときに表示されます。
7	①振幅コントロールをOFFにしてください。	スピードコントロールレバーがジグザグの振り幅を調節するように設定されている状態でスタート／ストップスイッチを押したときに表示されます。 ※ (振幅コントロール) を OFF にする (B-10 参照) か、またはフットコントローラーでミシンを操作してください。
8	①ボタン穴かがりレバーを上げてください。	ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがり以外の模様を選んで、スタート／ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
9	①ボタン穴かがりレバーを下げてください。	ボタン穴かがりレバーが上がった状態で、ボタン穴かがりの模様を選んで、スタート／ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
10	F** (** の部分は、2桁の数字)	ミシンが故障していることが考えられますので、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」までお問い合わせください。

電子音

キーを操作しているときや、誤った操作をしたときなどに、電子音が鳴ります。

■ 正しい操作をしたとき

「ピッ」と鳴ります。

■ 誤った操作をしたとき

「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。

■ 糸がからむなど、ミシンがロックしたとき

「ピッピッピッピッ・・・」と4秒間鳴り続け、ミシンは自動的に止まります。

必ず原因を確認して改善してから、縫製を再開してください。

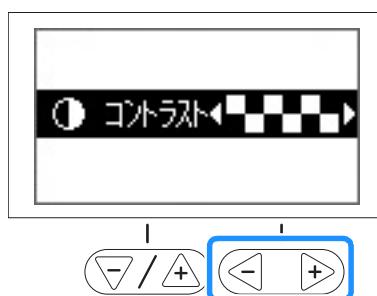
■ 電子音を消したいとき

- 1 設定画面で3ページを表示して、喇叭(ブザー)を選択し、「OFF」に設定します。

液晶画面に何も表示されないとき

電源を入れても液晶画面に何も表示されないときは、液晶画面の明るさが明るすぎる、または暗すぎるときです。その場合は、次の操作をしてください。

- 1 電源を切ります。
- 2 ⓧ(止めぬいスイッチ) を押しながら、電源を入れます。
- 3 ◎を押して、画面のコントラストを調整します。



- 4 もう一度電源を切って、電源を入れ直します。

仕様

項目	仕様
本体寸法	48.0cm(幅)×30.0cm(高さ)×24.9cm(奥行)
製品質量	9.5kg
ぬい速度	毎分70~850針
針	家庭用ミシン針(HA×1)
定格電圧／消費電力	100V(50/60Hz)/55W
ライト	白色LED

* 仕様は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

索引

あ

- 厚い布地をぬう S-4
アプリケ S-22

い

- 糸案内板 B-2
糸切り B-2, B-30
糸切りスイッチ B-3
糸こま押え B-2, B-13
糸こまネット B-13
糸たて棒 B-2, B-12, B-19
糸調子 B-35, A-6
糸調子ダイヤル B-2
糸通し
 上糸通し B-18
 手で針に糸を通す B-21
 針に糸を通す B-20
糸通し装置 B-20
糸通しレバー B-2, B-20

う

- ウィングニードル S-32
上糸 B-18
上ふた B-2
ウォーキングフット S-5, S-24
薄い布地をぬう S-4
内かま B-3
 セット A-2
 取り外し A-2

え

- 液晶画面
 掃除 A-2
 何も表示されない A-18
 見方 B-8
エラーメッセージ A-16

お

- 送り歯 B-3
押え
 交換 B-26
 種類 B-27, B-37
押え圧ダイヤル B-2, S-3
押えホルダー
 押えホルダーのネジ B-3
 取り付け B-27
 取り外し B-27
押えレバー B-2
お手入れ A-2

か

- カーブをぬう S-2
返しぬい／止めぬい B-31
返しぬいスイッチ B-3, B-31
各部の名称とはたらき B-2
かま A-2
換気口 B-2
かんどめ S-27

き

- 基本のぬい方 B-28
キルティング S-24

<

- クレイジーキルト S-23

こ

- コツ S-2
困ったとき A-4

さ

- サテンぬい S-26
皿 B-14, A-10
3重ぬい模様 S-6, S-27

じ

- ジグザグの振り幅 B-34
ジグザグ模様 S-11, S-22
下糸
 引き出す B-22
 巻く B-12
下糸巻き案内 B-2, B-12
下糸巻き装置 B-2
自動糸切り B-32
丈夫にしたいところをぬう S-27

す

- スカラップ S-31
すそ上げ S-7
スタート／ストップスイッチ B-3
スピードコントロールレバー B-3, S-26
ズボンのすそ S-2
スマッキング S-31

せ

- 設定
 画面の言語 B-11
 自動返しぬい／止めぬい B-31
 操作キーの感度 B-11
 模様 B-34
設定画面 B-9

そ

- 操作キー B-4
操作スイッチ B-3
操作パネル B-2, B-4
掃除
 かま A-2
 画面の汚れ A-2
 ミシンの汚れ A-2

た

- 台皿 S-13
たち目かがり S-10, S-11
試しぬい S-2

ち

- 直線模様 S-6, S-16

つ

- つくろいぬい（ダーニング） S-28
筒もの S-2

A

お手入れ／困ったとき

て

手で針に糸を通す	B-21
電源コード	B-2, B-7
電源スイッチ	B-2, B-7
電子音	A-18

と

止めぬいスイッチ	B-3, B-31
トラブルシューティング	A-4
ドロップレバー	B-2, S-25

に

ニット用針	B-23
-------	------

ぬ

ぬい方	
いろいろなぬい方	S-6
基本のぬい方	B-28
ぬいしろの幅をそろえる	S-3
ぬい目の長さ	B-34
ぬう方向を変える	S-2

の

伸びる布地をぬう	S-5
----------	-----

は

パッチワーク	S-22, S-23
針	
糸通し	B-20
交換	B-24
正しい針の見分け	B-24
使い分け	B-23
針位置	S-6
針板	B-3
目盛り	S-3
針板カバー	B-3
針板ふた	B-3, B-15
針上下スイッチ	B-3
針棒糸かけ	B-3
ハンドル	B-2

ひ

ピーシング	S-23
ビニールや皮革をぬう	S-5

ふ

プーリー	B-2
ファゴティング	S-30
ファスナーつけ	S-16
片返し	S-17
つき合わせ	S-16
ブザー	A-18
付属品	B-5
付属品収納スペース	B-4
フットコントローラー	B-30
フットコントローラージャック	B-2, B-30
フリーモーションキルト	S-25
振り幅	B-34
プログラム糸切り	B-32

^

ヘアルーム	S-32
別売品	B-5

ほ

補助テーブル	B-2, B-4
ボタン穴かがり	S-12
ボタン穴かがりレバー	B-3, S-13
ほつれ止め	S-10
ボピン	
純正品	B-12
セット	B-15

み

ミシンの汚れ掃除	A-2
----------	-----

め

メッセージ	A-16
-------	------

も

模様	
設定	B-34
設定値	B-37
設定の記憶	B-36
選択	B-28

り

リッパー	S-14
------	------

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室（ミシン119番）」にご相談ください。

■ お客様相談室（ミシン119番）

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室（ミシン119番） Tel : 050-3786-1134

050（ゼロ ゴー ゼロ）で始まる電話番号です。

Fax : 052-824-3031

受付時間：月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:30

休業日：土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室（ミシン119番）は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室（ミシン119番）」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。

<http://www.brother.co.jp/>

弊社サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）では、製品に関するサポート情報をお掲載しております。

<http://support.brother.co.jp/>

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1 〒467-8561

888-F20/F30

Printed in Vietnam



XG0420-201②